

TOYO UNIVERSITY

東洋

2013 平成25年度



東洋大学雨水会報
Vol.153

目次

平成25年度 浦水会会長挨拶	1
----------------	---

東洋大学浦水会会長

村田 薫

浦水会役員名簿	2
---------	---

本部役員・評議員・顧問

支部役員

東洋大学が目指すもの	5
------------	---

学校法人東洋大学理事長

福川 伸次

未来への挑戦	6
--------	---

東洋大学学長

竹村 牧男

主体的な学び・学生の本分とは何か	7
------------------	---

学校法人東洋大学常務理事

浦水会常任理事

大熊 廣一

学部だより	8
-------	---

金沢散策

文学部長

中山 尚夫

経済学部における就職・キャリア支援活動

経済学部長

小川 芳樹

学習支援について

経営学部長

旭 貴朗

倒産とは、破産とは

―倒産と破産の違いについて―

法学部長

櫻本 正樹

東日本大震災子ども支援を考える

社会学部長

森田 明美

理工学部の基礎教育と国際化

理工学部長(兼)工学部長

吉田 泰彦

総合情報学部の再生に向けて

総合情報学部長

杉本 富利

グローバル化を推進する国際地域学部

国際地域学部長

藤井 敏信

生命科学部の取り組み

生命科学学部長

岡崎 渉

平成25年度に新設した学部「食環境科学部」	
-----------------------	--

食環境科学部長

林 清

社会貢献活動の中で培う実践力

ライフデザイン学部長

白石 弘巳

平成二十五年 四校舎「浦水懇談会」	19
-------------------	----

白山校舎浦水懇談会に協力して

教務部法学部教務課課長

吉田 和弘

川越校舎浦水懇談会に協力して

川越事務部教務課課長

須田 文子

板倉校舎浦水懇談会に協力して

板倉事務部板倉事務課課長

吉田 邦子

平成二十五年「朝霞校舎浦水会懇談会」に協力して

朝霞事務部部長

柴田 幹男

白山校舎浦水懇談会に出席して

東洋大学浦水会副会長

須田 龍一

平成二十五年 支部総会(浦水懇談会)に出席して	24
-------------------------	----

理工学部長(兼)工学部長

吉田 泰彦

学生部学生生活課課長

市橋 敏之

浦水会新潟県支部前支部長

荒川 和夫

藤原 稔

大学事務局から	28
---------	----

大学の教育・学習の仕組み(白山・川越・板倉・朝霞)

教務部

川越事務部教務課主任

笠原 隆

板倉事務部板倉事務課

朝霞事務部朝霞事務課主任

小澤 一善

学生部の窓口から

輝く学生生活、サークル・課外活動

学生部長(法学部教授)

小林 秀年

就職関係

就職・キャリア支援部部長

深野 弘美

納付金(学費等)について	48
--------------	----

経理部財務課

入学試験情報	49
--------	----

入試部部長

加藤 健二

浦水会活動	50
-------	----

平成24年度浦水会活動報告

平成24年度事業報告

平成24年度会計報告

平成25年度浦水会活動計画	56
---------------	----

平成25年度事業計画

平成25年度予算書

平成25年度浦水懇談会・支部総会報告	59
--------------------	----

平成26年度浦水懇談会・支部総会開催組合せ及び日程

平成25年度浦水会「会員の集い」・就職活動フォーラムを開催して	60
---------------------------------	----

～東洋大学を感じてください～

学生総合補償制度のご案内	61
--------------	----

東洋大学浦水会副会長

永名 淳悟

キャンパスガイド	62
----------	----

白山キャンパス

川越キャンパス

板倉キャンパス

朝霞キャンパス

運動部・会員の集い・就職活動フォーラム写真

体育後援会だより

体育後援会強化部の活動状況

東洋大学体育後援会の支援について

72

71

70

67

本文中の写真は東洋大学広報課その他提供



平成25年度 甬水会会長挨拶

東洋大学甬水会会長 村田 薫

会員の皆様方には平素から甬水会本部及び支部活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成25年度会長に推挙されました東京都城北支部所属の村田 薫です。

誠に大任ではありますが、1年間甬水会の運営に全力で取り組む所存ですので、宜しくお願い致します。

さて、甬水会は1959年(昭和34年1月)に「父母の会」として発足し、今年で54年目を迎えた歴史と伝統のある会です。

会は、1994年(平成6年)に学祖である井上円了先生の出身地を由来とした雅号の名を頂き「甬水会」と改称いたしました。

甬水会活動の目的は「学生の父母または保護者相互間の連絡を密にし、大学の興隆発展に協力すると共に大学と協力して、学生の心身の健全な発達をはかることを目的」として組織されています。

会の運営については、時代の流れや会員の皆様のニーズにあった運営を心がけております。

平成25年度の本部行動指針は、新鮮な発想と果敢な行動をキーワードに、与えられた諸事業を展開して参ります。

甬水会の活動は諸先輩方が築き上げた独自の

活動が特徴です。

白山キャンパスにある本部を中心として、北海道から沖縄県までの全国59支部がそれぞれの地域性を加味した特色のある活動を行っております。

甬水会の中心的な事業として、毎年6月～7月には「甬水懇談会」を白山・板倉・川越・朝霞の4キャンパスで皮切りに、全国各地の支部で行なっております。

更に、甬水会創立50周年を機に始めました「会員の集い・就職活動フォーラム」を、毎年10月に実施しています。

「会員の集い・就職活動フォーラム」は全国各地の会員の方にお集まり頂き、初日はお子様の生活基盤となっている各キャンパスまで白山からバスでご案内しています。

日頃ご指導頂いております本学の教職員の方々と接する機会を利用して頂き、交流・親睦を深めています。

2日目は、近年就職について本学でも教職員、学生本人の努力にも拘らず、厳しい現実を突きつけられています。

甬水会としても重要課題として捉え、大学の関係者・卒業生等に協力依頼し就職の情報収集と支援プログラムとして企画いたしました。

ところで、東洋大学は1887年(明治20年)に学祖井上円了先生により哲学館として創設されました。本年は創立150周年に向けての新たな一歩を踏み出しました。

グローバル人材を育成する3つの柱(哲学教育・グローバル教育・キャリア教育)を掲げて全学挙げた取り組みをしています。

今、スポーツ活動に目を向けてみますと、国際大会でも多くの選手が活躍しています。

第14回世界陸上競技大会20キロ競歩6位・西塔拓巳選手(経済学部)

第27回ユニバーシアードハーフマラソン出場・設楽悠太選手(経済学部)

レスリング世界ジュニア選手権51キロ級女子フリースタイル優勝・宮原優選手(社会学部)

同67キロ級女子フリースタイル3位・鈴木紅葉選手(社会学部)

世界水泳2013 400m自由形、個人メドレー200m2位・荻野公介選手(文学部)

第27回ユニバーシアード射撃女子伏射60発競技優勝・砥石真衣選手(法学部)

今年の4月から8月末までの国際大会でも目覚ましい活躍を見せてくれました。

最後になりますが、会員の皆様方のご健勝・ご活躍を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

● 浦水会 役員名簿 ●

本部役員

役職名	氏名	支部名
会長	村田 薫	城北
副会長	永名 淳悟	千葉東
副会長	須田 龍一	茨城
常任理事	大熊 廣一	大学推薦
常任理事	末継 宏樹	埼玉中
常任理事	三宅 和宏	多摩
常任理事	菅原 勝朗	埼玉東
常任理事	石橋 恵美子	埼玉北
常任理事	鐘撞 眞由美	城東
監事	永井 博之	埼玉南
監事	小笠原 信子	神奈川
理事(北海道)	田中 由彦	札幌
理事(東北)	海老名 義弘	青森
理事(関東)	豊田 悦見	栃木
理事(甲信越)	堀内 正樹	長野
理事(北陸)	小堀 邦広	富山
理事(東海)	高橋 真一	愛知
理事(近畿)	中川 真一	兵庫
理事(中国)	九十九 賢一	広島
理事(四国)	正岡 成司	高知
理事(九州)	藤原 稔	宮崎

評議員

会則第20条2項(支部長)

氏名	支部名
田中 由彦	札幌
児玉 英一	函館
河野 睦子	旭川
津幡 優子	北見
今野 博之	室蘭
田中 昌之	釧路
海老名 義弘	青森
菅原 真一	岩手
平間 奈緒美	宮城
平川 祐作	秋田
柏倉 喜之	山形
松本 吉弥	福島
小松崎 伸	茨城
豊田 悦見	栃木
小坂橋 俊雄	群馬
高橋 信介	埼玉北
安田 桂子	埼玉中
内藤 渉	埼玉東
内田りえ子	埼玉南
松隈 佳代	千葉東
櫻井 亨子	千葉西
吉原 弘記	城東
宮島 久見子	城西
目黒 由美子	中央
田胡 路代	城北

氏名	支部名
佐伯 弘子	多摩
小笠原 誠	神奈川
田井 八重子	新潟
中込 幸二	山梨
堀内 学	長野
小堀 正樹	富山
町方 圭子	石川
山崎 正弘	福井
武藤 伸介	岐阜
脇坂 健	静岡
高橋 邦広	愛知
伊藤 まゆ美	三重
横谷 賢	京都
大川 泰司	大阪
中川 真一	兵庫
松井 淳子	和歌山
濱田 義明	鳥取
錦織 雅夫	島根
黒田 文浩	岡山
九十九 賢一	広島
山中 義介	山口
藤川 弥生	徳島
天雲 和千	香川
富田 耕治	愛媛
正岡 成司	高知
原野 弘典	福岡
福井 俊雄	佐賀

会則第20条2項
(1,000名を超える支部)

氏名	支部名
竹下 勉	長崎
三島 善照	熊本
吉良 弘	大分
藤原 稔	宮崎
山方 直子	鹿児島
楚南 兼弘	沖縄

氏名	支部名
橋本 裕樹	茨城
下村 圭佑	埼玉中
粕谷 真知子	埼玉東
寺脇 寛	埼玉南
半澤 敏子	千葉東
松永 志津枝	千葉西
勝見 博	城北
佐藤 幸市	多摩
鳥越 剛	神奈川

顧問

氏名	支部名
竹内 光男	埼玉北
塩原 裕美	千葉西
大塚 文子	城東

支部役員

北海道地区

地区長(札幌)田中 由彦

●札幌

支部長	田中 由彦
副支部長	松本 裕美

●函館

支部長	児玉 英一
副支部長	北村 暢一

●旭川

支部長	河野 睦子
副支部長	堀内真由美
副支部長	吉田 勝弘

●北見

支部長	津幡 優子
副支部長	大坪 昌広
副支部長	外崎 芳孝

●室蘭

支部長	今野 博之
副支部長	藤原 佳恵
副支部長	今村 孝一

●釧路

支部長	田中 昌之
副支部長	澤崎 晋司

東北地区

地区長(青森)海老名義弘

●青森県

支部長	海老名義弘
-----	-------

副支部長	渡邊 千代
副支部長	小館 澄枝
副支部長	福沢 秀己

●岩手県

支部長	菅原 真一
副支部長	新沼 成二

●宮城県

支部長	平間奈緒美
副支部長	伊藤 益義
副支部長	中島 ふみ
副支部長	紺野由美子
副支部長	齋藤 禎子
副支部長	関 和美
副支部長	三方 雅仁

●秋田県

支部長	平川 祐作
副支部長	渡辺 博之
副支部長	照井 正則
副支部長	佐々木昌人

●山形県

支部長	柏倉 喜之
副支部長	高橋 和之
副支部長	増川 久夫
副支部長	坂野 和弘
副支部長	金内 登

●福島県

支部長	松本 吉弥
副支部長	長澤 祐嗣
副支部長	梅宮 幸
副支部長	遠藤 雄志

関東地区

地区長(栃木)豊田 悦見

●茨城県

支部長	小松崎 伸
副支部長	洲上世根子
副支部長	宮川 崇

●栃木県

支部長	豊田 悦見
副支部長	野澤 悦夫
副支部長	福田 智恵
副支部長	荻原 克則

●群馬県

支部長	小板橋俊雄
副支部長	高橋 健
副支部長	眞下千恵美
副支部長	一重 直子
副支部長	角田 淳

●埼玉

支部長	高橋 信介
副支部長	矢作 康世
副支部長	田代由美子
副支部長	工藤 博之

●埼玉

支部長	安田 桂子
副支部長	飯田 賢一
副支部長	西村 悦子
副支部長	金田 共加

●埼玉

副支部長	太田 信和
------	-------

中部地区

地区長(長野)堀内 学

●新潟県

支部長	田井八重子
副支部長	市島 清貴
副支部長	江口 幸恵

●新潟県

支部長	佐伯 弘子
副支部長	佐藤 幸市
副支部長	梅田 尚美
副支部長	高橋 覚
副支部長	原島ひろ子

●長野県

支部長	小笠原 誠
副支部長	木谷 訓代
副支部長	小笠原信子
副支部長	鈴木 茂
副支部長	鳥越 剛

●長野県

支部長	吉原 弘記
副支部長	佐々木綾子
副支部長	高橋 君衣
副支部長	高津 広美
副支部長	井上 栄子
副支部長	玉村志津子
副支部長	杉原 恵子
副支部長	奥田ひかる

●長野県

支部長	内藤 渉
副支部長	平野 寿子
副支部長	粕谷真知子
副支部長	中岡 君夫
副支部長	石鍋さつき
副支部長	岩井 洋子
副支部長	斉藤 俊美

●長野県

支部長	宮島久見子
副支部長	菅野 智美
副支部長	柴田 妙子

●中央

支部長	目黒由美子
副支部長	村本 直美

●城北

支部長	田胡 路代
副支部長	勝見 博
副支部長	小林 光江
副支部長	黒田千恵子

●多摩

支部長	佐伯 弘子
副支部長	佐藤 幸市
副支部長	梅田 尚美
副支部長	高橋 覚
副支部長	原島ひろ子

●神奈川

支部長	小笠原 誠
副支部長	木谷 訓代
副支部長	小笠原信子
副支部長	鈴木 茂
副支部長	鳥越 剛

●甲信越

支部長	田井八重子
副支部長	市島 清貴
副支部長	江口 幸恵

●新潟県

支部長	田井八重子
副支部長	市島 清貴
副支部長	江口 幸恵

●新潟県

支部長	田井八重子
副支部長	市島 清貴
副支部長	江口 幸恵

●山梨県

支部長	中込 幸二
副支部長	鷹野 正則
副支部長	山下 雅樹

●長野県

支部長	堀内 学
副支部長	宮原喜久男
副支部長	酒井 良育
副支部長	美谷島みゆき

北陸地区

地区長(富山)小堀 正樹

●富山県

支部長	小堀 正樹
副支部長	岩城 稔

●石川県

支部長	町方 圭子
副支部長	小澤 静代

●福井県

支部長	山崎 正弘
副支部長	山内 正一
副支部長	吉川 伊幸
副支部長	西村 治

東海地区

地区長(愛知)高橋 邦広

●岐阜県

支部長	武藤 伸介
副支部長	加藤 猛

●静岡県

支部長	脇坂 健
副支部長	望月由美子
副支部長	松本 里美

●愛知県

支部長	高橋 邦広
副支部長	高橋かおる
副支部長	湯田 高光
副支部長	松原 利明

●三重県

支部長	伊藤まゆ美
副支部長	阪口 尚久

近畿地区

地区長(兵庫)中川 真一

●滋賀県

支部長	
-----	--

●京都

支部長	横谷 賢
副支部長	吉田美佳子

●阪奈

支部長	大川 泰司
副支部長	濱田 保

●兵庫県

支部長	中川 真一
副支部長	桃井 活果

●和歌山県

支部長	松井 淳子
副支部長	木野 千晴

中国地区

地区長(広島)九十九賢一

●鳥取県

支部長	濱田 義明
副支部長	保木本妻枝
副支部長	那須 一仁

●島根県

支部長	錦織 雅夫
副支部長	五明田典子

●岡山県

支部長	黒田 文浩
副支部長	山中 基弘
副支部長	赤城 將城

●広島県

支部長	九十九賢一
副支部長	西塔 敦
副支部長	和田 博文

●山口県

支部長	山中 義介
副支部長	中谷 泰
副支部長	青谷 和彦

四国地区

地区長(高知)正岡 成司

●徳島県

支部長	藤川 弥生
副支部長	加藤 順二

●香川県

支部長	天雲 和千
副支部長	馬渕美豊恵

九州地区

地区長(宮崎)藤原 稔

●愛媛県

副支部長	土橋 淑子
支部長	富田 耕治
副支部長	山内 博司

●高知県

支部長	正岡 成司
副支部長	田所 祐一
副支部長	宗崎 美代
副支部長	有光 美保

●福岡県

地区長(宮崎)藤原 稔

支部長	原野 弘典
副支部長	藤森 秀一

●佐賀県

支部長	福井 敏雄
副支部長	原口 毅
副支部長	田崎 陽広

●長崎県

支部長	竹下 勉
副支部長	小林淳一郎
副支部長	田中 顕昭

●熊本県

支部長	三島 善照
副支部長	今田栄美子
副支部長	向 けみ子
副支部長	糸永真理子
副支部長	豊田 峯子
副支部長	小山 剛司

●大分県

副支部長 大仁田奈美

●宮崎県

支部長	吉良 弘
副支部長	佐藤千寿佳

●鹿児島県

支部長	藤原 稔
副支部長	永山 博一
副支部長	石坂 浩二

●鹿児島県

支部長 山方 直子

●沖縄県

支部長	楚南 兼弘
副支部長	赤堀由美子
副支部長	稲嶺 盛昭

(平成25年10月末日作成)



東洋大学が目指すもの

学校法人東洋大学 理事長 福川 伸次

東洋大学甫水会会員の皆様には、日頃から大学の発展に暖かいご支援をたまり、心から感謝申し上げます。

東洋大学は、昨年創立125周年を迎え、皆様のご支援で有意義な記念行事を実施することができ、また記念式典で発表した「未来宣言」を實踐すべく新しい第一歩を踏み出しました。「哲学教育」「グローバル教育」そして「キャリア教育」を3本の矢として教学を充実し、東洋大学のブランド力の向上を目指して参ります。

最近、教育の充実に対する期待はとみに高まっております。政府は、経済成長戦略の重要な柱の一つとして人材育成を中心に大学教育の改革を取り上げております。2013年5月の教育再生実行会議では2017年までの5年間で「大学改革実行集中期間」と位置づけ、大学改革を国家戦略として取り組むことを提言しております。

最近、アベノミクスの成功で経済に明るさを取り戻しつつありますが、経済上の諸指標を見ると、日本の国際的地位は徐々に低下しております。今後、人口の減少、高齢化の進行、財政構造の悪化、イノベーション力の低下、社会の内向き志向などの課題を抱えていることを考えると、成長力の鈍化が懸念されます。資源の賦存に恵まれない日本としては、これを克服する道は人材力しかないのであります。

経済界では、かかる認識から大学教育に対し教養教育の充実、グローバル人材の育成、実社会につながるキャリア教育の拡充、問題発見・解決能

力の向上などを強く求めています。

20世紀は、「技術と対立」の世紀でありました。技術革新は劇的に進展し、生活水準は向上しましたが、2度の世界大戦と東西冷戦を経験し、南北の対立が顕著になりました。私は、21世紀にはこうした対立を克服し、グローバルゼーションの下、世界秩序を協調により維持し、人間の価値を高める世紀、いわば「協調と人間の世紀」にしなければならぬと考えています。

私は、こうした時代の要請を考えると、目指すべき人間像としては、第1に基本に立ち返って考究し、方針を決定し、行動に移す自己決定能力、第2にフロンティアに挑戦する意欲を持ち、それを実現する戦略性、第3に海外の事情、歴史、文化を理解するグローバル能力、第4に海外の人々と理解し合い、共感し合うコミュニケーション力、第5に日本の歴史、文化、魅力を理解し、日本力を進化させる資質、そして第6に社会に貢献する志と能力を備えることを目標とすべきだと考えます。

3度にわたり世界を回り、哲学の精神と社会への貢献を強調した井上円了先生の建学の理念は、今日の時代においても高く尊重され、実践に移さなければならぬものであります。

本学は、関係各位のご努力で、施設面などではかなりの改善を見ることができました。我々は、こうした資産を生かしつつ、建学の理念を活かし、教学の面でも、研究の面でも、スポーツの面でも、品格の面でも、トップクラスのブランド力を

備えたいと考えております。

大学をめぐる環境は、18歳人口の減少、激化する大学間競争などで今後さらに厳しいものになると考えております。我々は、役員、教員、職員を通じて危機意識を共有しつつ、教育に対する時代の要請を取り入れ、本学の改革に努力する考えであります。その際、共通した教育理念のもと一貫教育のメリットを探索する考えから、大学院を知的ピラミッドの頂点に、大学と高等学校等との連携を図りたいと考えております。とりわけ、グローバル教育の充実に重点を置くとともに、特色ある知的リード分野を確立する方針であります。最後になりましたが、甫水会会員の皆様のご健康をお祈りして、私のご挨拶とさせていただきます。



125周年記念館



未来への挑戦

東洋大学 学長 竹村 牧男

お蔭様で、昨年の創立一二五周年の記念事業等は無事終了し、今年は、創立一二五〇周年に向けての第一歩を踏み出すことになりました。私はこの時にあたり、創立者の井上円了先生の次の言葉を想起せずにはいられません。円了先生は、明治三五年の世界旅行をふまえ、日本人の小国的気風は改めるべきであるとして、次のように述べています。

「それには学問によって世界のことを知り、天文学や哲学によって『遠大の思想』を養成し、芸術によって『雄壮・活発・広大の思想』を与えなければならぬ。そして、この遠大の思想を養成することということは、日本人の癖である空想することではなくて、遠大な目的を定め遠大な方法をとることだ。』私たちはこの創立者の言葉に応え、東洋大学の遠大な発展計画を描き、その着実な実現をめざしていくべきでしょう。

昨年の創立一二五周年記念式典において、私は「未来宣言」を發し、次のように述べました。「東洋大学は、『哲学すること』の教授を根本として、世界標準の教育・研究・社会貢献活動を推進するのみならず、国際的に優れた水準の大学の実現を目指し、役員・教員・職員・学生のすべてが一体と

なつて、卒業生ともども奮闘努力してまいります。今日、未来へ旅立つこの日を胸に刻み、創立者・井上円了先生の崇高な理想を次世代へと届けることを喜びに、地球社会の未来に貢献する大学の確立を求めて、私たちの手で新しい歴史を創出し、進化し続けていくことを誓います。」

要は、国際的にも評価される大学を実現するとの誓いです。そのためには、具体的な計画が必要で、今、その構想を描きつつあります。当面、下記のような目標を立てています。

一、教育活動に関して

- ① 自ら考える力を基盤とした学力・人間力を備えた人材の育成（自校教育・哲学教育）
 - ② グローバル化に対応した教育活動の展開（国際化推進）
 - ③ 自国の文化理解・発信力と異文化理解・活用能力の重視（国際化推進）
 - ④ 健全な社会の構築に寄与しうる能力の開発（キャリア教育）
- 二、研究活動に関して
- ① 国際的な学界の評価に耐えうる研究活動の推進
 - ② 総合大学の強みを生かした学際的・先端的研究

の開拓

- ③ 日本的ないし東洋的発想に基づく研究方法の発信
- ④ 地球社会の課題解決に込める研究への挑戦

三、社会貢献活動に関して

- ① 学習機会の広範・多様な提供
- ② キャンパス所在近隣地域への多様な貢献
- ③ 東日本大震災被災地域の復興支援
- ④ 国内外に対するボランティア活動等の支援

特に現在、グローバル人材（社会の財産としての人）の育成に全力を注ぎ、そのためのさまざまな施策を展開しています。たとえば、一部の学部で行われている英語の授業を他学部にも広く開放し、履修と単位取得を可能にした学内留学制度、民間の英会話学校を学内に導入したキャンパス英会話講座、英語能力と連動した海外留学促進奨学金制度など、特に今や国際公用語となっている英語力の涵養に多彩な手を打っています。また、海外インターンシップも、全学的な運用を開始しました。

私としては、学生の「知徳兼全」なるめざましい成長を強力に支援していくとともに、東洋大学の社会的評価をさらに向上させ、遠大な目標への計画を一步一步着実に実現していくことに挺身する所存ですので、今後ともご協力・ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



主体的な学び・学生の本分とは何か

学校法人東洋大学常務理事・浦水会常任理事 大熊 廣一

東洋大学は、お陰様で昨年創立125周年を迎えることが出来ました。本年、創立150周年に向けて新たな一步を踏み出しました。グローバル人材を育成する3つの柱（哲学教育・グローバル教育・キャリア教育）を掲げ、全学を挙げて取り組んでまいります。

現在、私たちはグローバル化、少子高齢化による人口構造の変化、エネルギーや資源、食糧等の供給問題など、社会情勢の急激な変化に直面しています。

このような時代にあつて、地域社会や産業界から求められているのは、答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的な思考をはじめとする認知的能力、人間としての自らの責務を果たし、他者に配慮しながらチームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担い、論理的・社会的能力、総合的かつ持続的な学修経験に基づく想像力と構想力、想定外の困難に際して的確な判断をするための教養、知識、経験を備えた人材（人という財産）です。言い換えれば、これは生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材のことです。これらの能力を身に付けるには、教員から学生に一方的に知識を伝達する受動的な学修から、教員と学生が一緒になって切磋琢磨し、学生が自律的・主体的に学修し、学生自ら問題を発見し解を見出していく能動的な

学修への転換が大学に求められています。4年生になって行う卒業論文作成は、まさしく能動的な学修の場であり、国の大学設置基準では、1単位当たりの学修時間を標準45時間と定めています。これは、授業受講が15時間に対して、自主的な予習復習が30時間必要なことを示しています。1週間のうち授業外での学習時間を日米で比較すると、米国においては約6割の学生が11時間以上学習しているのに対し、日本では、約1割が全く学習せず、1～5時間が約6割となっており、日本の学生の学習時間がいかに短いかわかります。

東洋大学では、学生の学びの質を高めるため、各学期で履修できる単位数を制限し、学生の皆さんが自主的に学修時間を確保できる制度を導入しています。また、白山図書館は、今年4月にリニューアルされ、「ラーニング・コモンズ」：学生がともに学習するために集う共有の場」が新設され、空き時間に学生の皆さんが自由に自習できるようにしました（写真）。この中は、可動式の机、イスが用意され、人数に合わせて自由にレイアウトし、ディスカッションも可能な学習空間「ラーニング・フォレスト」、複数の利用者で話し合いながら学習できる「グループ学習室」、コンピュータが設置され、論文やレポートが作成できる「学習PC室」が設置されています。また、東洋大学附属図書館全館でふた付き飲み物が飲めるようになり、

身近に図書館が利用できる環境を作っています。かつての高度成長期には、企業は大学教育に多くを期待せず、就職後に必要な知識は企業が教育する時代でした。しかし、現在、学生の皆さんが卒業の時点で求められているものは、「大学できちんと学修してきたのか、大学教育を通して、何を身に付け、何ができるようになったのか」であります。アルバイトやサークル活動に明け暮れた生活では、就職戦線に生き残れません。東洋大学は、学修環境の整備、就職支援を教職員一丸となって進めて参ります。しかし学生の皆さんが、しっかりと自分のこととして自覚しなければなりません。就活の時期が来て慌てても遅い。グローバル化など社会情勢が急激に変化する現在、学生の皆さんには、学生の本分を忘れず、目標を定めて大学生活を送ってほしいと願っています。



写真：白山図書館 ラーニング・コモンズの整備

学部だより



金沢散策

文学部長 中山 尚夫

文学部教授

東洋大学文学部卒業、同大学院文学研究科博士課程満期退学。
博士(文学)。専門は、日本近世文学。
著書に「十返舎一九研究」十返舎一九集(一、二)等

去る八月上旬、浦水会支部総会出席のため北陸の石川(三日に金沢市)・福井(四日に福井市)両県を訪れた。その折の散策の模様と感想とを述べて、今回の文章とする。

本学出身の人気推理作家、内田康夫氏の作品に『砂冥宮』(二〇〇九年初版刊)がある。作品の舞台は主として神奈川県であるが、事件の発端は金沢市の内灘砂丘。内田ファンを自認する私は、「いい機会」とばかり二日の午後に金沢入り。内灘、作中にしばしば見られる「鉄板道路」(内灘駅から内灘砂丘へ続く一本道)等確認と称する「実地踏査」と洒落こんだ。作中の昭和や内田取材に思いをはせ、次に江戸時代の戯作者十返舎一九の足跡調査も試みた。彼の『金草鞋』は、二人の奥州狂歌師が狂歌を詠みながら全国行脚をする、という趣向で、名所案内記的要素も含まれる作品である。描かれた土地と作者自身の足跡とが重なり、そのことは一九の伝記研究の資料ともなる。その足跡を調査しようとしたのである。「俱利伽羅峠」や「白

山」は詳しい描写がある。が、一方金沢市内は：生憎ない。抛り所となる資料がないので、ここでの一九足跡調査はひとまず断念せざるを得なかった。この日、内田作品踏査はそれなりの成果を上げ、一九作品踏査は断念、という結果であった。

さて三日猛暑。正午過ぎから浦水会石川支部総会がある。空いている午前中を利用して八時半頃から市内散策に出た。駅前から「城下まち金沢周遊バス」で「兼六園下」に向かう。レトロな空いた車内での運転手氏の懇切ぶりには頭が下がった。過去数回の金沢行で初めての「兼六園」。団体客や外国人に混じった背広姿は猛暑の中では異様だろう。園に入るとすぐにあの琴柱灯籠。見事。が、池に水がない。この珍奇な現象は十二年に一度の水抜きに抛るものと、後に事情通から聞いた。それに出くわすとは、運がいいやら悪いやら。とこゝろでここからの「卯辰山」の眺望は絶景。「卯辰山」は金沢市の象徴の一つ(と思っている)で、能登・加賀地方の伝統文化「相撲」のメッカでもある。

そして金沢市。言わずと知れた前田利家公以来の大城下町で、江戸時代には江戸・京・大坂に次いで名古屋と並ぶ大都市。現在でも北陸随一の都市。加賀地方に属する。私は兼六園後の散策地として、「泉鏡花記念館」か「近代文学館」(旧四

高)を目論んだ。後者は以前の旧四高校舎の印象の強烈さに惹かれたからだだが、前者の「初めて」の誘惑には勝てず、「橋場」に向かった。「尾張町」や「百万石通」の名称も魅力的ではある。「尾張町」は、利家が加賀入国時に地元尾張の商人たちを連れてきてここに住ませたことに由来する町名。兼六園から徒歩で和菓子のお舗「森八」や料亭「金城楼」前を通り、「橋場」近く尾張町はずれの「泉鏡花記念館」へ。裏道を迷いながら入ったそこは、家庭的風情の記念館。この一風変わった造りの記念館に流石出身地と感心しながら見入った。鏡花の作品や人生が展示され坂東玉三郎の「累ヶ淵」の音声も流されていることは、二三遍はゆっくり見られる広さ。堪能後のいい印象のまま退館し、尾張町の古い町並みをキョロキョロしながら、百万石通をそぞろ歩く。とはいえず暑い。テント屋さんをはじめとした何とも古い建物群を過ぎてゆくと、これまた漆喰づくりの旧銀行の建物を利用した「町民文化館」に行き着いた。「泉鏡花記念館」以外どこという目的もなく歩いた尾張町散策は、不易流行。図らずも金沢庶民の生活文化の一端に触れるものであった。金沢城石川門周辺の歴史的・文化的施設が魅力的な金沢市であるが、それと対象的な町並みも素晴らしい。流石に古都ではある。

暑さにめげず辿った半日行程であったが、浦水会支部総会会場ホテルの喫茶店で本学職員諸氏に出会った時の安堵感は筆舌に尽くしがたい。矢張り暑さと時間に追われたやせ我慢の散策であったのか。後の石川支部総会は盛会と見た。

今回、関西と関東との境界で日本海側にある支部の運営上の苦境にも接した。
何とかしなければ。早く。



経済学部における 就職・キャリア支援活動

経済学部長 小川 芳樹

経済学部教授

東京大学大学院理学系研究科科学博士課程修了 理学博士(東京大学)
(財)日本エネルギー経済研究所勤務を経て、2004年から経済学部教授
環境経済学専攻
趣味は歴史もののファンタジーものの読書 スキー、クラシック音楽鑑賞

はじめに

学生は4年間の大学生活を通じて自分自身の力を高める最後の機会を活用し、自分の長い人生をかけた役割を果たすべく社会へ船出していかなければならない。東洋大学では大学全体で包括的な就職・キャリア支援活動を実施しているが、経済学部では学生の授業履修を支援するシステムの「Toyonet-Ace」をフル活用して独自の学生に対する就職・キャリア支援を行っているのです。その内容をここでは紹介したい。

(1) 就職・キャリア支援情報の提供

学生は、4年間の科目履修による受講活動を円滑に進めて卒業に必要な単位取得を実現するため、「Toyonet-Ace」と呼ばれる学習支援システムを常時活用している。経済学部独自の就職・キャリア形成支援は、学生が使い慣れているこのシステムをフル活用した。具体的には、学年ごとに「キャリア形成支援(経済1〜4年)」という科目を用意し、様々な支援サービスを行っている。

「Toyonet-Ace」の支援サービスを開始した時点では、東洋大学の就職・キャリア支援部が大学全体を対象に包括的に行っている就職・キャリア形成支援関連の行事に関する開催案内の提供が中心であった。1年生の早期からキャリア形成支援のために大学が催すいろいろな行事の案内がなされるが、授業に常用しているシステムであるので学生のアクセス度はきわめて良好である。これらの情報提供は、大学構内の掲示板や東洋大

学のホームページなど学生は他の手段でも入手できるのであるが、「Toyonet-Ace」システムの利点は他の手段と違って学生が提供した情報を見たかどうかを確認できる点である。また、これによって、学生がどのような情報に大きな興味を持って反応をするか、学生の問題意識や行動パターンも把握できる。

「Toyonet-Ace」を用いた経済学部独自の就職・キャリア形成支援サービスは、このような既存情報の提供から開始したが、今年度から次項で述べるような経済学部オリジナルメードの情報を作成して学生に提供する新たな仕組みを構築させてサービス内容を充実させた。

(2) 「就職活動を終えて後輩に伝えたい」のアンケート調査

経済学部では、今年度から4年生を対象に「就職活動を終えて後輩に伝えたいこと」というアンケート調査を始めた。表1に示す11個の質問がアンケート調査の内容である。就職活動を始める学生が知りたくなる問いかけである。アンケート調査は状況提供しようと思っただけで、今年度は現在までに50人強からの回答が寄せられた。

すべての質問に関して回答事例を示すことは紙数の関係でここではできないが、Q3とQ8に関する4年生からの回答事例のごく一部を表2に紹介する。就職活動を終えた4年生が実際に体験した内容を真摯に後輩に伝えようとしていることが回答ににじみ出ているといえる。表2ではなかなか雰囲気をお伝えできないが、各質問で50人の多彩な回答が並ぶと壮観である。

後輩の学生にとっては、ほぼ同じ立ち位置と目線にある先輩が経験した内容を多様な角度から伝えているので、まさに実感をもって受け止める

ことができるのではないかと思う。遠からず就職活動が本格化する3年生を対象にこの情報の提供を最初は開始したが、Q8のような回答内容は学生がもっと早く知ったほうが良いので現在は2年生にも提供している。

今年7月からこのアンケート結果の提供を始め、新しい回答が入るたびにデータを更新していつているが、確認した3年生、2年生のアクセス状況は上々の滑り出しでこの問題への関心の高さがうかがわれる。就職活動を現在も継続している4年生にもこの情報を提供したが、そちらのアクセス状況も良い。今後、毎年のデータを積み重ねて学生に提供したいと考えている。

おわりに

この他にも経済学部では、4年生の進路先決定状況および進展状況を毎月アンケート調査で行っており、学生の最新の状況の把握に努めている。また、学生の就職活動における悩みごとと同じアンケート調査で記入してもらって、その回答も整理したうえで行っている。学生が4年間の充実感あふれる大学生活を過ごし、自分の適切な情報収集と選択で有意義な社会への船出ができるように力の限り応援している。

表1 アンケート調査の質問内容

- Q1: エントリーの際に重視したことは何ですか?
Q2: 企業選びの際に重視したことは何ですか?
Q3: 面接で気をつけた方がよいことは何ですか?
Q4: 面接でどんな事を聞かれましたか?
Q5: 面接でやってしまった失敗談は何かありますか?
Q6: 就活中はどんなことをして息抜きをしましたか?
Q7: 長丁場の就活で心掛けていたことは何ですか?
Q8: 今、考えると、これだけはやっておけばよかったと思うことは何ですか?
Q9: スケジュールの工夫(とくに忙しい時期)はどうしていましたか?
Q10: 内定を獲得できた決め手になったものは何だと思えますか?
Q11: その他に後輩に伝えたいことは何かありますか?

表2 アンケート調査の回答事例

- <Q3: 面接で気をつけた方がよいことは何ですか?>
▶ マニュアルみたいな言い方、難しく言おうとせずにシンプルに発言する(最終に近づくほど意識する)。相手の意図をくみ取り、脱線しないようにする。
▶ 表情や姿勢、身だしなみ。これが出来ない人は面接にすらたどり着けないと思う。
▶ 話したい内容をただ話すのではなく、面接官との会話だということを忘れないこと。また、自分自身の考えや意見を曲げないで言うこと。 など
- <Q8: 今、考えると、これだけはやっておけばよかったと思うことは何ですか?>
▶ 早い段階での業界研究。もっと自分に合う業界があったのでは?と終ってから少し後悔した。
▶ SPIなどのWebテストの対策が甘かったのも、もっと真剣に取り組んで置けばよかった。
▶ 就活が始まってから頑張るのはほとんど意味が無いので、小学生の時から英語を頑張って話せるようになっていれば良かったです。 など



学習支援について

経営学部長 旭 貴朗

経営学部教授

昭和54年東京工業大学理学部数学科卒業(理学士)
昭和59年東京工業大学総合理工学研究科システム科学専攻博士課程
修了(理学博士)
日本情報経営学学会員(旧オフィスオートメーション学会)
経営情報学会会員

今回は学習支援体制について述べさせていただきます。経営学部では「成果と結果を実現する教育」(マネジメント白山構想)を推進しております。「成果」とは授業を通じた学習成果のことですが、講義・演習以外にも、以下のような学習支援活動を行なっております。

第1の学習支援は、資格取得(「結果」と呼んでいます)を通じて学生の将来の選択肢を広げることとあります。学部内のマネジメント白山委員会が中心となって、他学部以上に課外講座を開催し、資格取得を支援する体制を整えております。学外の専門学校の数分の一の受講料で参加することができ、取得すると「資格取得奨励賞(賞状+副賞)」をもらえるものもあります。授業で学習した内容との関連も深いので、学習意欲の向上や就職のことも合わせて一石二鳥以上の効果があると思います。

例えば、ファイナンシャル・プランナー(FP)資格の内容は、銀行や年金や相続や住宅購入など個

人にも長期的に役立つ内容ですが、FP技能士対策講座(説明会7月)があります。3級と2級で、学科科目+実技科目+総合合格者の数1100名程度が毎年取得しています。また、経営学検定試験(説明会は4月)支援講座では短期的なものです。中小企業診断士受験講座(説明会9月下旬)となると10ヶ月続く長丁場の講座です。両者とも毎年50名程度の学生が受講しております。後者の場合は、たとえ診断士資格が取れなくとも、科目合格だけでも履歴書に書けます。経営学は企業をさまざまな視点から研究する学問ですので、ともすれば学習内容が多岐に渡り、茫漠とした不安感をもつことがあります。そこで資格取得を通じて自分の力を客観的に知ることでの心の安定を得たり、新たな目標を見いだすことができるでしょう。

さらに日商簿記検定のための課外講座を開催していますが、すでに会計の素養のある学生のためのものだとは考えないでいただきたいのです。会計に初めて接する一般学生のための「ビジネスパーソン」のミニマムスキル・簿記課外講座(3級の説明会7月、2級の説明会1月)があります。どのような企業も必ず会計は必要ですから、「経営学部を卒業するなら」学科を問わず教養として

身につけておいて損はないものと思います。もちろん、本格的な会計士をめざす養成講座(+答練+直前予想会)の前段階として簿記を取得するコース(3級の説明会4月、2級の説明会7月)もあります。しかし独学ですと、くじけそうになりますから「会計特別研究室」も用意しています。学生による自主的なグループ活動の拠点ですが、教員や卒業生から指導を受けたり、友人同士で切磋琢磨することができます(説明会4月)。

第2の学習支援は、学習進度あるいは学生生活に関するものです。大学では5年前から、学生だけでなく保護者全員に成績表を送付しております(5月と11月)。これにより、保護者は学生の学習進度を大まかに把握することができます。大雑把に言えば、ひとつの授業に合格すると2単位が取得でき、通常は1年間に40単位程度を、3年間で120単位を取得します。卒業単位数は124単位ですから、残りの4単位を4年生でとることになります。最近就職活動に時間が取られずから、3年間でほとんどの授業の単位を取得する意気込みで勉強することが必要となってきました。

実は大学では1年間に取得した単位数の少ない学生を呼び、毎年秋に面接指導を行なっています。さらに、経営学部では1年生の春に出席調査を行い、連続して2回欠席すると学生に電話をすることにしています。しかし、面接指導と欠席調査だけでは不足だと感じています。ぜひ御家庭内でも年に一度は成績表を見ながら学習進度を話題としていただくよう、お願いしたいのです。



倒産とは、破産とは ——倒産と破産の違いについて——

法学部長 櫻本 正樹

法学部教授

慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学。
1992—1993イタリア政府国費留学生としてミラノ大学留学。
2011—12在外研究としてウエネチア大学留学。
趣味は、芸術鑑賞と卓球、世界の商店街の散歩。
専門は、倒産法、民事手続法。

一 はじめに

東洋大学法学部に限らず、どの大学の法学部にも「倒産法」が講義科目として開講されています。これまでは伝統的に「破産法」という名称で開講されていたのですが、2000年頃から倒産法（倒産処理法）という名称のところもありました。また、司法試験の選択科目として、かつては「破産法」という科目でしたが、新司法試験の選択科目としては「倒産法」という名称になり、8科目ある選択科目中2番目に受験者が多い科目となっています。

では、この破産法と倒産法、あるいは破産と倒産はどのような違いがあるのでしょうか？
今回は私の専門として、このテーマについて書いてみたいと思います。

二 倒産と破産の違い

毎年、学部、大学院等の倒産法の最初の講義の時間に倒産・破産に関するアンケートを学生にしています。その最初の項目では「破産と倒産はどこが違うと思いますか？」と質問しています。これに対する学生の回答として最も多い誤解あるいは間違いとして「倒産は企業がするもので、破産は個人がするもの」が大多数を占めています。その理由としては、日常用語として通常は、倒

産も破産も区別して用いられることはなく、むしろほとんど同義語としてあつかわれ、また日常生活においても両者の違いを特に考える必要はないし、意識的に両者を区別して使用していないからであると思います。その理由として考えられることのひとつとして、長引く景気の低迷でテレビ、インターネット等の情報において、たとえば、倒産という言葉は、企業倒産、金融機関の倒産、JALの倒産等主に企業、会社等の法人と結びついて用いられることが多く、反対に破産という言葉は、消費者金融、多重債務という言葉とペアで自己破産、カード破産等というように主に消費者や個人と結びついて用いられることが挙げられます。

学問的には、倒産とは、債務者が経済的破綻になった、あるいは、まさにそうなりそうな状態を指します。言い換えると、個人（自然人）や企業（法人）をとわず、決定的な経済的困難に陥って破綻してしまった、あるいは、まさにそうなりそうな状態を倒産といいます。倒産の状態に陥った後には、夜逃げをする、自殺をする、あるいは強盗等の犯罪をしますが、倒産した場合にその後始末をするために法により定められている手続のひとつとして破産があります。言い換えれば、倒産は破産も含むより広い概念であり、破産は人が倒産した場合に選択しうる次のステップとしてのひとつの手続ということになります。

倒産は、今述べたような経済状態一般を指すものであり、破産は倒産した場合の後始末のために選択できる法に定められた手続ということになります。従って、個人（自然人）も企業（法人）も倒産をする可能性があり、また、同様に破産をする可能性もあります。

なお、個人（自然人）や企業（法人）が倒産した場合には、破産以外にも民事再生等の手続が法により規定されており、それらを総称して講義上「倒産法」といいますが、このような名称の法律が存在するわけではありません。反対に、破産手続を規定する法律として「破産法」という名称の法律はありません。

すでに述べたように倒産法という法律がないため倒産という言葉に関しては、厳密な定義がなされているわけではありませんが、現在、法律名に「倒産」という文字が用いられている法律として「中小企業倒産防止共済法」は2条2項において、共済金を貸し付けるための前提として取引の相手方たる事業者の「倒産」を「破産手続開始、再生手続開始、更生手続開始又は特別清算開始の申立てがされること（略）」と定義しています。

講義上、倒産法と言う場合は「破産法」、「民事再生法」、「会社更生法」と会社法に規定されている「特別清算」で処理される法制度の総称ということになります（狭義の倒産法）。また、場合によってはこれらに債権者と債務者間で話し合いによって解決する「私的整理（任意整理ともよばれます）」が加えられることが多くあります（広義の倒産法）。

三 終わりに

以上のことから、倒産と破産は別の概念であり、内容に関してもそれぞれお分かりいただけたと思います。

最後に、英語の破産という言葉、すなわちbankruptcyの語源について説明して終わりたいと思います。この語源に関しては諸説ありますが、一般的にイタリア語のbancarottaに由来しているといわれています。イタリア語のbancaは「両替台あるいは机」を意味し、rottaは「壊れた」という意味です。すなわち、中世のヨーロッパの諸都市では、商人は机を店として路上で両替等の商売をしていました。しかし、彼らが支払不能になり債務を支払えなくなった場合に債権者が、その机を怒りのあまり壊したからと説明されます。なお、本稿は平成20年4月号の通信教育部「学習室」の原稿を加筆、修正しました。



東日本大震災子ども支援を考える

社会学部長 森田 明美

社会学部教授

1951年愛知県生まれ、東洋大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻修士課程修了。1994年東洋大学社会学部准教授、1997年教授。2013年4月から現職。専門は児童福祉。卒業生たちと特定非営利活動法人こども福祉研究所で実践研究を進める。東日本大震災復興支援では、東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長として活動している。近著『子どもにやさしいまちづくり』日本評論社。『女性と福祉』ミネルヴァ書房等多数。

1. 東日本大震災子ども被害の状況

2011年3月11日に発生した東日本大震災の子どもへの死亡は、検死を終えて年齢などが判明した人として、0～9歳は468人、10～19歳で423人、合計891人、全死亡者の5.6%である。保護者の死亡により発生した孤児は241人（岩手県94名、宮城県126名、福島県21名）、遺児は1483名（岩手県487名、宮城県857名、福島県139名）（2013.3.1現在）と発表されている。たくさん命を身近で失い、希望がつかめない子どもたちが被災地で暮らしている。

2. 子ども支援活動

私は、震災後NGO／NPOが力を合わせて東日本大震災からの子ども支援や子育て家庭の支援に粘り強く取り組んでいることと、2011年5月5日に結成した東日本大震災子ども支援ネットワーク（以下NWと略す）の事務局長として、研究室を事務局にして、ゼミ生や院生、卒業生と支援に取り組んできた。ホームページを立ち上げ、9回にわたる国会議員会館での国会議員／政府／被災自治体・市民団体などによる「意見交換会」の開催、被災地で議員やNPO関係者、さらには子どもたちとの意見交換会、またホームページ上や集会で子どもたちの声を聴く取り組みなどを進めている。

また、津波と火災によって大きな被害を受けた岩手県山田町では、2011年8月に、国際ゾントクラブという慈善団体からの寄付を東洋大学

の卒業生たちと活動してきたNPOが引き受ける形で、地元への心ある方々3人が発起人となり、8人ほどの支援者を雇用し、日赤や生協、様々な企業の寄付などを受けて、無料で軽食を提供する中高生自習室を常設で開設している。

この山田町ゾントハウスの開設は、社会学部や大学院のゼミ生とがれき撤去、泥掃除、ペンキ塗や、雨漏りの修繕から始まった。たくさん卒業生たちの応援を現地でもいただき、丸2年の活動が続いている。今では山田町の約1/3の中高校生が登録し、部活を終えた中高生たちが月々土16時～20時まで、毎日10～50人が訪れる。地元の女性たちが「おかえり」と迎えてくれるこの場所は、軽食でお腹を満たし、友達と話をしながら帰るまでに着かせ、少し勉強して仮設住宅などに帰るまでの日常生活を取り戻す場所になっている。

3. 学生たちの活躍

東洋大学の学生たちは2011年度夏に環境整備に関わって以降、学生部や復興問題対策チーム、学長室特別企画などの助成によって交通費を確保し、片道10時間の夜行バスで夏、冬、春の長期休暇にゾントハウスを訪ね、学習支援や様々な地域の文化活動などに参加させてもらっている。東洋大学の旗がはためくゾントハウスは、東洋大学がいつも見守っているという実感があると地元の人たちから慕われている。

4. 学生たちの変化

社会学部の学生たちは、成績の優秀な学生が多い。だが残念ながら、昨今主体的に社会問題の解決に自分自身も関わり、理論と実践を結びつけながら主体的な学びを進めるといふ力が弱くなっている。まずは自分自身の目で見るといふことが必要となつてくる。ゾントハウスへ行った学生たちは、復旧の歩みの遅さに愕然とする。そしてそれとは逆に、ゾントハウスに集まる人々の好意の種類や量

に驚く。町のいたるところで、ゾントハウスにいるといえ、遠くからよくきたねと「続けてよくやってくれるね」と大歓迎され、むしろ自分たちはそこで支えられているという実感を体験する。「先輩たちがやってくれたことが私たちへの感謝につながっている」と、素直に先輩たちに感謝している。また、多くの卒業生たちのサポートが集められ、それが東洋大学アイデンティティとして形成されている。支援に行き、支援されている自分に気づくという、体験を学生たちはさせてもらっている。

5. 子ども支援の継続の必要性

子どもたちはおとなたちの懸命な復旧活動を目の当りにして、復旧が進まない学校や家庭・地域のなかでも、生き抜いている。子どもたちは勉強や部活動に励み、被災直後から復旧のためのボランティア活動や、壊れそうになっている地域のためにお祭りなどで活躍をして、自分たちを支えてくれる人たちとの関係をやつの思いでつなぎながら、精一杯頑張ってきた。子どもたちが壊れる前に、おとな達が力を合わせ緊急にしなければならぬことがたくさんある。震災後3年目を迎えた時期であるからこそ卒業生のみならずのご協力を得て、社会学部の取り組み、卒業生の取り組みを東洋大学全体の取り組みとして具体化していかなければならないと考えている。

（特定非営利活動法人こども福祉研究所理事長、東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長）





理工学部の基礎教育と国際化

理工学部長(兼)工学部長 吉田 泰彦

理工学部教授

1952年、東京都文京区に生まれる。東京大学合成化学科卒業、同大学院博士後期課程修了、工学博士。東京大学助手、東洋大学講師、助教授を経て、1992年東洋大学応用化学科教授。2006年工学研究科委員長、2009年副学長、2011年より理工学部長。

専門は高分子化学。

主な著書は、「高分子材料化学」「炭酸ガス問題解決への展望」「プラスチックハンドブック」「化学の夢」「生分解性プラスチックハンドブック」「専門基礎ライブラリー 新編基礎化学」。

東洋大学理工学部は川越キャンパスに開設され、52年目を迎えました。昭和36年の開設当初は工学部として、平成21年より理工学部と総合情報学部の2学科へと発展いたしました。理工学部は機械工学科、電気電子情報工学科、応用化学科、都市環境デザイン学科、建築学科の6学科で構成されております。理工学部の教育・研究分野は理工系全般に渡っておりますが、理工学部としての「教育の質保証」として、理工系基礎科目の充実と学生の実力向上に取り組んでおります。ここでは理工学部の教育の質保証と国際化に向けた取り組みを紹介いたします。

一般的に、工学系・理工学系学部の原級率(留年率)は文系学部よりも高くなっております。これは、工学系・理工学系の学部の多くで「四年次の卒業研究関連科目」が必修であり、その履修に際して関門を設けていることに依ります。すなわち、三年次修了までに一定の条件(一定単位数の取得と特定科目の履修)を満たすことが必要です。また、理工学部においては、数学・物理・英

語などの基礎教育科目が専門科目履修のために必要不可欠で必修科目ともなっており、これらの科目の理解が不十分なことから単位不足となり、関門となる条件を満たしにくくなっております。特にこれら数学・物理の講義科目は答えがはっきりとわかることと、中学・高校においても生徒が履修をあまり希望しない科目であること、多様化した入試システムの弊害もあり、大学に入学してから数学・物理・英語の履修に苦勞し原級と言う結果につながります。しかし、理工学部では学生・教職員の努力の結果、原級する率が減少傾向にあり、その取り組みを具体的に説明いたします。

理工学部では、入学筆記試験以外で入学する生徒には数学・物理・化学・英語などを入学前に事前教育として学ぶことを勧めております。また、入学当初には数学・英語のテストを実施し、その結果を数学・英語のクラス分けや履修科目選択の際の指導に反映させています。理工学部学生にとり数学・物理・英語の基礎教育科目は必修科目であることから可能な限り少人数教育で講義を実施していますが、講義についていけない学生や理解不足の学生にはキャンパス内に設置した基礎教育センター(学習支援室)において、高等学校での教育経験のあるアドバイザーの指導を受けることができる体制にしております。また、これらの科目の理解が不十分な学生には、夏休み・春休みに学習支援室で

「補習講座」を実施し、数学等の理解向上の支援を行っています。

次に、講義への出席不良学生は全般的に取得単位が不足し原級となる可能性が大きくなります。理工学部は春学期・秋学期のセメスター制であることから、4月と10月のセメスター開始時に必修科目への出席状況をチェックし、欠席の多い学生・保護者の方に連絡しています。さらに、例年6月に川越キャンパスで行われる浦水懇談会において、浦水会の協力の下、保護者・学生との面談を実施しております。春学期と秋学期の成績発表が行われる9月と3月には、単位僅少学生(取得単位不足の学生)を中心にして保護者の方への学修相談会を行っています。このように、学習支援室を利用した数学・物理・英語の基礎教育科目を中心に学生が学び、理解しやすい環境を整え、出席チェックにより学生の自分を踏み外しがちな学生を注意し、各セメスター毎にその成績を学生・保護者・教職員で確認し、「理工学部の教育の質保証」を確保しております。

さらに理工学部には語学の学習が苦手、取っ付きにくいと感じている学生が多いことから、昨年よりニューヨーク・ペイス大学への海外研修プログラムによる短期留学を実施しております。ホームステイ、大学での専門科目研修、米国学生との交流や自然史博物館等の見学などを実施いたしました。

このように、理工学部では学生の育成のためさまざまな取り組みを実施しておりますので、是非とも活用するよう学生にご指導・アドバイスをお願いいたします。





総合情報学部 杉本 富利

総合情報学部長 杉本 富利

総合情報学部教授

1951年、宮崎県日南市に生まれる。1975年に電気通信大学電気通信学部電波通信学科を卒業。1978年に同大学大学院電気通信学研究科経営工学専攻修士課程を修了。1998年に東洋大学大学院工学研究科より博士(工学)取得。1978年から2008年までに東洋大学工学部情報工学科の助手、講師、助教授、教授を経て、2009年東洋大学総合情報学部教授となる。専門領域はヒューマンインタフェース、認知心理学である。

総合情報学部は2009年4月に新設された。そして昨年度に完成年度を迎え、3月には初めての卒業生が巣立つて行きました。私はこの4月に学部長に就任しましたが、学部を見渡してみますと直ぐに対策を打たなければならぬ問題が山積しており、早急4月からその対策に乗り出し、幸いにも多くの教員からの協力を頂くことが出来まして、既に実施されたもの、これから実施されるもの多々ありますが、それらの主だったものを以下に説明します。

理系イメージの払拭

総合情報学部の「情報学部」というキーワード、また当学部のコンセプトである「文理融合」というキーワードが「バリエーションの理系」というイメージを与えているようです。そのために入学志願者の文系学生の数が減少しています。

総合情報学部の特色は文系と理系の垣根がなく、文系と理系が共に参加できる領域であることです。総合情報学の基盤となる情報スキル情報技術(IIT)では理系のイメージが強いので、この言葉を使います。文系の学生でも理系の学生でも容易に修得することが出来ます。現にIT企業も多くは文系学部と理系学部の区別なく新卒学生の採用を行っています。

系と理系の垣根のない科目であり、残りの2割が文系寄りか理系寄りですが、文系寄りの学生は数多く理系科目も履修することなく卒業単位を満たすことが出来ます。このようなことをWebサイトや学部パンフレットによって周知することに努め、理系イメージの払拭を図ります。

情報スキル教育の徹底

総合情報学部の教育方針は、入学学生全員に情報スキルを徹底して身につけさせ、その後に情報科学系、環境情報系、心理情報系、メディア文化系、それぞれの専門科目群の専門知識とスキルを上乘せしめて統合し、様々な領域で「情報の創り手・使い手」として活躍できる能力を授けることです。この情報スキル教育を徹底するために、1年次のプラクティス(基礎演習)においてITパスポート100%合格、基本情報技術者試験30%合格の数値目標を掲げ、そのためのプログラムを実施します。

開講専門科目体系の「見える化」

総合情報学科には4つの系、情報科学系、環境情報系、心理情報系、メディア文化系があります。この系は専門科目をグループ化した科目群であり、学生をどれかの系に縛りつけるものではありません。一つの系には普通の1学科分の専門科目がありますから、総合情報学科の中に4学科分の専門科目が開講されていることになります。これは学生が多様な科目を履修できる点ではメリットですが、逆に大海に漕ぎ出した小舟のように、何処へ進んでよいのか分からないといった状態になりかねません。

そこで、各系の開講科目の体系を分かりやすく「見える化」するために科目間の系統図を作成しました。この系統図には系を跨いで関係のある科目も示してあります。また、履修モデルを各系ごとに、文系モデルと理系モデルの2つを提示しました。学生はこの履修モデルと系統図を頼りに自

分自身の履修プランを立てることが出来ます。

PBLの徹底

PBL(Problem Based Learning)教育の集大成は卒業研究および卒業制作です。しかし、この科目は選択科目ですので全ての学生が履修するとは限りません。卒業研究および卒業制作では論文の提出と発表会でのプレゼンテーションが必須ですので、これらを履修することによって、文章力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力が培われます。そのために、教員の指導によって卒業研究または卒業制作の履修を促し、履修率を高めたことを考えています。

2012年度卒業生の履修率は38%(389名中147名履修)、2013年度の春セメスタの履修率は45%(263名中118名履修)でした。この履修率を高めるには教員が卒業研究および卒業制作におけるPBL教育の集大成の重要性を認識することが重要です。教員の意識改革と学生への十分な説明を通じて卒業研究または卒業制作の履修率を少なくとも75%(2014年度以降)に高めたいと思います。

キャリア形成支援プログラム

高校生から大学生への移行を促し、大学での学習・生活に対する基本姿勢を身に付けさせ、最後に大学生から社会人への移行の準備として就職意識を醸成することを目的としたプログラムです。このことによって、就職率100%を目指し、就職活動をせずに、いわゆるフリーターになる学生をゼロにしたいと思っています。

このような施策を早いものではこの10月から、遅いものでも来年度の春セメスタから実施します。最後に、2012年11月23日に挙行政営した創立125周年記念式典において竹村牧男学長が発せられた未来宣言の一節を引用することで、私の総合情報学部再生への強い意志を示したいと思います。

「東洋大学は、「哲学すること」の教授を根本として、世界標準の教育・研究・社会貢献活動を推進するのみならず、国際的に優れた水準の大学の実現を目指し、役員・教員・職員・学生のすべてが一体となって、卒業生ともども奮闘努力してまいります。」



グローバル化を推進する国際地域学部

国際地域学部長 藤井 敏信

国際地域学部教授

早稲田大学理工学部建築学科卒
同大学院建設工学博士課程満期退学。博士(工学)。
1997年、国際地域学部の創設と共に着任。
専攻は都市・地域計画。まちづくり。

1. 国際地域学部の特色

国際地域学部は国際化を推進する東洋大学のミッションを担った、いわばテーマ型の学部です。「Think Globally, Act Locally」を標榜してグローバル化に対応しつつ、現場に赴き、「地域づくり」や「観光振興」を目的として、地域の活性化に貢献できる創造的な人材を社会に向けて輩出するのが学部の目標となっています。

長い歴史と伝統を持つ東洋大学の中では、比較的新しい学部ですが、今年で創設以来十六年目を迎えました。今年度から新たに整備された白山キャンパスに移転しました。昨年の九月には全国の国公私立大学の三二学部の一つとして、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択されましたので、様々な活動を開始・推進しています。4月からは新たに国際地域グローバルオフィスを甫水会館1階に設置し、海外研修の拡大や語学力の強化を行い、交流シンポジウムを開催して国際化に対応する人材の輩出に努めています。大学のホームページで「グローバル人材プログラム」という欄を設けていただき、逐次活動を報告しています。

2. 国際地域学とは

さて、学部の名称である「国際地域学」は新しい学

際領域です。実は、学部着任以前に九州で磯村英一元学長(故人)にお会いする機会がありました。その際「地域」という概念を大切にしてほしいと御示唆をいただいたのを、今でも鮮明に覚えています。近年、あるいは震災の直後からか、「地域」や「コミュニティ」を再考する風潮が強くなってきたように思います。この「地域」について、国際的なひろがりから身近な環境までを対象として捉え、生起する生活、文化、経済、環境など様々な分野を実践的、横断的に追究するのが「国際地域学」です。急速に変化している現代の経済・社会ですが、地球環境から相隣環境までを視野に入れた、現場(生活の場)としての地域(コミュニティ)に依拠することで、従来のタテ割りの学系をヨコに繋いだ将来の「新しい学び」が発展していくと期待しています。

3. 国際地域学部の活躍

近年、グローバルな市場の進展により先進国では若者の就職が次第に困難になる傾向が伺えますが、本学部を構成する国際地域学科と国際観光学科の2学科で見ますと、前者は国際展開につながる科目の配分とツールとしての語学力の習得、後者は好調な観光産業との連携などにより、幸いなことに比較的高い就職率を維持しているようです。

今年度の学部の教育・研究活動について報告します。まず、国際化につながる活動について、①オーストラリアのカーティン大学の学生を招いて、東京のまち歩きを実施し、学生間でのワークショップ、シンポジウムを開催しました。韓国から来校した学生との交流会も行いました。夏学期間には、モンゴルに出か

け、モンゴル科学技術大学の学生と本学部学生によるウランバートル市のまちづくりのワークショップを共同開催しています。各教員によるゼミ単位での専門を活かしたタイ、フィジーなどでの海外研修も盛んに行われました。②学部主催の研修も、オーストラリア・カーティン大、イギリス・セントラルランカシャー大での語学と地域・観光研修、フィリピン・UPセブ大学での地域開発の研修、サウスウェスタン大学での語学研修、韓国・建国大学での地域づくりと文化を学ぶ研修などを実施しています。③国際地域学科では英語で学ぶ専門科目を学科専門科目全体の3割とし、意欲的な学生を対象にしてグループ化し、彼らが英語でコミュニケーションできる場所も確保して、統一したプログラムの履修を推進しています。④すでに6年目になりますが、各国の大使を招聘し、大使リレー講座を継続させています。

さらに、国内の活動では、各地からの要請に基づき、米沢市や大震災被災地などで地域づくりや観光振興に関わっています。昨年度からは合同ゼミによる「能登ゼミ」を組織して能登の中山間地域で現地研修を行っています。この様子は連日地元の新聞に掲載されました。

4. 国際地域学部の将来

21世紀は大きな変革の世紀となります。資源の限界を基調とした地球環境問題、持続的な開発の模索、格差と貧困の拡大など、さまざまな課題が地域づくりに関わる私たちの前にあります。これら難問の解決に向かうとき、国際地域学部への期待がますます大きくなることは容易に予想されるところでしょう。複雑で多様に展開する「地域」からの発想―そこには集まって住む人々と、そのよって立つ環境とが紡ぎだす無限の可能性が秘められています。

創設当初からのミッションを掲げつつ、豊かな地域の未来を拓く国際地域学部の研究・教育活動に、関係各位の変わらぬご支援をお願いする次第です。



生命科学部の取り組み

生命科学部長 岡崎 渉

生命科学部応用生物科学科教授

1949年宮城県仙台市生まれ、1955年より浦和在住。東洋大学工学部応用化学卒業、同大学院博士課程修了、工学博士（東洋大学）。（株）アリミノを経て、1997年生命科学部助教授、2008年同教授、2012年12月生命科学部長、2010年地域活性化研究所長。専門分野は、応用微生物学、酵素科学、香粧品化学。

生命科学部と食環境科学部

生命科学部3学科体制（生命科学科、応用生物科学科、食環境科学科）の1期生が3月に卒業しました。また、本年4月に新学部として「食環境科学部」が設置され、食環境科学科（フードサイエンス専攻、スポーツ・食品機能専攻）および健康栄養学科（管理栄養士養成）が開設されました。食環境科学科の2～4年生は、「生命科学部食環境科学科」の学生として卒業まで勉学に励むことになります。

学習支援

若手の教員によって学習支援室が運営され、講義の予習・復習サポート、および、バイオ技術者認定試験の受験指導等を行なっています。また、学習支援室の開室時間を1限の授業の準備ができるように、開室時間を繰り上げ午前8時としました。これにより、開室時間延長による利便性の向上を図ることができました。

資格取得の促進を行っています。高等学校・中

学校教諭免許（理科）取得のため教育実習などのサポート強化、バイオ技術者認定試験（中級・上級）については、授業科目「ライフサイエンス基礎Ⅰ・Ⅱ」の中でフォローするとともに専門科目間の連携を強化して高い合格率を目指しています。資格取得、成績優秀者を対象とした表彰制度を設けています。

キャリアアッププログラム

卒業、就職活動を踏まえた活動を行っています。初年次導入教育として設定されている「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」において、大学生活設計、自身を知るの他、アカデミックスキルの習得、学習目標・動機の獲得、キャリア観・コミュニケーション能力の育成を行い、進路検討、就活にスムーズに入ることができるようになっています。

就業力育成プログラムにより、工場見学などを行い、事前学習、見学先での担当者とのディスカッションにより、職業観を養成しています。

生命科学、技術等の分野では、分析技術が求められています。分析機器の技術指導プログラムを展開し、より専門領域でのスキル向上と就業力向上を目指しています。所定のプログラムを修了したものは、修了証を発行し、履歴書に記載できるようにし

ています。

語学力向上

生命科学領域あるいは就職してから、英語力を求められることが多々あり、それに対応できるように語学力アップを目指しています。英語が苦手な新入生の専門英語強化を目的とした「英語による専門講義初級プログラム」を導入し、ライフサイエンス基礎用語の習得、海外情報収集能力、国際学会発表、海外留学に対するモチベーション向上を図るようにし、専門的かつグローバルな人材育成を行っています。また、TOEICテストの導入により教養教育における英語教育の充実を図り、定期的に受験することにより、自分の英語力を常に確認できるようにしています。大学院生命科学研究科で実施される国際シンポジウム等への学部生の積極的な参加を推奨しています。

女子運動部の活躍

〔陸上部〕

9月29日に全日本大学女子駅伝の関東地区予選会が千葉県で実施され、板倉キャンパスに本拠地を置く陸上部女子長距離部門が創部2年目でその大会への出場権を獲得しました。10月27日（日）に第31回全日本大学女子駅伝が宮城県で開催され、出場し総合18位の成績でした。

〔サッカー部〕

本年4月に創部された「女子サッカー部」は、2部で5位と大健闘しています。引き続き板倉運動部の応援よろしく願います。



平成25年度に新設した学部 「食環境科学部」

食環境科学部長 林 清

食環境科学部教授

1952年 愛知県刈谷市に生まれる。名古屋大学農学部農芸化学科卒業。農林省 食品総合研究所研究員、農林水産省首席研究開発企画官(独 農業、食品産業技術総合研究機構 理事、食品総合研究所 所長)を経て2013年4月より現職。
専門は食品科学、微生物利用、酵素利用。博士(農学)
主な著書は、食品技術総合事典(朝倉書店)、総合 調理用語辞典(社団法人 全国調理師養成施設協会)、Biocatalysis and Agricultural Biotechnology (CRC Press)等多数。

1. 生命科学部食環境科学科から食環境科学部へと改組

①生命科学部食環境科学科(入学定員100名)の募集を停止し、食環境科学部食環境科学科(入学定員120名)を設置しました。この食環境科学科には、フードサイエンス専攻(入学定員70名)とスポーツ・食品機能専攻(入学定員50名)を設けました。
②食環境科学部健康栄養学科(入学定員100名)を新たに設置しました。

平成25(2013)年度より、2学部4学科2専攻体制に

平成21(2009)年度

生命科学部

- ・生命科学科(入学定員100名)
- ・応用生物科学科(入学定員100名)
- ・食環境科学科(入学定員100名)



平成25(2013)年度

生命科学部

- ・生命科学科(入学定員100名)
- ・応用生物科学科(入学定員100名)

食環境科学部

- ・食環境科学科(入学定員120名)
 - フードサイエンス専攻[入学定員70名]
 - スポーツ・食品機能専攻[入学定員50名]
- ・健康栄養学科(入学定員100名)

2. 食環境科学部の概要

近年、平均寿命の伸長と出生率の長期的な低下により、2050年には、ほぼ3人に1人が65歳以上となる超高齢社会を迎えるとともに、食生活

の多様化による食習慣の乱れや運動不足等により生活習慣病が増加し、食と健康に関わる問題がクローズアップされています。

生命科学部食環境科学科では、これらの課題に對して、これまで食環境科学における一つの側面として捉え、栄養指導に関連する科目を配置して対応してきました。しかし、傷病者の療養のための栄養指導、あるいは個人の栄養状態等に応じた健康の保持・増進のための栄養指導など、栄養に関する知識・技能が高度化し、専門性が増しています。このため、平成25年4月より板倉キャンパスに、これまでの生命科学部食環境科学科を基礎とした食環境科学科と、管理栄養士を養成する健康栄養学科の2学科を擁する食環境科学部を新しく設置しました。

食環境科学部では、食品の機能科学や栄養・健康科学を総合的に探究し、これを高度な栄養指導に発展させ、生命と健康、食の安全に係る分野で活躍できる人材を育成し、国民が生涯にわたり健康的で明るく、活力ある生活が送れる社会づくりに貢献して行きます。また、これらのことは、本年6月に閣議決定された国の科学技術イノベーション総合戦略においても、国際社会の先駆けとなる健康長寿社会の実現(健康寿命の延伸)として謳われています。

3. 食環境科学科の概要

食環境科学科は、フードサイエンス専攻とスポーツ・食品機能専攻の2専攻としています。

○フードサイエンス専攻では、これまでの生命科学部食環境科学科の教育を踏襲し、食品の機能科学、栄養・健康科学、食品の安全、あるいは食育を通じた食文化の維持・向上などの専門知識を学び、健康の視点から食をコー

ディネートする総合力の育成、先端的バイオテクノロジーを基礎とした食品機能と食品の安全を高度に追及できる専門能力の育成を行い、食環境を総合的に理解し食の安全を追及する食品技術者を養成します。

○スポーツ・食品機能専攻では、生命科学の知識を基礎に、栄養学、食品学、衛生学、人体の構造と機能、健康増進のための運動と食品が持つ機能(栄養)の関係を学び、身体活動に伴う食事・栄養の摂り方などの専門知識を修得し、食品機能が人体におよぼす影響から生命の営みを科学的に探究する食品機能科学、スポーツ栄養科学を熟知した食品技術者を養成します。また、この専攻では、板倉キャンパスにある陸上競技部女子長距離部門及びサッカー部女子部と連携し、学部教育をスポーツ活動の中で実践します。

4. 健康栄養学科の概要

健康栄養学科では、生命科学分野の幅広い知識を有し、健康と食との間をつなぐ専門的知識と技術を修得し、医療・福祉・栄養行政の分野の専門職を目指して、社会に貢献できる高度な知識と技術力をもった管理栄養士として、地域社会に参画し、人々の生活の質(QOL: Quality of Life)の向上に貢献できる人材を養成します。管理栄養士の活躍の範囲は今後、給食サービスからメデイカルサポートへと移行の時期を迎えつつあり、今後の職業ニーズが高まることが期待されます。

5. やすひ

これらの2学科を統合して食環境科学部とすることにより、食品の機能を総合的に探究し、これを高度な栄養指導に発展させ、健康格差を生まない社会創りに貢献できる人材を育成します。また、板倉キャンパスに併設されている生命科学部との協働により、再生医療、革新的医療診断システムの開発など、総合大学の強みを生かして健康寿命の延伸に取り組みます。さらに、板倉キャンパスにある陸上競技部女子長距離部門及びサッカー部女子部とも連携し、スポーツ栄養科学をスポーツ活動の中で実践し、発展させます。

今後とも、雨水会の皆様の暖かいご支援・ご協力をお願いいたします。



社会貢献活動の中で培う実践力

ライフデザイン学部長 白石 弘巳

ライフデザイン学部生活支援学科教授

1979年東京医科歯科大学医学部卒業。1989年同大大学院修士課程修了。専門は精神医学、精神保健学。2005年4月ライフデザイン学部開設に伴い着任。2013年4月から学部長。精神疾患に罹患した人の地域生活支援、家族支援、精神保健福祉法制度などに関する研究の傍ら、国や東京都等自治体の精神、障害分野の各種委員を歴任。

来年、ライフデザイン学部は学部開設10周年を迎えます。「ライフデザイン」という名称の学部を設置したのは東洋大学が最初ですが、今や、この名称がついた学部、学科やコースを設置している大学、短期大学、高校は相当数に上っています。「ライフデザイン学」を構想された初代古川孝順学部長をはじめ、開設準備に当たった教職員の慧眼に改めて敬意を表するとともに、「本家」として「ライフデザイン学」の理念をさらに発展させていきたいと念じています。

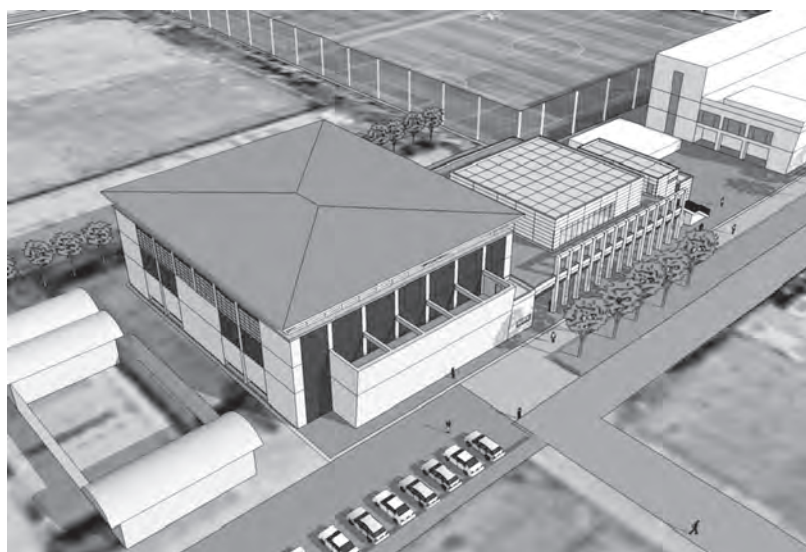
ライフデザイン学は、「21世紀の生活をデザインし、創造する」ための「ネットワーク学」です。学生がそれぞれの学科で主に学んでいるのは、高齢者、障害者、子どもなどへの支援方法、スポーツを通じた健康づくり、利用者を意識したものづくりやまちづくり、などですが、一つの問題に対し、総合的に取り組む力を養えるところにライフデザイン学部の強みがあります。この目的を達成する方法の一つとして、ライフデザイン学部では社会のさまざまなニーズに応えつつ、教職員と学生が一体となって取り組む活動に力を入れてきました。例えば、主に地元朝霞市の住民を対象とする、地域子育て支援のための「子育てサブリ」、高齢の方々を対象とする健康推進プログラムである「Keep Active」、小学生の学ぶ力や生きる力の向上をめざし、市、企業、NPOなどとともに共同で実施する「子ども大学あさか」のほか、北区

では高齢者にやさしいまちづくりや見守りの支援を行う「高齢者見守りサポーター」あるいは東日本大震災の被災地に対する「復興支援プロジェクト」など、さまざまな取り組みを展開しています。いずれも、社会貢献とともに学生の視野を広げ、実践力をつける貴重な機会になっています。特に、「子ども大学あさか」の実践によって、ライフデザイン学部は、昨年、子どもたちの豊かな心をはぐくむために、日々教育活動に熱心に取り組んでいる団体に贈られる「埼玉・教育ふれあい賞」を受賞しました。

このほかの取り組みとして、生活支援学専攻では、卒業生との交流を通じて在校生が現場を知る機会となる「アドボカシーセミナー」が行われ、子ども支援学専攻では、2年生ゼミで卒業生が体験談を話す機会を設けています。健康スポーツ学科では学生の自主運営活動として、保健体育教員志望の学生たちが週一回学年を問わず参加できる勉強会が開かれ、また解剖学の自主勉強会の成果は学会や紀要で発表されています。人間環境デザイン学科では、製品開発に携わった一流の技術者を招き講演いただき、自ら「デザイン思考」の過程を体験する「デザイン未来塾」が行われています。いずれも、日常の講義や演習を補完し、卒業後社会で活躍する力になると信じています。国家試験についての指導も行われており、例えば、本年の社会福祉士の国家試験は、合格率全国平均18.8%という難関でしたがが本学部では42.9%と健闘しました。

卒業時のアンケートで、「他の人に誇りを持って薦められる学部の良い点」の項目でライフデザイン学部は「資格取得指導」「教育内容」「教員」が全学でトップであったことも、ご紹介した教育活動な

どに対する学生の評価の表れではないかと自負するとともに、さらに充実した教育をめざして新体育館の建設や学生の交流スペース整備など、施設面でも拡充を図っているところです。保護者や家族の皆様が朝霞校舎を直に見ていただく機会として、浦水会首都圏13支部の会員の方には、毎年朝霞キャンパスで開催される浦水懇談会のほか、学園祭や講演会があります。講演会は、春は学術講演会、秋は市民大学講座として本学教員などが講演しています。来年は学部開設10周年の記念行事も計画しておりますので、是非朝霞キャンパスに足をお運びいただき、キャンパスやここで学ぶ学生の様子を見ていただければと存じます。



新体育館完成予想図(平成26年4月完成予定)

平成二十五年度 四校舎「甫水懇談会」

白山校舎甫水懇談会に協力して

教務部法学部教務課 課長 吉田 和弘

6月30日の日曜日に白山キャンパスにて甫水懇談会が開催され、梅雨の合間の暑い中、約800名の会員の皆様にご参加いただきました。

午前10時30分に開会した懇談会は、竹村牧男学長と大熊廣一常務理事の挨拶に続いて「採用側から見た就職活動の現状と学生の傾向」と題した就職講演会が、午後の全体会では甫水会会長のご挨拶、各学部長の紹介が行われ、その後、会員の皆様には各学部別（文・経済・経営・法・社会・国際地域学部）の説明会場へと移動していただきました。

私が担当する法学部は1号館3階の教室を会場とし、123名の会員の皆様に参加いただきました学部・学科説明会を行いました。

まず受付で2～4年生の保護者の皆様には成績表を、1年生の保護者の皆様には履修登録確認表を配付して会場に集めいただき、最初に櫻本正樹法学部長が法学部の教育方針について説明を行いました。その後、2～4年生の保護者の皆様は法学部教員との個人面談へと移り、6名の法学部教員がそれぞれブースに分かれ、受付で配付した成績表を見ながら単位修得状況などを説明し、質問に答える形で懇談をさせていただきました。

保護者の皆様からは、授業の出席状況は、順調に卒業できるのか、法学部を卒業した後の進路は、大学院への進学状況は、公務員試験の合格状況は、など様々な質問をいただきました。

個人面談と並行して1年生の保護者の皆様には、別会場で学生生活に関すること、授業に関することの他に、法学検定試験対策講座、公務員試験対策講座、夏季休暇中にロンドン大学で行う短期語学セミナー、外国人教員と昼食をとりながら英会話を楽しむイングリッシュランチ、模擬裁判、法律討論会、毎日昼休みに実施している個人面談など、法学部が独自に開催している行事を紹介し、これらのプログラムに参加することにより、学生生活を一層充実したものにしていただくようアドバイスをさせていただきました。そして、毎月14日に大学および法学部の現況をお知らせする法学部独自のメールサービス「14（トーヨー）メール」へのご登録をお願いしました。

また、順番待ちの方や面談が終了した方には、説明会と並行して行われていた校舎見学会にご参加いただくよう案内をさせていただきました。見学会は、昨年迎えた創立125周年を記念して

建設した8号館など、キャンパス内の諸施設をご覧いただく良い機会となったことと思います。

面談終了後は、2号館16階のスカイホールを会場に懇親会が行われ、会員の皆様と教職員が懇談をする機会となりました。

以上、今年度の懇談会の様子を紹介させていただきました。残念ながら今回参加いただけなかった皆様には、いずれ機会があればキャンパスに足を運んでいただき、学生たちが学習している様子をご覧いただけたら幸いです。

今回の面談、懇親会を通じて保護者の皆様が、学習の様子だけでなく、特に卒業後の進路に大きな関心をお持ちであり、就職支援など大学に対する期待がますます高まっていることを感じました。

東洋大学は、哲学を教育理念に据えた、伝統ある総合大学です。本学では、総合大学のメリットを生かして、学生の皆さんのニーズに応え、充実した学生生活を送っていただけるよう多彩なメニューを揃えています。学生の皆さんには、授業だけでなく各プログラムに参加し、大学という学びの場を積極的に利用することで、幅広い教養を身に付けるとともに、自己の専門を深め、社会人として必要とされるスキルを身に付け、大きく成長してほしいと願っております。そして卒業後に、東洋大学で学んで良かったと思っていただけを目標に、これからの支援をして参りたいと存じます。

川越校舎甫水懇談会に協力して

川越事務部教学課 課長 須田 文子

平成25年6月30日(日)川越キャンパスにおいて、179名の父母をお迎えし甫水懇談会が開催されました。

当日は、理工学部長、総合情報学部長の挨拶の後、グローバル・キャリア教育センター・副センター長、小島貴子理工学部准教授の「親力で決まる！就職活動での成長と希望」の講演が行われました。

近年の甫水懇談会におかれては、一番関心のあつたかと思ひます。

講演会終了後に個別面談が行われ、工学部、理工学部、総合情報学部に分かれて、各学科の教員による面談が行われました。また、ご父母からのアンケートでも質問の多い就職相談も個別に実施しました。

自由見学においては、機械工学科製図室、応用化学学生実験室、図書館、バイオ・ナノセンター・ベータ棟、硬式野球場、陸上競技場などを自由に見学していただきました。緑豊かな広大な学習環境を見ていただけたことと存じます。

今年度、川越校舎においては、基盤教育における、哲学・自校教育の重視とキャリア教育の推進、国際化の推進のための英語科目の充実を図るため、カリキュラムの改正をしました。

理工学部においては、「これからの技術者は、産業構造の多様化・グローバル化・少子高齢化による技術・価値観などの変化に対して、自己の本質を見失わず柔軟に対応できることが必要と考え、自己の本質を見失わない生き方」哲学（フィロソフィ）を持ち、探求する「理の知」とかたちづくる「工の知」の観点から次世代ものづくり技術の展開を担うことのできる実践的なエンジニアの育成を目指す」ことを目的としています。

総合情報学部においては、文理の枠を超え、社会・経済・文化・芸術・環境・心理などの多様な分野で情報を的確に収集・編集・表現し、情報通信技術（ICT）が促す知識社会を先導する人材、「第一級の情報の作り手・使い手」を育成することを目的としています。

川越キャンパスにおいては、このようなそれぞれ

れの学部の特徴に応じて、甫水懇談会の他、学習相談会も開催しています。成績、授業内容、学生生活などで不安を抱えた学生に、さらに行事のみではなく、教学課窓口、教員のオフィスアワーなど、さまざまな場面で、教職員が対応しております。

また、学習支援体制としては、基礎科目学習支援室（数学・物理）、英語学習支援室があります。

教員などによるきめの細かい対応をしていますので、気軽にご利用ください。

最後に甫水懇談会は、ご子女の学習状況、学習環境を知る機会です、ぜひ多くの参加をお待ちしております。

板倉校舎甫水懇談会に協力して

板倉事務部板倉事務課 課長 吉田 邦子

6月22日板倉キャンパスにおいて甫水懇談会が開催されました。当日は100名を超える父母をお迎えし、盛況のうちに終了できましたことを改めて感謝申し上げます。

平成21年4月に国際地域学部が白山第2キャンパスに移転した後、板倉キャンパスは生命科学部生命科学科、生命科学部応用生物科学科、生命科学部食環境科学科の1学部3学科で運営してまいりました。このたび平成25年4月に生命科学部食環境科学科を基礎とし、食環境科学科、健康栄養学科を擁する食環境科学部を開設する運びとなり、新たな2学部体制となつて初の甫水懇談会となりました。

当日は大熊廣一常務理事の挨拶に始まり生命科学部、食環境科学部それぞれの学部長挨拶の後、株式会社ソーシャルデザインニング研究所より人事コンサルタントである櫻井照士氏をお招きし、「今、どんな学生が就職活動で結果を出しているか?」と題した50分にわたる講演を行っていたことができました。櫻井氏は板倉キャンパスで開催して

いる学生対象のキャリア講演会等にもお招きしご講演いただいております。企業での採用経験及び人材育成業務経験に裏打ちされた説得力あるトークが学生にも評判の講師です。保護者の皆様にとりましてはお子様の就職活動そして就職が一番の関心事であり、また心配事となつていくかと存じますので、ご興味を持って聴講していただけたのではないのでしょうか。

講演終了後は各学科に分かれ、学科説明にご参加いただきました。学科長による学科の教育内容等の説明をお聞きいただいたことでお子様が本学で学んでいる事の一端をご理解いただけたことと思います。

引き続き行つた個別面談では教員に加え、事務課職員が対応させていただきましたが、近年はお子様の成績表を保証人様宛に、年2度お送りし、ご家庭でご確認いただいているためか、成績に関する質問はそう多くはありません。やはり、一番の質問は就職活動、就職支援についてでした。板倉キャンパスでは、キャリア形成・就職支援室を設置

し専属で2名の相談員を配置している他、事務課にも担当者を置き、諸々の就職関連のイベント・講演会の企画、運営はもちろん、いつでも学生の質問に応じられる体制を整えております。就職活動は3年次にいきなり始まるものではありません。低学年のうちから「今何をするべきか」を考え行動することが必要です。板倉キャンパスでは、低学年のキャリア支援にも重点をおいています。

最後は、10万坪の広大な自然あふれるキャンパスツアーにご参加いただき、学生食堂で和やかに懇親会を行い、無事終了となりました。

2学部となつた板倉キャンパスは、「生命(命)」「環境」「食」「健康」「栄養」をキーワードに教育・研究活動に邁進するとともに、社会に貢献し、グローバルに活躍できる人材の育成を目指し、学生・教員・職員が一環となつて取り組んで参ります。ご父母の皆様にも引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成二十五年度「朝霞校舎南水会懇談会に協力して」

朝霞事務部 部長 柴田 幹男

●朝霞校舎における南水会懇談会

今年度は六月二十二日(土)午後十二時三十分より当校舎の講義棟三・四教室において、全体会として南水会役員からの開会宣言と挨拶、ライフデザイン学部長の挨拶、就職に関する講演と続き、その後、ライフデザイン学部の各学科・専攻ごとの説明会および各種個別相談会、キャンパスツアー、懇親会のプログラムが予定通り進行した。

保護者の参加は九十名ほどでしたが、全体会の挨拶では本学が目指す「グローバル人材」の育成について、それぞれの立場から学生支援への期待、対応等が述べられた。就職に関する講演会では、不肖柴田より「キャリア教育と卒業生の進路」と題して、今年三月のライフデザイン学部卒業生の卒業後の進路アンケート調査を基にした各学科・専攻ごとの進路実態を説明し、その進路の特徴的な事例を分析して、今後のライフデザイン学部学生の就職活動への準備、アプローチへの道筋、支援策のヒントを提示したという内容でした。提示例として、「企業と本学学生のコミュニケーションギャップ」のデータを示し、企業が採用基準として重視する項目と学生が面接等でアピールする項目を比較して、特にギャップが著しい例として、学生は「アルバイト経験や所属サークルクラブ活動」をアピールポイントとしているものの、企業側はまったくそのように考えていないことを紹介した。また、企業が実際に行った採用活動プロセスと学生が実際に行った就職活動プロセスをその実施率からの比較で、企業等採用者が学生に求めている項目と学生が就職活動で

重視している項目のギャップを例示し、今後、ライフデザイン学部学生の就職活動が効果あるものとする具体策―採用側の意図などの確な情報収集活動と速やかな学生への情報還元を図りつつ、各種の就職講座、相談業務などのルーティン活動を通じて決め細やかな支援をしていくことなどの説明を行った。

●朝霞校舎およびライフデザイン学部の紹介

朝霞校舎は一九七七(昭和五十二)年に開校したのですが、当時は、東洋大学の本部校舎である白山校舎(東京都文京区白山五丁目)の五学部(文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会学部および第二部)の一年から四年生の一貫授業体制でした。しかし、校舎、校地が狭隘で学生収容能力も限界に達していました。これを解消するために、現在の朝霞校舎の用地を取得し、前述の白山校舎五学部の一、二年生が授業を展開する校舎として現在に至りました。当時は都内にあったほとんどの総合大学が、本学と同じ理由で郊外に移転してきました。二〇〇五(平成十七)年にこの五学部の一、二年生が白山校舎での一貫教育が可能となったことに伴う移転により、新たに、ライフデザイン学部が誕生しました。来年は学部開設十周年を迎えます。

ライフデザイン学部はQOL(Quality Of Life 生活の質)の考え方に基づき、生命の営みと生活をどのように描くのか、そのことに関する教育と研究を行う学部です。生活上の困難や障害、又、その支援の方法、心身機能や健康の維持・促進、生

活環境の整備や街づくりまで人々の生活に係る諸問題を総合的に分析し、それらに対応する政策や技術のあり方を、理論と実践の両面から学生に修得させる教育を行っています。又、地域社会の一員として地域住民、行政の期待に応える住民参加型の特色ある学部教育も展開しています。

●本学の将来構想とライフデザイン学部

二十一世紀にあるべき本学の姿は、百二十五年前に学祖井上円了が唱えた「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」の言葉に象徴されています。物事の本質を見極める力を持ち、自立した東洋大生を世に送り出すことです。現在の「グローバル人材」の育成のための三本柱である「哲学教育」「国際化教育」「キャリア教育」は、自己を探索し、多様な価値観に触れ、自律(自立)した社会人としての東洋大生を世に送り出すことです。その方向性の枠組みでライフデザイン学部の教育も展開していくこととなります。

●終わりに

現在建設中の新体育館および学生ホール、テニスコートの設置、来年度リニューアルする図書館などキャンパス内諸施設設備の再整備を進めています。正課、課外活動、学習の場面において、この諸施設を大いに利用するよう保護者の皆様からもご子弟にお話をいただけると幸いです。

●朝霞校舎に関する問い合わせなどがありましたら左記までにご連絡ください。

電話〇四八―四六八―六三一
朝霞事務部 朝霞事務課

以上

白山校舎浦水懇談会に出席して

東洋大学浦水会副会長 須田 龍一

「文3.6% 158」経3.8% 131「営3.6% 134」法4.2% 123「社5.1% 167」
「国3.8% 83」

首都圏（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県）にお住いで、白山校舎に通学されるご子女の保証人（父母、保護者）を対象とする「浦水懇談会」（平成25年6月30日）のデータを「学部、出席率、出席者数」の順に記してみました。白山全体が796、19926名、3.99%という出席率は低いと思われるかもしれませんが、しかし昨年度の651名に比して、22%のアップは素直に喜んでいいことではありましょう。今後更に出席者の増加を目指すなら、社会学部の出席率がなぜ群を抜いて高いのか、過去はどうであったのかの検証が必要です。

浦水懇談会の内容ですが、全体会冒頭の竹村牧男学長のご挨拶の骨子を「井上円了の『哲学教育』を基にした『人間力育成』は、『現東洋大の目指す『国際的通用力育成』に適うもの』と、筆者は解釈致しました。

次に東洋大学常務理事であり、浦水会常任理事である大熊廣一生命科学部長教授より「白山キャン

パスでの国際地域学部・法科大学院の講義開始、TOEICスコアと連動した英語教育・短期留学支援・キャンパス内英会話講座開設、社会で求められる汎用的能力・態度・志向育成プログラム導入、井上円了哲学塾（講師陣：堺屋太一・安藤忠雄・細川護熙・梅原猛など）の開設」がされるとの大学近況報告がされました。

更に、k.k.ABCエデュケーションの山本みどりc.cより「現大学生の最大の短所は『実体験の不足』であることを意識して日常を過ごす必要がある」との講演がされた後、応援指導部の演舞が披露されました。

午後、浦水会村田薫会長は「浦水会員であると同時に本学インド哲学科生でもあり、充実した学生生活を送っている」との挨拶を致し、文系6学部長教授（文・中山尚夫教授、経済・小川芳樹教授、経営・旭貴朗教授、法・櫻本正樹教授、社会・森田明美教授、国際地域・藤井敏信教授）の紹介があり、次いで学部・学科ごとの会場に分かれ、方針説明・後履修状況や進路の個別面談が行われ、同時進行で事務局職員による生活相談・就職相談・校舎見学が実施されました。

最後に16階スカイホールで懇親会が行われ、寛いだ雰囲気の中で浦水会員・教員・職員間の胸襟を開いた会話が見受けられました。

世に「面倒見のよい大学」を謳う大学は数多あります。しかし筆者にとつて三度目の浦水懇談会を俯瞰するに、ここまで懇切丁寧な父母会・保護者会を実施している大学はほとんど東洋大のみであり、この稀有なソフトが永久的に継承されるであろうことを筆者は確信しております。

時あたかもglobalismの真つ只中です。東洋大が国際化のhard&soft整備に傾注するのは当然であり、他大学の後塵を拝してはなりません。しかし、僧越の諷りを覚悟で私見を述べさせて頂くなら、我が国の外国語修得の体系は聖徳太子（の代）によりほぼ確立され、漱石によってその近代的表現を既に得ており、その文化的継承は連綿と成されてきたと筆者は認識しております。でなければ今日の日本の「国際成人力調査―読解力世界一」の説明がつかえません。

その詳細を語るには字数が尽きておりますが、即ちglobalityは「過程」であって、「目的」ではありません。過日、某外国語会話学校のnative speakerと接する機会を得た折、彼曰く「In the near future that tool will oust us from our office...」。と。彼の予見が正鵠を得るであろうと、筆者は必ずしも思っているわけではありません。しかし少なからぬ示唆を与えられたのであります。

平成二十五年度 支部総会(浦水懇談会)に出席して

平成二十五年度 栃木県支部総会に出席して

理工学部長(兼)工学部長 吉田 泰彦

7月末、栃木県において開催された支部総会(浦水懇談会)に参加いたしました。多くのご父母の方々にご参加いただき、特に新入生の保護者の方が四割と大学入学に際しての不安と期待が大きく反映しているものと感じられました。保護者の方々と大学の教職員の交流や説明会は非常に有意義なものであり、全国規模で行われている浦水懇談会による東洋大学の姿勢は参加者の方々から大きく評価されています。

大学側からの説明においてはまず、事務局から学生の就職状況と就職活動に勤しんでいる学生への保護者の方々の対応などについて具体的な例を挙げながらわかりやすく説明がなされ、就職活動状況や就職に対する不安がかなり解消したのではないかと推察されました。次に、大学側代表として資料「大学のいま」を基に大学全体の現状を報告しました。東洋大学創立者・井上円了先生について東洋大学の基礎理念「哲学」を説明し、福川伸次理事長と竹村牧男学長の人柄を踏まえて大学の方針等についてのお話をいたしました。昨年の東洋大学創立125周年記念を機に「未来への飛躍」を目指した東洋大学の取り組みと、各キャンパスの概要・施設について説明しました。

特に、「グローバル人材」を育成する三つの柱として、「哲学教育」、「国際化」と「キャリア教育」について「数字で見える東洋大学」のデータを示しながら詳細に説明し、高い就職率や企業からの求人数の多さなどから、就職に対しての不安について若干でも安心していただいたように感じます。

これらの説明において、理工系の学部は就職率が高いが原級率も高いことを取りあげ、理工学部長として「4年間での卒業」と「就職決定」を最重要課題として取り組んでいることを具体例をあげてお話しいたしました。大学の講義内容を理解することが困難な学生には学習支援室の利用を勧め、出席不良な学生に関しては必修科目を中心に出席チェックを行い学生・保護者の方に連絡をし、半期ごとに保護者の方々への説明会(学修相談会)を実施し、学生・保護者・教職員の協力による学生の「4年間での卒業」と「学士力の質保証」への取り組みへの保護者の方々のご理解と協力を求めました。就職に関しては保護者の方々の関心が高いこともあり、事務局からの就職の説明は高く評価され、グローバル・キャリア教育センターの設置とその活動に関心が高いようでした。しかし、キャリアアセンターの利用学生があまり多

くないことを説明したところ、「担当者が怖いからセンターを利用しない」との学生からの意見があることで、キャリアアセンター担当者の熱意が学生には伝わりにくい場合もあるようであり、大学としてはそのようなことも踏まえて学生へのキャリア教育・指導をしていくことが重要であると感じました。

教育と就職に關しての質問に加えて、保護者の方から次のような質問や要望がなされました。

○卒業式・入学式において保護者の出席者数制限があるが、出席者数の制限をしないではないか。

○板倉キャンパスの街灯・女子寮などセキュリティ・安全面に不安がある。

○板倉・朝霞・川越の学生食堂を白山キャンパスなみに充実してほしい。

○留学や語学研修、さらに協定校語学留学への関心が高い。

○浦水会の役員の方々は名札をつけているが、大学側の教職員の名札(部署・氏名)も着用した方がよいであろう。

以上のように多くの質問・要望がなされていましたが、前年時にも同様の質問事項があり、大学として即時に対応可能なものもあり、あるいは過去の質問事項にどのように対応したのかの説明がきちんとする必要があると感じました。

大学としてこのような懇親会は、保護者の方々のご理解をいただく機会として、また保護者の方々の要望等の情報に接することができる機会として貴重であり、「未来ある若者」の育成を目指し、保護者の方々と大学教職員が理解・協力し合っていきたいと思っております。

石川県支部総会(浦水懇談会)に出席して

学生部学生生活課 課長 市橋 敏之

8月3日土曜日に開催された東洋大学浦水会
石川県支部浦水懇談会・支部総会に出席させてい
ただきました。大学からは中山文学部長と職員3
名で出席させていただきました。私たち職員は主
にご父母との面談を行いました。面談では成績表

を基にした学業状況の確認と注意事項の伝達を
行いました。成績表は父母へ送付するシステムを
行っていますが、成績表の見方などの理解に難し
い部分もあるため、丁寧に説明することに努めま
した。石川県支部への参加に際し、面談を希望す
る方々のご子女の成績内容を各学部教務担当者
から事前に詳細を知らせていただき、正確な内容
をご父母にお伝えすることに努めました。面談で
は就職に関する相談が多くありました。ご父母の
話しからも石川県は関西(大阪)圏への大学進学
が多く、Uターン就職に際しては企業側の関東の
大学に関する認識が低いのではというお話しが
ありました。ご父母にはご子女に対し本学のキャ
リア支援は充実しているので積極的なキャリア
支援室の利用とキャリア支援行事への参加をお
願いました。

本学が国際化の推進を積極的に行っているな
か、留学に関する相談もありました。学内を問わ
ず学外にも多くの留学支援があり、ご父母にはそ

の留学の内容に不安も多く、また、大学が実施す
る留学制度を知りたいという相談もありました。
ご子女が在学期間中に留学を志望する場合には
国際推進課または各キャンパスの担当窓口をご
利用いただくことをお勧めいたしました。

今回の浦水懇談会の面談で「東京で何をして
いるかわからない」、「大学にあまり行っていな
いようだ」などの相談がありました。

近年はご子女とご父母を結ぶ連絡手段として、
携帯電話、メール、また、簡単に利用できるソー
シャルメディアのアプリケーション(Twitter・
Facebook・LINEなど)などのコミュニケーション
ツールがあります。ご父母のもとを離れ一人暮ら
しや合宿所・寮生活を始めると、いつしか連絡の間
隔があき、自分自身の用事があるときにしか連絡
をしなくなるようです。大学進学前には目で見え
ていたご子女の姿・様子が、離れ離れで暮らすこ
とによって、必要なときに必要なことだけのや
り取りしかなくなり、大学の成績や就職活動
のこと、また、学生生活におけるメンタル的なこ
となど、便利なツールではありますが、断片的に
しか見え伝わらないことから心配と不安が多く
あるそうです。それぞれが離れて暮らしている
も大学生生活をご子女と一緒に過ごすためには、

ご子女とのコミュニケーションを欠かさないこ
とであり、また、便利なコミュニケーションツ
ールを『効果的』に利用することで親子の信頼関係
を築いていただきたいと思います。

今回、石川県のご父母の皆様とお話しができ
たことで、ご子女と離れて暮らしているご父母
の気持ちがよくわかりました。また、会話の中か
ら大学への期待も感じ取ることができました。
大学がご父母のご期待に応え、ご子女の大学で
の生活がますます充実するように更に努める必
要があることをあらためて感じました。ご父母
の皆様には、面談で話した内容をご子女にお伝
えいただき、ご父母とご子女が一緒に大学生活
を過ごしていくきっかけにいただければと
存じます。

このたびは、このような機会を賜り、浦水会本
部、各支部役員の皆様、また、浦水会会員の皆様
に対し、あらためて感謝を申し上げますとともに、ご
子女のますますのご活躍をご祈念致します。

甫水会新潟県支部総会・甫水懇談会を終えて

甫水会新潟県支部前支部長 荒川 和夫

私が新潟県支部の役員に選出されたのが四年前の甫水懇談会・支部総会の日でした。選出なんてかつこ良い感じではなく、「来年の甫水懇談会・支部総会の受付のお手伝いをして頂けませんか？」と受付係の役員の方に聞かれて、「お手伝いならしますよ」と言った事が、イコール新役員選出と言う事になっていったようで、新役員紹介で「二年生役員の荒川さん」と紹介されてびっくり仰天し、同じ同学年役員の方々も「してやられた」と皆さん口々にしていました。この四年間の役員経験は本当に良かったと思っていますのは私だけでなく、同じ気持ちで役員活動されている方々ばかりでした。選出方法も二年前より、支部総会後の休憩時間に一年生の保護者の方々に、役員活動を説明して支部運営をお手伝いして頂ける方をお願いしています。

二五年度の甫水懇談会・支部総会は七月二一日の日曜日、会場は毎年同じ新潟市中央区「ホテルイタリア軒」新潟では老舗ホテルで創業明治七年の洋食店からホテルとなった、伝統と格式のあるホテルで、この五階「春日の間」にて午後一時より開催いたしました。

若き井上円了先生も洋食イタリア軒で食事したとかなんとか……？ 私の空想です。

来賓者も例年より大勢で、甫水会常任理事・大熊廣一教授ほか大学職員九名を派遣して頂きました。初めて校友会新潟県支部長をお誘いし、校友会と甫水会の交友を図る為、支部長の植木宏様へご連絡した所、校友会全国支部長会議と重なり、代理として本間直彦様がご臨席する事となりました。幹事役の川越事務部・岡田課長と打ち合わせを重ねた末、甫水懇談会や個人面談が、式次第通り以上のスムーズな進行で終える事ができ、ホッと胸を撫で下しました。支部役員全員も、役割分担をしっかりと果し、最高の甫水懇談会・支部総会にしようと心掛け、参加六三名の会員の方々をお迎えできました。

第一部は、支部長の「開会の挨拶」、続いて「甫水会代表の挨拶」を大熊教授にして頂き、「成績表の見方について」、「就職キャリア支援について」と続き、「校友会支部長の挨拶」、「大学代表の挨拶と報告・説明」を再び大熊教授に話して頂きました。

第二部は新潟県支部総会で各議案の説明と承認して頂き支部長として肩の荷を下す事が出来まし

た。忙しく楽しい貴重な一年だったと思います。

第三部は昨年まで就職説明会と同時開催を行っていましたが、今年は就職説明会を単独開催に致しましたので、その代りに講演会「東洋大学の学生生活とメンタルサポート」というテーマで学生部・太田次長より講演して頂きました。親元から離れ一人暮らしの不安、環境の変化に戸惑う学生がいます。そこで実際あった出来事や犯罪や病気に対処する大学側のサポート体制や予防策などを講演して頂き、会員の方々に役立てて頂ければ幸いです。

第四部の懇親会は過去最高の四二名の会員の参加にびっくり致しました。会員と来賓者で会話に花が咲き親睦を深める事が出来ました。特に他支部の保護者（元々新潟の方でお子様も新潟の高校卒業）の方が新潟県支部の総会の参加可否の確認の電話を私の所に頂き、即時参加をお願いしました。その保護者の方が、参加して参考になったと絶賛されていました。私は一般会員の方々が、他支部行事の参加を大いに行える甫水会だと思っています。このような事が言えるのは新潟県支部役員が努力した賜物と感謝致しております。最後に東洋大学と校友会そして甫水会の益々の発展と御健勝を祈念して、井上円了先生生誕の地、新潟県支部が大いに盛り上がる事を願ひまして報告に代えさせて頂きます。

宮崎県支部総会(浦水懇談会)を終えて 一期一会を大切に!

浦水会宮崎県支部長 藤原 稔

太陽と緑の国みやざき。記録的な猛暑の中、七夕の日に、宮崎市内の東洋大学OBが経営される「ホテル センチュリー宮崎」で宮崎県支部総会を開催いたしました。

浦水会宮崎県支部の会員数は、昨年の23名から30名と増えましたが、全国59支部の中でも小さい支部です。本校と遠く離れている地方とって、子どもがお世話になっていいる東洋大学を知る絶好の機会として、総会には、会員、校友会の方々など21名が参加されました。

宮崎支部では、本部との連携により会員相互の親睦、子どもも有意義なる学生生活の支援を活動の目的としています。支部総会は、会務審議、浦水懇談会、個別面談に加え、谷口前支部長が確立された地元企業による就職説明会、大学グッズ付懇親会など、会員にとって魅力ある催しにより楽しみながら東洋大学を知り、学生を支援することに配意しました。また、総会の運営には、支部役員が事前の企画会議を行い、当日の司会、参加者の誘導、写真記録など役割を分担して円滑な運営に心掛けています。これも子ども達の健やかな学生生活を願う親心と支部役員同士の仲の良さの賜物かと感じております。

肝心の総会は、永山副支部長が後の就職説明会までの全体進行を行い、開会、あいさつに続き、来賓紹介後、参加者全員の自己紹介がアイスブレイクとなり、和んだ雰囲気が始まりました。議事の審議では、石坂副支部長が議長で仕切られ、原案通り御承認いただきました。特に会務計画につい

ては、会員の集いへの参加が少ない状況を改善するため、支部独自の支援を事業化できました。ここ数年、会員の集いへの参加は、1名程度でしたが、今年は10名程度の参加が見込まれます。本支援事業は、効果と支部会計を検証して、今後の継続の必要性を判断することとしております。

浦水懇談会では、浦水会の菅原勝朗常任理事、文学部長の中山尚夫教授のお二方より浦水会及び大学の取組みなどを御紹介いただきました。特に初参加の支部会員にとっては、本学の学生支援に関する活動について理解が深まったことと拝察します。さらに、校友会の原田健宮崎県支部長から恒例の井上田了先生と宮崎との関わりの御講話により建学の精神を学びました。

就職説明会では、県内で事業展開をされている(株)宮崎銀行、デル(株)の人事担当の方々より企業として欲しい人材や経営戦略など滅多に聞けないお話をしていただき、会員より多くの質問がなされました。さらに、就職・キャリア支援部萩原剛志課長補佐の最近の就職状況の説明により、保護者として就活を支援していく心構えも新たに感じられたようです。

この間、並行して萩原課長補佐、川越事務部前原隆三主任による個人面談が行われ、会員の方々は、遠方で暮らすお子様の学事状況等がよく御理解できたことでしょう。

約5時間の総会后、県校友会の3名の方が合流され、幹事の迫田さんが女子アナ並みの進行による懇親会が始まりました。県校友会和泉謙二幹事

長が東洋大学ビールで乾杯後、大学グッズを景品とした東洋大学クイズ、ジャンケンポン大会など大いに盛り上がりました。グッズの一番人気は、井上田了先生と校歌をデザインした扇子のようです。総会、懇親会を通じて、東洋大学を介した会員にとっては、新たな出会いの場となりました。特に懇親会では、子どもの高校などを紐解くと旧知の間柄の方々も居られ、お食事会のお話もあったなど、会員相互の交流も深まったようです。この長時間の宴も浦水会事務局関志津雄様の締めで散会となりましたが、大学関係者と支部役員との二次会が続く、本部と支部のさらなる交流について関連なお話が続けられました。

このように、東洋大学が縁で、出会い、同じ価値観でお付き合いが始まる支部会員の方々が、楽しく、そして有益な情報が得られるよう支部の取組みが行われていくことに微力ながら尽力したいと思います。



盛り上がったジャンケンポン大会

大学事務局から

●大学の教育・学習の仕組み●

大学の教育システムは学部や学科ごとに「教育課程表」(カリキュラム)があり、学生はこの教育課程表に基づいて学習することになります。教育課程表には卒業までに修めるべき要件や1年間(1セメスタ)に履修できる単位数、条件等が設定されており、卒業にはその条件等を満たす必要があります。

教育課程表に掲げられた授業科目は、年度ごとに「授業時間割表」として大学から学生に提示されます。学生は「教育課程表」と「授業時間割表」に基づいて学習計画を立て、「自分自身の時間割」を作成することになります。学生が自由に選んで学習できる選択科目が豊富に開講されていますので、各学生の「授業時間割」は同学年・同学科の学生であっても、十人十色といっても過言ではありません。つまり、学生自身の自主性が重んじられることとなります。

文・経済・経営・法・社会・国際地域学部

教務部

■大学の授業

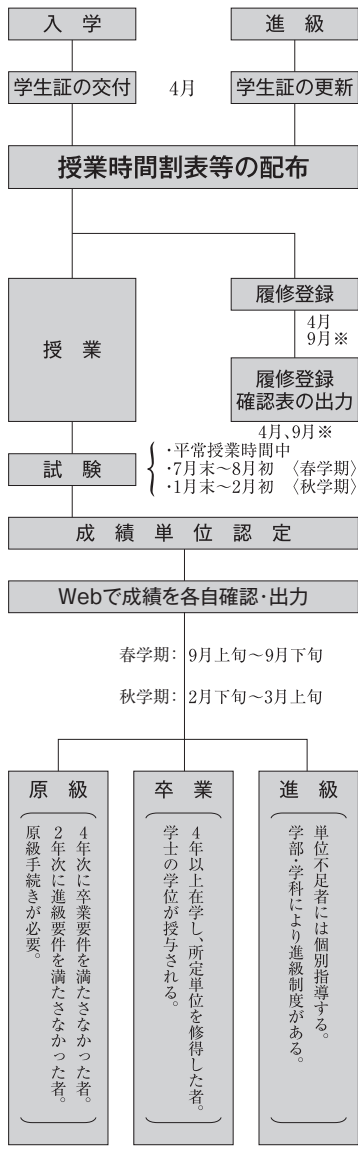
大学の授業は1年を春学期と秋学期の2期に分けて行われます。1年を通して完結する授業と、セメスタ制(※)というそれぞれの「学期」で完結する授業とがあります。いずれにしても常に授業に出席することが重要であることは言うまでもありません。また、授業科目の評価は学期末の試験で判定する科目、授業中にテストを行う科目やレポート提出を課す科目、出席状況を重視する科目等、その評価方法は授業により異なります。

大学生になると高校時代と比較して授業への出席を軽視する傾向が見受けられますが、授業に出

※セメスタ制

セメスタ制とは、1年を春学期(4月1日から9月30日まで)と秋学期(10月1日から翌年の3月31日まで)の2つの学期(セメスタ)に分け、4年間で8つのセメスタを段階的に積み上げて卒業するシステムです。半年単位で授業が完結することによって、授業効果を高め、学生が集中して学ぶことができ、学生の理解度を把握しやすくなるメリットがあります。

大学の学習・教育の仕組み



※経済・経営・国際地域学部および法学部の2012年度以降の入学生が対象。

白山キャンパス (2013年度)

1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:10～19:40
7時限	19:50～21:20

■修得単位数

4年間で卒業するための修得単位数の目安は、下記の表のようになっています。

学 年	単位数
1年	36～40
2年	72～80
3年	108以上
4年	124以上

■諸 資 格

大学では卒業に必要な科目のほかに、教員になるための教職課程や学部・学科の特性を生かした諸資格取得のための科目も開講しています。特に、本学では教職課程に力を注ぎ、基準以上の科目を開講し実力養成に努めています。教員になるための履修手続・相談等は各学部教務課で行います。

しかし、卒業要件のほかに諸資格関係の単位を修得することは、授業時間割の組み方等難しい点が多いので、希望者は1年次からしっかりと目標とそれに沿った学習計画をもって努力することが大切です。

授業科目と単位

授業の内容は大別すると基盤教育と専門科目に分けられます。また、卒業単位にはなりませんが、教員になるための教職課程科目があります。

さらに、授業科目は①必修科目②選択必修科目③選択科目④他学部他学科開放科目に区別され、履修できる年次(学年)が指定されるなど、ステップアップしながら体系的な学習ができるように配慮されています。

①必修科目とは卒業要件として必ず修得しなければならない授業科目、②選択必修科目とは特定の科目群(グループ)の中から所定の科目数(単位数)を選択し修得することが卒業要件になっている授業科目、③選択科目とは任意に選択でき修得単位を卒業要件の単位数に算入する授業科目となります。

また、④他学部他学科開放科目とは『学生が所属している学部の教育課程表に記載されていない他学部などの授業科目』で、卒業単位として算入されます。他学部他学科開放科目は各学科・コースにより、専門科目と併せて学習することにより、専門性が高まることや資格試験に役立ちます。



総合スポーツセンター(板橋)



白山6号館連絡通路「年表 東洋大学のあゆみ」雨水会創立50周年記念寄贈

入学年度別課程表

■文学部 2004～2007年度入学生

学 科 科目区分		第 1 部								第 2 部		
		哲	インド 哲	哲学文 中国	日本文学 文化	英米文	史	教育	英語 コミュニケーション	インド 哲	日本文学 文化	教育
共通総合科目		12～	16～	16～	16～	14～	16～	16～	16～	16～	㊦	16～
文学部 共通科目	文学部演習科目											
	文学部基礎専門科目											
	英語 コミュニケーション 科目	英語	16	8	4	12	8	4	8	10	8	8
		ドイツ語					6	4		4		
		フランス語										
		中国語					㊦					
	日本語							㊦				
諸資格関連科目												
インターンシップ・ボランティア活動	㊦											
学習支援特別講座												
専門科目	小計	16～	16～	14～	18～	20～	18～	16～	14～	16～	㊦	16～
	必修科目	38	36	36	14	30	38	28	42	18	14	28
	選択必修科目	26	38	42	56	18	8	12	40	48	56	12
	選択科目	24				16	24	32	㊦			32
小計		88～	74～	78～	70～	64～	70～	72～	82～	74～	70～	72～
卒業必要単位		124										

●第2部日本文学文化学科:㊦と㊦の合計で34単位以上 ●史学科:国際コミュニケーション科目は左側＝1年次、右側＝2年次
●㊦設定なし ●⓪留学生科目

■文学部 2008～2011年度入学生

学 科 科目区分		第 1 部									第 2 部		
		哲	インド 哲	哲学文 中国	日本文学 文化	英米文	史	人間教育 発達専攻	初等教育 専攻	英語 コミュニケーション	インド 哲	日本文学 文化	教育
共通総合科目		12～	16～	16～	16～	14～	16～	16～	16～	16～	16～	㊦	16～
文学部 共通科目	文学部演習科目												
	文学部基礎専門科目												
	英語 コミュニケーション	16	8	4	12	8	4	8	8	10	4	4	
	ドイツ語					6	4		4	4			
	フランス語					㊦							
	中国語	㊦											
	日本語 ⓪										㊦		
諸資格関連科目													
インターンシップ・ボランティア活動	㊦												
学習支援特別講座													
小計		16～	16～	14～	18～	20～	18～	16～	16～	14～	16～	㊦	16～
専門科目	必修科目	34	32	36	14	30	38	32	48	42	12	14	32
	選択必修科目	30	44	42	56	18	8	㊦	14	40	58	56	㊦
	選択科目	24				16	24	42	20	㊦			42
	小計	88～	76～	78～	70～	64～	70～	74～	82～	82～	74～	70～	74～
卒業必要単位		124											

●第2部日本文学文化学科:㊦と㊦の合計で34単位以上 ●史学科:国際コミュニケーション科目は左側＝1年次、右側＝2年次
●㊦設定なし ●⓪留学生科目

■文学部 2012年度以降入学生

学 科 科目区分		第 1 部									第 2 部				
		哲	東洋思想 文化	インド 哲	哲学 中国 文	日本 文学 文化	英米 文	史	教 育 人間発達 専攻	教 育 初等教育 専攻	英語 コミュニケーション	東洋思想 文化	インド 哲	日本 文学 文化	教 育
共通総合科目		12～	16～	16～	16～	16～	14～	16～	16～	16～	16～	16～	16～	㊦	16～
文学部 共通科目	文 学 部 教 育														
	文学部基礎専門科目														
	国際コミュニケーション 学 部 専 攻	英 語	16	4	8	4	12	8	4	8	8	10	4	4	4
		ド イ ツ 語		6				4	4	4	4	4	4	4	
		フ ラ ン ス 語													
		中 国 語													
	日 本 語	㊦	㊦												
諸 資 格 関 連 科 目															
キ ャ リ ア 教 育															
小 計		16～	16～	16～	14～	18～	20～	18～	16～	16～	14～	16～	16～	㊦	16～
専 門 科 目	必 修 科 目	34	34～	32	38	14	30	26～	32	48	42	34～	12	14	32
	選 択 必 修 科 目	30～	20～	44～	42～	54～	18～	20～	㊦	14～	40～	20～	58～	54～	㊦
	選 択 科 目	24～					16～	24～	42～	16～	㊦				42～
	小 計	88～	74～	76～	80～	68～	64～	70～	74～	82～	82～	74～	74～	68～	74～
卒業必要単位		124													

●第2部日本文学文化学科:㊦と㊦の合計で34単位以上 ●史学科:国際コミュニケーション科目は左側＝1年次、右側＝2年次
●㊦設定なし ●⓪留学生科目

※第1部東洋思想文化学科と第2部東洋思想文化学科は、2013年度以降入学生

入学年度別課程表

■経済学部 2004～2007年度入学生

学 科		第1部経済	国際経済	社会経済システム	第2部経済
科目区分					
一般教養的科目	人間探究分野				
	スポーツ健康科学分野	12	12		
	他学部開放科目				
	英 語	16	8	16	
	ドイツ語		12②		
	フランス語		8①③		
	中国語				
専門科目	情報分野				
	小 計	28～	40～	24～	16～
	必修科目	22	23	48	26
	選択科目A	52④	45	36	
	選択科目B				
卒業必要単位	小 計	74～	68～	84～	92～
	卒業必要単位	124			

- ①1年次配当科目→1か国語8単位
 ②2年次配当科目→1年次履修言語から1か国語8単位
 ③3年次配当科目→2年次履修言語から1か国語4単位
 ④3・4年次配当科目28単位以上を含む

〔「専門科目」と「一般教養的科目」で最低条件を修得した場合、卒業要件124単位までの残り単位を、選択科目A、選択科目B、一般教養的科目の中から自由に選択できます。〕

■経済学部 2008～2011年度入学生

学 科		第1部経済	国際経済	総合政策	第2部経済
科目区分					
一般教養的科目	教 養 科 目	12	12		
	他学部開放科目				
	英 語	16	8	16	
	ドイツ語		8②		
	フランス語		8①		
	中国語				
	小 計	28～	40～	24～	16～
専門科目	必修科目	20	22	38	6
	選択科目A	54③	46	46	10
	選択科目B				56
	小 計	74～	68～	84～	72～
卒業必要単位		124			

- ①1年次配当科目→1か国語8単位
 ②2年次配当科目→1年次履修言語から1か国語8単位
 ③3・4年次配当科目36単位以上を含む

■経済学部 2012年度以降入学生

学 科		第1部経済	国際経済	総合政策	第2部経済
科目区分					
基盤教育	共通教養科目				
	社会人基礎科目	12①	12①		
	留学支援科目				
	他学部開放科目			16③	16①
	英 語	8			
	ドイツ語		14②		
	フランス語				
専門科目	中国語				
	小 計	20～	26～	16～	16～
	必修科目	20	20	38	8
	選択科目A	54④	46	46	10
	選択科目B				54
卒業必要単位		74～	70～	84～	72～
卒業必要単位		124			

- ①共通教養科目(哲学・思想分野から選択必修2単位を含む)
 ②1年次配当科目→「英語I」4単位および「ドイツ語I」、「フランス語I」、「中国語I」の中から1か国語4単位必修
 2年次配当科目→「英語IIA」2単位および「ドイツ語IIA」、「フランス語IIA」、「中国語IIA」の3か国語から1か国語2単位選択必修、「英語IIB」、「ドイツ語IIB」、「フランス語IIB」、「中国語IIB」から2単位選択必修
 ③基盤教育16単位の中に語学系科目英語の必修8単位を含む
 ④3・4年次配当科目36単位以上を含む

■経営学部 2008～2011年度入学生

学 科		第1部経営	マーケティング	会計ファイナンス	第2部経営
科目区分					
一般教養的科目	人間探究分野				
	スポーツ健康科学分野				
	他学部開放科目				
	英 語	8	8	8	
	ドイツ語				
	フランス語				
	中国語				
専門科目	情報分野				
	小 計	24～	24～	24～	24～
	必修科目	2	2	2	
	基礎科目	10	10	10	6～
	選択科目	60～	60～	60～	78～
卒業必要単位		80～	80～	80～	84～
卒業必要単位		124			

■経営学部 2012年度以降入学生

学 科		第1部経営	マーケティング	会計ファイナンス	第2部経営
科目区分					
基盤教育	共通教養科目				
	社会人基礎科目				
	英 語	8	8	8	
	ドイツ語				
	フランス語				
	中国語				
	情報分野				
専門科目	他学部開放科目				
	留学支援科目				
	小 計	24～	24～	24～	24～
	必修科目	2	2	2	
	基礎科目	10～	10～	10～	6～
卒業必要単位		60～	60～	60～	78～
卒業必要単位		80～	80～	80～	84～
卒業必要単位		124			

入学年度別課程表

法学部 2004～2007年度入学生

学 科		第1部		第2部
		法 律	企 業 法	法 律
科目区分	人間探究分野	12	12	
	文化間コミュニケーション分野(外国語)	10 *	10 *	
	スポーツ健康分野			
	情報分野	—	—	
	小 計	28以上		
一般教養科目	必修科目	①24 ②36	26	12
	選択必修科目	①20 ②12	③22 ④16	4
	選択科目	①28 ②24	③24 ④30	60
	小 計	72以上		
	法学部内他学科開放科目			—
専門科目	法学部1・2部相互聴講科目	—	—	
	他学部他学科開放科目			
	学部共通科目注)			
	卒業必要単位数	124以上		

①総合政策コース ②法職コース
③企業法務コース ④国際企業コース
*2カ国語10単位
(うち1カ国語6単位、他1カ国語4単位、
ただし企業法学科のみ1年次英語必修)
注)2006～2007年度入学生対象

法学部 2008～2011年度入学生

学 科		第1部		第2部
		法 律	企 業 法	法 律
科目区分	人間探究分野	12	12	
	文化間コミュニケーション分野(外国語)	10 *	10 *	
	スポーツ健康分野			
	情報分野	—	—	
	学部留学科目			
一般教養科目	小 計	28以上		
	必修科目	①24 ②32	24	12
	選択必修科目	①20 ②16	③24 ④18	4
	選択科目	①28 ②24	③24 ④30	56
	小 計	72以上		
専門科目	法学部内他学科開放科目			—
	法学部1・2部相互聴講科目	—	—	
	専門開放科目(他学部他学科開放科目)			—
	他学部他学科開放科目	—	—	
	留学支援科目(英語特別教育科目)			
教職科目(一部分)				
	卒業必要単位数	124以上		

①公共政策コース ②法職コース
③企業法務コース ④国際企業コース
*1年次英語4単位・第2外国語4単位必修、
2年次2単位必修

法学部 2012年度以降入学生

学 科		第1部		第2部
		法 律	企 業 法	法 律
科目区分	共通教養科目	必修2 10	必修2 10	必修2
	スポーツと健康			
	社会人基礎科目	—	—	
	文化間コミュニケーション科目(外国語)	10 *	10 *	
	学部留学科目			
一般教養科目	小 計	28以上		
	必修科目	16	16	8
	選択必修科目	32	A部24 B部8 C部4	8
	選択科目			
	小 計	72以上		
専門科目	法学部内他学科開放科目			—
	法学部1・2部相互聴講科目	—	—	
	専門開放科目(他学部他学科開放科目)			—
	他学部他学科開放科目	—	—	
	留学支援科目(英語特別教育科目)			
教職科目(一部分)				
	卒業必要単位数	124以上		

*1年次英語4単位・第2外国語4単位必修、
2年次2単位必修

※上記コースは、1年次に希望調査を実施し、2年次から各コースに分かれて履修します。(2012年度以降入学生、第2部法律学科にはこの制度はありません。)

社会学部 2008～2011年度入学生

学 科 科目区分			第1部					第2部	
			社 会	シス テム 社会文化	社会福祉	ニゲ シヨ ン メディア コミュ	社会心理	社 会	社会福祉
共通総合科目	人間探究分野	自 然	4	4	4	4	4	20	20
		人 文	4	4	4	4	4		
		社 会							
	総 合								
	健康分野	実 技							
		講 義							
	文化間コミュニケーション分野	英 語	12	12	12	12	12	—	—
		ドイツ語							
		フランス語							
		中 国 語							
ハングル									
	(※1)日本語								
	小 計	24~36	24~36	24~36	24~36	24~36	20	20	
専門科目	学 科 必 修 科 目	28	20	16	20	28	26	18	
	専 門 選 択 必 修 科 目	24~	28~	32~	34~	20~	8	14	
	学 部 必 修 科 目	14	14	14	14	14	(選択) 28	(選択) 26	
	選 択 必 修 科 目	14~	14~	14~	14~	14~			
	小 計	80~	76~	76~	82~	76~	62	58	
(※2)留学支援科目									
卒業必要単位数			124						

●第2部共通総合科目は人間探究分野(自然・人文・社会)とスポーツ健康分野のみ
(※1)日本語は外国人留学生用
(※2)2007年以前に入学した学生は除く

社会学部 2012年度以降入学生

学 科		第1部					第2部		
		社 会	シス テム	社会文化	社会福祉	メディア ニケー ション	社会心理	社 会	社会福祉
科目区分									
基 盤 教 育	共通教養科目	哲 学 ・ 思 想	2	2	2	2	2	2	2
		自然・環境・生命	4	4	4	4	4		
		日本と世界の文化・歴史							
		現 代 ・ 社 会							
		スポーツと健康							
		総 合							
		文化間コミュニケーション	4	4	4	4	4		
		英 語	} 6	} 6	} 6	} 6	} 6		
		ド イ ツ 語							
		フ ラ ン ス 語							
	中 国 語								
	ハ ン グ ル								
	※ 日 本 語						—	—	
小 計	24～36	24～36	24～36	24～36	24～36	20	20		
社会人基礎									
留学支援									
専 門 科 目	学科専門 学部共通	必 修 科 目	30	20	16	20	30	26	22
		選択必修科目	22	28	36	34	20	8	10
		必 修 科 目	14	14	14	14	14	(選択) 28	(選択) 26
		選択必修科目	14	14	14	14	14		
	小 計	80～	76～	80～	82～	78～	62～	58～	
キャリア形成科目									
卒業必要単位数		124							

※日本語は外国人留学生用

入学年度別課程表

■国際地域学部 2008～2011年度入学生

学 科			国際地域	国際観光
科目区分				
共通総合領域	一般教養的教育科目	人 文	2	2
		社 会	2	2
		自然情報	2	2
		総 合	2	2
	外国語科目	英語(必修)	10	8
		中国語	2	2
		ハングル		
		フランス語		
		ドイツ語		
		スペイン語		
		マレー・インドネシア語		
		タイ語		
		選択(上記外国語より)	2	—
	健康科学	選 択		
専門領域	必修科目		30	22
	国際地域:選択必修科目 国際観光:第1選択科目		28	24
	国際地域:選択科目 国際観光:第2選択科目		22	36
	卒業必要単位数		124	124

■国際地域学部 2012年度以降入学生

学 科			国際地域	国際観光
科目区分				
基盤教育科目群	共通教養科目	哲 学 ・ 思 想	2	2
		自 然 ・ 環 境 ・ 生 命		
		日本と世界の文化・歴史		
		現 代 ・ 社 会		
		ス ポ ー ツ と 健 康		
		総 合		
	社 会 人 基 盤 科 目			
	留 学 支 援 科 目			
学部共通教育科目群	学 部 共 通 教 養 科 目		4	4
	語学教育科目	必 修	9	8
		選 択 必 修	2	2
		選 択	3	4
専門教育科目群	必 修 科 目		28	26
	国際地域：選択必修科目 国際観光：コース必修・選択必修科目		30	28
	選 択 科 目		22	28
	キャリア支援科目		2	—
卒業必要単位数			124	124

年間履修単位の上限

入学年度	学部	1・2部	学 年				備考
			1	2	3	4	
2004年度以降	文	1・2部	48	48	48	48	
	経済	1・2部	48 春24 秋24	48 春24 秋24	48 春24 秋24	48 春24 秋24	
	経営	1部	44 春22 秋22	44 春22 秋22	44 春22 秋22	44 春22 秋22	
		2部	48 春24 秋24	48 春24 秋24	48 春24 秋24	48 春24 秋24	
	法	1部	40	48	48	48	
		2部	48	48	48	48	
	社会	1・2部	48	48	48	48	
	国際地域	1・2部	44 春22 秋22	44 春22 秋22	48 春24 秋24	48 春24 秋24	

進級制度

文学部

哲学科のみ進級制度があります。2年次終了までに以下の科目単位数を修得しない場合は3年次に進級できません。

2004年度以降入学生

共通総合科目8単位、国際コミュニケーション科目10単位、専門科目の必修講義科目8単位、専門科目の必修・選択必修演習科目2単位計28単位

2012年度以降入学生

共通総合科目8単位、国際コミュニケーション科目8単位、専門科目の必修講義科目8単位、専門科目の必修・選択必修演習科目2単位計26単位

経済学部・経営学部

進級制度を導入していません。

法学部

2011年度以前入学生

第1部では2年終了時までに卒業に必要な単位のうち48単位以上を修得できなかった場合、3年生への進級はできません。3年生への進級ができなかった学生に対して、教員が面接による指導を行っています。また、在学年数4年を過ぎても3年生に進級できない場合は学則に基づき退学となります（休学期間是在学年数に含まれません）。

第1部で1年終了時に修得単位が20単位以下、2年次春学期終了時に修得単位30単位以下の単位僅少者に対しても面接指導を行っています。

社会学部

進級制度を導入していません。

国際地域学部

進級制度を導入していません。

4年次生について

文学部

卒業論文は各学科とも必修科目で、4年次配当の科目として置かれています。卒業論文執筆にあたっては、3年次より論文題目（テーマ）を決めていきますので、指導教員からの指導や資料収集など、指導教員や研究室との連携を密に取ることが大切です。提出期限は学科ごとに定められていますので、学内掲示板等に注意して下さい。なお、2004年度以降入学の第2部インド哲学科につ

いては、卒業論文は選択科目（2008年度以降入学生は選択必修科目）となります。また、4年次の履修にあたっては学科専門科目から必ず4単位以上履修かつ修得することが必要となります。

経済学部

所属の学科により、4年次については卒業要件を満たしたうえで、以下の条件を満たさないと卒業できません。

・2005～2011年度入学生（総合政策学科除く）
4年次最初のセメスタおよび最終セメスタで各1科目以上履修し、かつ4年次で専門科目を2科目以上修得

2012年度入学生

第1部経済学科、第2部経済学科は、4年次最初のセメスタおよび最終セメスタで1科目以上履修し、かつ4年次で専門科目を2科目以上修得
国際経済学科は、第7セメスタにて2単位以上履修し、かつ第8セメスタ以降において専門選択科目A、専門必修科目または語学系科目から合計6単位以上修得

経営学部

4年次については卒業要件を満たしたうえで、以下の条件を満たさないと卒業できません。

第1部 2004年度以降入学生

最終セメスタで卒業単位として認められる科目を2単位以上履修かつ修得

第2部 2004年度以降入学生

最終セメスタで卒業単位として認められる科目を2単位以上履修かつ修得

法学部

4年次については卒業要件を満たしたうえで、左記の条件を満たさないと卒業できません。

・第1・2部 2004～2007年度入学生

4年次には卒業単位として認められる科目を通年で4単位以上履修かつ修得が望ましい。

・第1・2部 2008年度以降入学生

4年次には卒業単位として認められる科目を春学期2単位、秋学期2単位以上履修しなければならぬ。

・第1・2部 2012年度以降入学生

4年次「第7セメスタ以降」には、卒業単位として認められる科目を春学期2単位、秋学期2単位以上履修しなければなりません。

社会学部

第1部、第2部とも全学科で「演習」が必修科目です。また、第1部社会学科では「卒業論文」、第1部社会福祉学科では「卒業課題研究」が必修科目となっています。

国際地域学部

国際地域学科国際地域専攻と国際観光学科は、最終セメスタに卒業論文の執筆が必要です。

国際地域学科地域総合専攻は、カリキュラムの特性上最終セメスタ前に卒業要件を満たしてしまう場合がありますが、最終セメスタで1科目以上の履修を推奨しています。

結 び

大学の動向は、年数回お手元に郵送される「東洋大学報」や雨水会報「東洋」において詳しく伝えられていると思います。大学内での事務手続の日程や、年間の行事予定もその都度掲載されます。特に履修や成績に関する手続方法・時期は学生にとって重要な事項ですが、学費の納入等は保証人の方にも大きな係わりがありますので、ご留意いただきたいと思います。

学生にとって大学教育を受ける4年間は、人生の中で最も貴重な期間に当たります。大学は学生諸君が自主的に自立的な学生生活を送られるよう切望しています。大学生活を有意義に過ごしていただくため、保証人の皆様のご協力をお願いいたします。
(教務部)

文・経済・経営・法・社会・国際地域学部

2013年度 年間スケジュール(抜粋)

春学期	春学期納付金納入期間	4月 1日(月)～ 4月25日(木)
	新入生教育期間	4月 1日(月)～ 4月 5日(金)
	時間割等配布	4月 4日(木)・ 5日(金)
	授 業 開 始	4月 8日(月)
	定期健康診断	4月 2日(火)～ 4月13日(土)
	授 業 終 了	7月24日(水)
	夏季休暇期間	8月 8日(木)～ 9月20日(金)
秋学期	授 業 開 始	9月21日(土)
	秋学期納付金納入期間	10月 1日(火)～10月15日(火)
	大 学 祭 期 間	11月 1日(金)～11月 4日(月)
	冬季休暇期間	12月24日(火)～ 1月 4日(土)
	授 業 終 了	1月21日(火)
	試 験 期 間	1月22日(水)～ 1月28日(火)
	春季休暇開始	2月 6日(木)
	4年生成績発表・卒業単位充足者発表	2月下旬
	1～3年生成績発表・進級単位充足者発表	3月上旬
	卒業決定者発表	3月中旬
	卒 業 式	3月23日(日)



宮崎県支部総会

グローバル人材育成推進事業の展開

国際地域学部教務課課長補佐 玉田 誠

(国際地域グローバルオフィス担当)

東洋大学の学生を哲学と国際的視野を兼ね備えた真の「グローバル人材」に成長させるプロジェクトが、静かに強力にスタートしています。昨年6月、文部科学省の募集した表題の事業コンペに応募し、見事採択されました(タイプB・特色型に111大学応募、31大学採択)。これにより、12年度から5年間にわたり毎年1億円近い財政支援を受けられることになりました。

採択を受けた国際地域学部が構想するグローバル人材像とは、「現場主義」に立ち国の内外の「地域づくり」や「観光振興」に貢献する国際的な視野「Think Globally, Act Locally」を持った職業人です。この育成目標を達成するため、今年4月、専門の部署・スタッフが組織され、国際地域グローバルオフィス(研修コーディネーター3名ほか)とランゲージセンター(ネイティブ講師2名ほか)を開設しました。学生は、コーディネーターを訪ねて様々なアドバイスを受けたリ、ランゲージセンターのライティング相談を予約してネイティブ教員の熱心な個別指導を受けたり、TOEFLとTOEICの対策講座、長期休暇中の特別講座を受講したりしています。また、Eポートフォリオを新たに開発し、学生の学習プロセスの可視化と成果分析を実施する体制を整備しました。これらの支援体制、サービスやシステムは、すべて無料で提供されています。

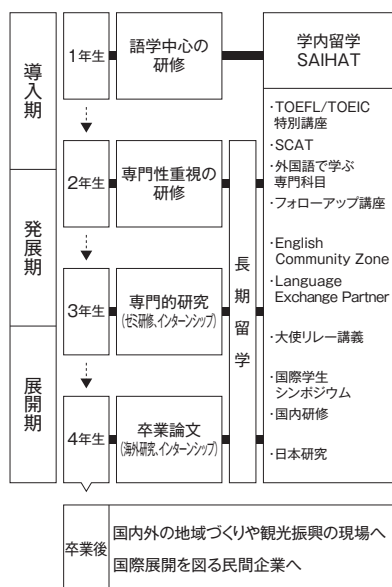


国際地域グローバルオフィスとランゲージセンター



Eポートフォリオを開発

当事業のミッションの一つは、若い世代の「内向き志向」を克服すべく国際的な経験を積ませることです。例えば、全学で実施する海外語学セミナーや交換留学、それに各学部で実施する研修などの海外派遣プログラムに出来るだけ多くの学生に行ってもらいたいと考えています。経済的負担を軽減する支援策として、一定の条件を満たした学生には返済の必要がない奨学金の支給もしています。単位認定も可能な「海外国際地域学研修」では、コーディネーターの引率のもと、効果的で安全な研修プログラムが実施されています。これはグローバル人材へのプロセス図です。



学生が無理なくステップアップできるように、1年次から4年次までを「導入期」「発展期」「展開期」の3期に分けた段階的なプロセスを設定しています。

〈表1〉本構想において実現する達成目標

本構想において 実現する達成目標		結果		計画				
国際地域学部 (昼夜合計)		2011	2012	2013	2014	2015	2016	
卒業時の外国語 カスタンダード 【TOEFL 550/ TOEIC 730 を満たす学生数				105人	126人	147人	168人	
うち海外留学 未経験者数 (A)				73人	84人	104人	115人	
海外留学経験者数 (B)		40人	98人	110人	135人	162人	190人	
卒業〔予定〕者数 (C)		462人	434人	530人	550人	550人	550人	
比率 (A+B)/C)				34.5%	39.8%	48.4%	55.5%	
国際地域学部	海外留学経験者数	40人	98人	110人	135人	162人	190人	
	内訳	3カ月未満	34人	79人	96人	118人	140人	162人
		3カ月～1年	6人	19人	14人	17人	22人	28人
		1 年 超	0人	0人	0人	0人	0人	0人

※上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。

まず、入学前から1年次に設定される導入期は、入学前・e-Learningプログラムに始まり、入学後のTOEFL/TOEIC特別講座、学内留学プログラムSAIHAT、語学研修プログラム等を取り入れていきます。続く2年次から3年次前半の発展期には、長期留学も視野にいれ、アカデミックライティング指導、専門性を重視した海外国際地域学研修や海外拠点研修といった現地研修に取り組みます。さらに、3年次後半から4年次の展開期では、卒業や就職を意識して、海外インターンシップやゼミ専門研修、卒業論文の英語での執筆といった学びの集大成となる内容が組まれています。そして、卒業後には国内外の地域づくりや観光振興の現場のほか、国際展開を図る民間企業等への就職を目指します。

最後に左の表をご覧ください。今後は、設定したノルマを実績化する努力が求められ、達成できないと補助金の減額もあります。13年度卒業生からは、TOEFLスコアで550点相当に到達した学生を100名超輩出する計画です。

是非ともご子息に海外経験を積むようお願いいたします。

理工(工)・総合情報学部

川越事務部教学課主任 笠原 隆

川越キャンパスでは、年度を二学期に分け、半年単位で授業が完結するセメスタ制を採用しています。学生が集中して学ぶことができることに、学生の理解度を把握しやすくするためです。

学習支援の取り組みとして、学修相談会の開催、基礎科目(英語・数学・物理)学習支援室の設置、学生休暇中の数学補習講座、出席不良者への連絡などを行っています。

授業科目と単位

理工(工)学部では、低学年から教養科目とともに、数学や物理、化学等の理工学共通の基礎科目を学ぶことで、上位学年に配された各学科の専門科目へと段階的に学習していきます。履修登録できる単位数は理工学部では、一セメスタあたり24単位、一年間では48単位(工学部では一セメスタあたり25単位、一年間では50単位)を上限としています。

総合情報学部では、情報を扱うための基礎となる科目を一年次に配しています。また、演習形式の科目を多く配し、実践的なスキルも磨きます。学問内容により4つに大別した専門科目を設けることで、学生ごとに異なる文理を超えた多様な将来の目標(業種・職種)に総合的に対応します。履修登録できる単位数は、一セメスタあたり24単位、一年間では、48単位を上限としています。

卒業論文・卒業研究着手条件

理工(工)学部では、三年生(第6セメスタ)終了



川越キャンパス7号館外観

時に卒業論文・卒業研究着手条件(理工学部については【表】を参照ください)の単位を修得していなければ、「卒業論文・卒業研究着手不可」となり、履修はできません。四年生に進級しても研究室に配属されず、その時点で原級(留年)が確定します。総合情報学部は、卒業論文・卒業研究着手条件はなく、卒業要件【表】を参照ください。を満たせば卒業となります。

いずれの学部も、しっかりと目標を持って学習計画を立て、努力することが大切です。

総合情報学部 卒業要件

(平成25年度以降入学生)

(単位)

科目区分	要件単位数
哲学・思想	
自然・環境・生命	
日本と世界の歴史・文化	
現代・社会	
スポーツと健康	
総合	
留学支援科目	
社会人基礎科目	
小計	21
必修科目	6
選択必修科目	4
小計	10
必修科目	14
選択必修科目	6
選択科目	
小計	77
教職関係科目	
他学部他学科専門科目	
合計	124

総合情報学部 卒業要件

(平成21～24年度入学生)

(単位)

科目区分	要件単位数
人間探究分野	
自然	
人文	
社会	
総合	
ウェルネス	2
文化間コミュニケーション分野	
留学支援科目	
人間形成分野	
小計	16
必修科目	26
選択必修科目	4
選択科目	
小計	92
他学部他学科聴講科目	
合計	124

授業時間

時限	時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
昼休み	12:10～13:10
3時限	13:10～14:40
4時限	14:50～16:20
5時限	16:30～18:00

■理工学部 卒業要件 (平成 25 年度以降入学生)

(単位)

科目区分 学科	基盤教育群								理工学共通科目群								専門科目群					副専攻科目群	他学部他学科専門科目	合計
	哲学思想	自然環境生命	日本と世界の歴史文化	現代社会	スポーツと健康	総合教養	社会人基礎科目	留学支援科目	小計	数学	物理学	化学	生物学	地学	情報処理	外国語	小計	必修	選択必修	選択	小計			
機 械 工 学 科									10	9	6	2			3	6	26	15	24		70			124
生 体 医 工 学 科					2				10	6	2	2	2		3	6	28	14	24		70			124
電気電子情報工学科									10	6	6				3	6	25	28	16		74			124
応 用 化 学 科	2								10	4	4	6				6	24	30	—		70			124
都市環境デザイン学科									10	6	2	2			2	6	24	12	2	12	70			124
建 築 学 科									10	6	4					6	24	21	4		70			124

■理工学部 卒業論文・卒業研究着手条件 (平成 25 年度以降入学生)

(単位)

科目区分 学科	基盤教育群								理工学共通科目群								専門科目群					副専攻科目群	他学部他学科専門科目	合計
	哲学思想	自然環境生命	日本と世界の歴史文化	現代社会	スポーツと健康	総合教養	社会人基礎科目	留学支援科目	小計	数学	物理学	化学	生物学	地学	情報処理	外国語	小計	必修	選択必修	選択	小計			
機 械 工 学 科									10	9	6	2			3	6	26	7	24		53			104
生 体 医 工 学 科					2				10	6	2	2	2		3	6	28	14	16		50			104
電気電子情報工学科									10	6	6				3	6	25	20	14		56			104
応 用 化 学 科	2								10	4	4	6				6	24	20	—		60			104
都市環境デザイン学科									10	6	2	2			2	6	24	4	2	12	60			104
建 築 学 科									10	6	4					6	24	12			50			104

※電気電子情報工学科では、卒業論文・卒業研究着手条件の合計単位数には副専攻科目群と他学部他学科専門科目の修得単位を含めません。

■理工学部 卒業要件 (平成 21～24 年度入学生)

(単位)

科目区分 学科	教養的科目群								理工学共通科目群								専門科目群					副専攻科目群	他学部他学科専門科目	合計
	自然科学	人文科学	社会科学	ウェルネス	コミュニケーションと文化	総合教養	留学支援科目	小計	数学	物理学	化学	生物学	地学	情報処理	外国語	小計	必修	選択必修	選択	小計				
機 械 工 学 科				2	2			10	9	6	2			3	6	26	6	30		70			124	
生 体 医 工 学 科				2				10	6	2	2	2		3	6	28	14	28		66			124	
電気電子情報工学科				2				10	10	6				3	6	25	28	16		74			124	
応 用 化 学 科	2	2	2					10	6	4	6	2			6	24	34	—		80			124	
都市環境デザイン学科				2	2			10	6	2	2			2	6	24	12	2	12	70			124	
建 築 学 科				2				10	6	4					6	24	21	2		70			124	

■理工学部 卒業論文・卒業研究着手条件 (平成 21～24 年度入学生)

(単位)

科目区分 学科	教養の科目群								理工学共通科目群								専門科目群					副専攻科目群	他学部他学科専門科目	合計
	自然科学	人文科学	社会科学	ウェルネス	コミュニケーションと文化	総合教養	留学支援科目	小計	数学	物理学	化学	生物学	地学	情報処理	外国語	小計	必修	選択必修	選択	小計				
機 械 工 学 科				2	2			10	9	6	2			3	6	26		26		53			104	
生 体 医 工 学 科				2				10	6	2	2	2		3	6	28	14	20		50			104	
電気電子情報工学科				2				10	10	6				3	6	25	20	14		56			104	
応 用 化 学 科	2	2	2					10	6	4	6	2			6	24	22	—		70			114	
都市環境デザイン学科				2	2			10	6	2	2			2	6	24	4	2	12	60			104	
建 築 学 科				2				10	6	4					6	24	12			50			104	

※電気電子情報工学科では、卒業論文・卒業研究着手条件の合計単位数には副専攻科目群と他学部他学科専門科目の修得単位を含めません。

※誌面の都合上、工学部の卒業要件、卒着条件を掲載できません。入学時に学生に配付している履修要覧をご確認ください。

はじめに

例年甫水懇談会では、新入生の保護者に対しては、学生がどのような授業を履修しているのかを確認することができ、「履修登録確認表」を、2年生以上の学生の保護者に対しては「甫水会用成績表」を作成し、説明資料としています。今回は1年を春学期・秋学期に分けて授業、試験および成績評価を行うセメスタ制の仕組みや履修方法などを次に掲載します。

なお、今後の学年歴については以下の通りです。

冬季休暇期間 12月24日(火)～1月4日(土)
 授業再開 1月6日(月)
 秋学期授業終了 1月25日(土)
 秋学期試験期間 2月3日(月)～2月8日(土)
 春季休暇期間 2月10日(月)～3月31日(月)
 3月卒業単位充足者発表 2月24日(月)
 3月卒業決定者発表 3月11日(火)
 卒業式 3月23日(日)
 在校生秋学期成績発表 3月下旬

セメスタ制

生命科学部・食環境科学部では、セメスタ制度を導入しています。この制度は、1年を春学期と秋学期の2つの学期(セメスタ)に分け、4年間で8つのセメスタを段階的に積み上げて卒業するシステムです。半年単位で授業が完結することによって、授業効果を高め、学生が集中して学ぶことができ、学生の理解度を把握しやすくなるメリットがあります。

授業時間

時 限	時 間
1時限	9:30～11:00
2時限	11:10～12:40
昼休み	12:40～13:20
3時限	13:20～14:50
4時限	15:00～16:30
5時限	16:40～18:10

原則として授業科目は、春学期または秋学期のいずれかに開講されます。
 なお授業時間は左記の通りですが、実験のように1日に2～3時限連続で行う科目もあります。そのほか、短期間に集中して開講される科目もあります。

セメスタ制の仕組み

1学年	第1セメスタ
	第2セメスタ
2学年	第3セメスタ
	第4セメスタ
3学年	第5セメスタ
	第6セメスタ
4学年	第7セメスタ
	第8セメスタ
卒 業	

履修方法

履修できる単位数は各学期24単位までです。学期ごとの定められた期間にWEB履修登録を行うことにより授業を履修することができます。
 次に説明する卒業論文着手条件を3年終了時までに満たすよう、1年生のうちから計画的に履修し単位を修得することが大切です。特に、生命科学部においては、定められた学年の必修科目をきちんと修得することが重要となります。



板倉キャンパス5号館(実験棟)外観

食環境科学部が開設されました

平成25年度4月、これまでの生命科学部食環境科学科を基礎とした食環境科学科と管理栄養士を養成する健康栄養学科の2学科(2専攻)を擁する、東洋大学の11番目の学部として食環境科学部が開設されました。

平均寿命の伸長と出生率の低下で、2050年には、ほぼ3人に1人が65歳以上の老年人口となる超高齢化社会が到来します。さらに、糖尿病やメタボリックシンドロームなどの生活習慣病が増加する昨今、生活習慣の改善、特に食生活の改善が社会的に重要な課題となっています。

このような社会的背景とニーズに対し、食環境科学部では、食品の機能科学や栄養・健康化学を総合的に探求し、これを高度な栄養指導に発展させ、生命と健康、食の安全に係る分野で活躍できる人材を育成することで、国民が生涯にわたり健康的で明るく、活力ある生活が送れる社会づくりに貢献しようと考えています。

食環境科学部	食環境科学科	フードサイエンス専攻
		スポーツ・食品機能専攻
	健康栄養学科	

学科(専攻)の特色

食環境科学科フードサイエンス専攻

先端的バイオテクノロジーを基礎に、食品機能と安全、未利用資源の有効活用、最新の分析技術を修得します。食品の安全・安心を高度に追求できる、食品技術のスペシャリストを育成します。新規食品や素材の開発研究、検査業務、食品産業分野など各フィールドでの活躍が期待されます。

食環境科学科スポーツ・食品機能専攻

運動と食品が持つ機能(栄養)の関係を学び、身体活動に伴う食事・栄養の摂り方などの専門知識を修得し、食品機能が人体に及ぼす影響から生命の営みを化学的に探求する食品機能学、スポーツ栄養科学を熟知した人材の育成を目指します。

健康栄養学科

管理栄養士(栄養士)養成施設に指定されています。資格取得だけに重きをおかず、研修能力やプレゼンテーション能力も兼ね備え、チーム医療やライフステージに応じた栄養アセスメントを強化し、「食と健康」の未来を見据えた専門性の高い栄養ケアマネジメントができる管理栄養士の養成を目指します。

生命科学部卒業論文着手条件

卒業論文・卒業研究(必修)に着手するのは4年次のはじめからですが、着手するためには3年次終了までに次の条件を満たさなければなりません。条件がひとつでも足りなければ、卒業論文・卒業研究に着手することができず、卒業延期となります。なお、修得単位は、卒業に必要な科目として認められているものとします。各領域の分類は次項「卒業要件」の表をご覧ください。

なお、食環境科学部は、平成25年度開設となり在籍学生は1年生のみですので、卒業論文着手条件については割愛します。

生命科学部卒業論文着手条件 2008~2012年度入学生

	生命科学科 2008年度 入学生	生命科学科 2009~2012年度 入学生	応用生物科学科 2009~2012年度 入学生	食環境科学科 (生命科学部) 2009~2012年度 入学生
総修得単位数	105単位以上			
一般教養的教育科目	人文4単位以上を含む12単位以上			
外国語科目	必修4単位および選択必修4単位以上を含む8単位以上			
専攻領域の 必修科目	27単位	25単位	21単位	実験科目9単位を 含めて21単位以上
専攻領域の 選択必修科目	24単位	34単位	24単位	26単位
専攻領域の選択科目、 各要件単位を 上回って修得した科目	34単位以上	26単位以上	40単位以上	38単位以上

2013年度入学生

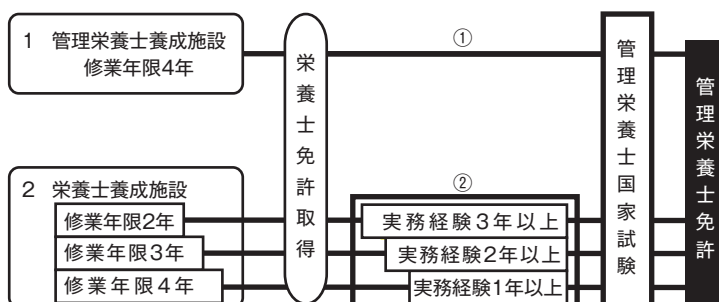
	生命科学科	応用生物科学科
1.総単位数	105単位以上	110単位以上
2.共通教養科目の哲学・思想	4単位以上	
3.共通教養科目の自然・環境・生命	4単位以上	
4.共通教養科目の文化間コミュニケーション	必修4単位を含む6単位以上	
5.基盤教育科目	20単位以上	
6.専門科目	70単位以上	—
7.専門科目の必修科目	28単位	26単位
8.専門科目の選択必修科目	基礎科学および4分野 すべてについて それぞれ4単位以上	基礎科学16単位 各自のコース6単位を 含む22単位
9.専門科目の選択必修科目(生命科学科)	上記7・8を含め32単位以上	
10.専門科目の選択科目、各要件単位を上回って 修得した科目(応用生物科学科)		42単位以上

生命科学部・食環境科学部取得可能資格

		生命科学部			食環境科学部		
		生命 科学科	応用生物 科学科	食環境科 学科 (2009～ 2012年度 入学生)	食環境科学科 (2013年度入学生)	健康栄養 学科	
教育 職員 免許状	中学教諭1種理科・ 高等学校 教諭1種理科	○	○	○	○	○	
	栄養教諭1種						○
管理栄養士(栄養士)							○
食品衛生管理者及び 食品衛生監視員(任用資格)		○ (2008年度 入学生のみ)		○	○	○	○
危険物取扱者(甲種)受験資格		○	○	○	○	○	○
バイオ技術者認定試験受験資格		○	○	○	○	○	○
フードスペシャリスト受験資格				○	○(予定)	○(予定)	○(予定)

生命科学部・食環境科学部では次の資格を取得することが可能です。なお各資格の取得には、それぞれ条件があります。

諸資格について



管理栄養士とは、指定養成施設を修了し、管理栄養士国家試験に合格し、厚生労働大臣より免許を受けた者と栄養士法に定められています。その専有業務は、病院や福祉施設、事務所における給食管理・栄養指導、個人の栄養指導にいたるまで、その専門性と範疇はとても広範です。さらに、近年の少子高齢化社会を背景に、予防医学やアンチエイジング、介護医療(QOL)など、医療の場においても栄養士法に「傷病者に対する背景に、療養のために必要な栄養の指導」と定められているように、管理栄養士が医師や看護師と手を携えて果たせる役割は大きいものです。

管理栄養士について

生命科学部卒業要件 2008～2012年度入学生

			生命科学科 2008年度 入学生	生命科学科 2009～ 2012年度 入学生	応用生物科学科 2009～ 2012年度 入学生	食環境科学科 (生命科学部) 2009～ 2012年度 入学生
授業科目区分			卒業要件単位数	卒業要件単位数	卒業要件単位数	卒業要件単位数
共通総合領域 20単位以上	一般教養的教育科目 12単位	人文	12単位 (人文から 4単位以上)	12単位 (人文から 4単位以上)	12単位 (人文から 4単位以上)	12単位 (人文から 4単位以上)
		社会				
		自然情報				
		総合				
	外国語科目 8単位以上	必修	4単位	4単位	4単位	4単位
		選択必修	4単位以上	4単位以上	4単位以上	4単位以上
		選択				
	健康科学科目	選択				
専攻領域 90単位以上	必修科目		33単位 1年次5単位 2年次12単位 3年次10単位 4年次6単位	31単位 1年次6単位 2年次12単位 3年次7単位 4年次6単位	27単位 1年次6単位 2年次8単位 3年次7単位 4年次6単位	31単位 1年次4単位 2年次12単位 3年次9単位 4年次6単位
	選択必修		基礎科学	基礎科学	基礎科学	基礎科学
			16単位以上	26単位以上	16単位以上	16単位以上
			バイオサイエンス	細胞制御科学	細胞利用	細胞利用
			10単位以上 (3コースの中から1分野を選択)	10単位以上 (3コースの中から1分野を選択)	10単位以上 (3コースの中から1分野を選択)	10単位以上 (3コースの中から1分野を選択)
			バイオエンジニアリング	ゲノム・情報科学	生物利用	生物利用
			地球環境生物学	生命環境科学	環境保全	環境保全
	選択科目					
	留学支援科目	英語特別教育科目				
開放領域(他学科)						
合計			124単位	124単位	124単位	124単位

生命科学部卒業要件 2013年度入学生

			生命科学科		応用生物科学科	
授業科目区分			卒業要件単位数		卒業要件単位数	
基盤 教育 科目	共通教養 科目	哲学・思想	20単位	4単位	20単位	4単位
		自然・環境・生命		4単位		4単位
		日本と世界の文化・歴史				
		現代・社会				
		スポーツと健康				
		総合				
		文化間コミュニケーション		6単位		6単位
	社会人基礎科目					
	留学支援 科目	英語特別教育科目				
		日本語科目				
専門 科目	必修		90単位	34単位	90単位	36単位
	選択必修			40単位以上		22単位以上
	選択					
合計			124単位		124単位	

食環境科学部卒業要件 2013年度入学生

			食環境科学科 フードサイエンス専攻		食環境科学科 スポーツ・食品機能専攻		健康栄養学科		
授業科目区分			卒業要件単位数		卒業要件単位数		卒業要件単位数		
基盤 教育 科目	共通 教養 科目	哲学・思想	20単位	4単位	20単位	4単位	20単位	4単位	
		自然・環境・生命		4単位		4単位		4単位	
		日本と世界の文化・歴史							
		現代・社会							
		スポーツと健康							
		総合							
		文化間コミュニケーション		6単位		6単位		6単位	
	社会人基礎科目								
	留学 支援 科目	英語特別教育科目							
日本語科目									
専門 科目	必修		90単位	55単位	90単位	46単位	90単位	31単位	
	選択必修			20単位以上		22単位以上		26単位以上	
	選択								
合計			124単位		124単位		124単位		

ライフデザイン学部

朝霞事務部朝霞事務課 主任 小澤 一善

朝霞キャンパスにはライフデザイン学部が設置されています。ライフデザイン学部は生活支援学科、健康スポーツ学科、人間環境デザイン学科の3学科で構成され、そのうち生活支援学科は生活支援専攻と子ども支援専攻の2専攻に分かれています。どの学科、専攻でも多くの資格を目指すことができるカリキュラムを編成しており、学生の資格取得に向けた意欲も高くなっています。

授業科目と単位

ライフデザイン学部は1年を4月から9月までの春学期と10月から3月までの秋学期に分けて授業を行い、それぞれの学期末に成績を発表します。これをセメスタ制と呼びます。セメスタ制の利点はより広い科目の選択肢を設定することができること、学生の理解度を成績という形で把握しやすくなることなどが挙げられます。

それぞれの学期の開始時に、学生は履修登録を行います。学生は各自、自分の興味・関心や資格取得に必要な授業を選択して登録を行います。春・秋とも最大24単位まで履修登録をすることができます。年間48単位履修することができ、各学科とも学年ごとの必須科目を配置することで、大学に必ず来なければならないカリキュラムにしています。なお、資格取得に配慮するため、生活支援学科生活支援専攻で介護福祉士コースに配属する学生は各学期において28単位履修登録することができます。また、教職課程を履修する学生は、教育職員免許状取得のための科目に限り、最大24単位の制限を越えて履修登録することができます。

ライフデザイン学部では出席を重視する授業が多く、単位の認定に際しては授業回数の2/3以上の出席を条件としております。また、休講となった科目は必ず補講を行っており、その実施率は100%です。

2013年にはカリキュラムの改正が行われ、すべての学科・専攻において基盤教育として社会人基礎科目が設置されました。これにより、従来よりもさらに自分のキャリア形成を意識した授業が行われています。また、グローバル人材の養成は社会の急務であると考え、選択科目の外国語に従来の英語、中国語、韓国語にドイツ語、フランス語が加わりました。さらに、TOEIC試験の対策授業を開講し、合わせて一部の学科では英語の必修科目の時間数を増やしたりすることで、英語力のレベルアップを目指しています。

授業時間

時 限	時 間
1時限	9:00~10:30
2時限	10:40~12:10
昼休み	12:10~13:00
3時限	13:00~14:30
4時限	14:40~16:10
5時限	16:20~17:50

進級と卒業

ライフデザイン学部では単位の修得状況に関わらず4年生まで進級していきます。ただし、人間環境デザイン学科においては卒業研究・卒業制作の着手条件を設けています。この条件を充足できない場合、卒業研究・卒業制作を履修することができないため、必然的に4年間での卒業ができなくなります。

各学期の終了時に単位の修得状況が芳しくない学生に対しては専任教職員による面談を実施しています。

学生が卒業するために最低修得しなければならない単位数(2012年度以前入学生)

			生活支援学 専攻	子ども支援学専攻		健康スポー ツ学科	人間環境デ ザイン学科
				2009年度 2010年度 入学生	2011年度 2012年度 入学生		
一般教養的科目	人間探究分野	読解と表現	12	12	12	12	12
		人間と生活の理解					
		社会と自然の理解					
		経営と管理の知識					
		総 合					
	文化間コミュニケーション分野		4	4	4	4	
	スポーツ健康分野				2		
留学支援科目							
小 計		16	16	16	18	16	
専門科目	学部共通科目	必修科目	8	8	8	8	8
		選択科目					
	学科専門科目	必修科目	22	22	18	36	14
		選択必修科目				5	2
		選択科目	46	46	46	30	53
	小 計		76	76	72	74	77
学生が卒業するために必要な最低単位数		124	124	124	124	124	

人間環境デザイン学科卒業研究・卒業制作着手条件
3年生6セメスタ終了時までに1・2年次の必修科目をすべて修得していること、かつ、卒業要件単位を1000単位以上修得していること。
4年生7セメスタ終了時までに各自が所属するコースのデザイン演習ⅡAを修得していること。

ライフデザイン学部では多くの資格、または受験資格を取得することができます。資格にはそれぞれ取得のための条件があり、一部の資格は入学直後の1年次の春学期から継続的に学修を進めなければならぬものもあります。そのような資格の取得と卒業を同時に目指すためには、漠然といくつもの資格を目指すよりも、本当に自分の将来に必要な資格は何かをよく考え、そのために授業に集中して取り組むことが必要です。また、資格取得を目指す学生はその他の学生と比較した

資格取得のポイント

学生が卒業するために最低修得しなければならない単位数(2013年度以降入学生)

			生活支援 学専攻	子ども支 援学専攻	健康スポー ツ学科	人間環境デ ザイン学科
基盤教育	共通教養科目	哲学・思想	12	12	12	12
		自然・環境・生命				
		日本と世界の文化・歴史				
		現代・社会				
		総 合				
	文化間コミュニケーション		4	4	8	6
	スポーツ健康				2	
	社会人基礎科目					
留学支援科目						
専門科目	小 計		16	16	22	18
	学部共通科目	必修科目	8	8	8	8
		選択科目				
	学科専門科目	必修科目	18	18	38	14
		選択必修科目				5
		選択科目	48	46	30	43
	小 計		74	72	81	77
	学生が卒業するために必要な最低単位数		124	124	124	124

取得可能な資格

		生活支援学 専攻	子ども支援学 専攻	健康スポーツ 学科	人間環境 デザイン学科
社会福祉士		受験資格	受験資格	受験資格	
精神保健福祉士		受験資格		受験資格	
介護福祉士	2011年度以前	○			
	2012年度以降	受験資格			
保育士			○		
A.D.I.		受験資格	受験資格	受験資格	
健康運動指導士				受験資格	
健康運動実践指導者		受験資格	受験資格	受験資格	
障害者スポーツ指導者		○	○	○	
レクリエーション・インストラクター		○	○	○	
第一種衛生管理者				○	
公認スポーツ指導者				受験資格	
一級建築士					受験資格
二級建築士					受験資格
木造建築士					受験資格
社会福祉主事		任用資格	任用資格	任用資格	任用資格
教育職員免許状	幼稚園教諭1種		○		
	高等学校教諭1種(福祉)	○			
	高等学校教諭1種(保健)			○	
	中学校教諭1種(保健)			○	
	高等学校教諭1種(保健体育)			○	
	中学校教諭1種(保健体育)			○	
	養護教諭1種			○	
	高等学校教諭1種(工業)				○
	高等学校教諭1種(工芸)				○

場合、授業の時間割に制約が生じます。そのため、必要な授業は一度の履修で単位を修得することができるよう、予習、復習を欠かさず、毎回授業に出席することが大切です。

● 学生部の窓口から ●

輝く学生生活、サークル・課外活動

学生部長(法学部教授) 小林 秀年

二〇二〇年、東京で再びオリンピック・パラリン

ピックが開催されることは大変に喜ばしいことであり、意義のあることであると思います。一九六四年

東京オリンピックを開催するにあたり、東海道新幹線を始め、首都高速道など、交通の整備が行われました。また、世の中は東京オリンピックに向けて

各種スポーツに対する関心が高まり、大学における体育会活動も盛んになっていくという時期でありました。一九六〇年代の東洋大学は白山キャンパスに文学部・経済学部・法学部そして社会学部の四

学部があり、川越キャンパスに工学部が開設されて、総合大学としての第一歩を踏み出した頃でもありました。本学における体育会所属の運動部の多くは、この時期に創部されています。さて、二〇二〇年東京オリンピックに向けて、どのような整備がなされるのでしょうか。新たに創設されるサークルや運動部は、どのような競技を行うのでしょうか。

東洋大学には学術・文化・スポーツなど様々な分野でのサークルが存在し、所属学生は学内外学を問わずに活躍をしています。学生生活にとって必要でありかつ貴重な場として、サークル活動があげられます。サークル活動での経験は人生の糧となり、サークル活動を通じて出会う仲間たちは、人生の友になると言っても過言ではないで

しょう。青春時代の良き出会いの場は、学生生活を輝いたものにしてくれると思います。サークル活動は、趣味や特技を共有する仲間たちと自主的に取り組む場でありますが、所属学生は社会や大学におけるルールやモラルを遵守し、授業への支障がないように配慮する必要があります。

白山キャンパスにおける公認サークルは、約三〇〇団体あります(二〇一三年四月現在)。公認サークルとは、大学所定の手続きを取り顧問が就任しており、大学に登録をしている団体です。一部体育会加盟運動部四五部、一部文化団体連合加盟サークル一九部(音楽系一五、芸術・演劇系三、スポーツ系二)一部公認サークル二五〇サークル(音楽系八、芸術系一五、学術系六二、メディア系八、語学・国際交流系五、法律系五、ボランティア系一七、ゲーム系五、アウトドア系一三、サッカー系一八、ダンス系七、武道系五、バトミントン系六、テニス系五、バスケットボール系一三、バレーボール系三、野球系三、その他スポーツ系五二)、二部体育会加盟運動部一二部、二部文化団体連合加盟サークル三部、二部公認サークル三七サークル、学生文化団体本部六団体です。学生部では、体育会はスポーツ振興課、サークルは学生生活課が担当しています。体育会には昼間部生を構成員とする一部体育会と夜間部生を構成員とする二部体育会があり、各々規約を設けて組織され運営されています。体育会所属の各運動部には部長・監督・コーチが置かれています。体育会名誉会長は学長、体育会会長には慣例により学生部長が就任していま

す。体育会では、年度ごとに部の活動報告をまとめた「白山スポーツ」を発行しており、今年度は五号が刊行されました。この冊子は、四月上旬に新入生を対象に配布されていました。

一部体育会加盟運動部四五部を対象に、過去三年間の実績をベースに諸種の基準により強化部・準強化部を選出して、大学は支援等を行っています。*硬式野球部、*陸上競技部(長距離・短距離、女子長距離)、アイススケート部(ホッケー・スピード・フィギュア)、レスリング部、空手道部、スキー部(アルペン・ジャンプ・ランナー)、相撲部、ボクシング部、サッカー部(男子・女子)(以上、九部が強化部)、柔道部、*ラグビー部、バスケットボール部、*水泳部、剣道部(以上、五部が準強化部)(*は、法人特別強化部)です。これらの運動部は、折に触れ東洋大学の名を高めるばかりでなく、大学スポーツ界をリードしたり支えたりしています。勿論、これら強化部・準強化部以外の運動部の活躍にも、目を見張るものがあります。大学ホームページ(<http://www.toyo.ac.jp>)にも、競技結果等が掲載されていますので、御覧下さいませ。

ご父母の皆様方も、東洋大学の学生に温かい御声援をよろしくお願い申し上げます。

就職関係

就職・キャリア支援部 部長 深野 弘美

平素は、就職・キャリア支援部の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。本年も各地で開催される甫水懇談会に職員が参加をさせていただきました。少しでも保護者の皆様の情報収集や不安解消のお役に立ってければ幸いです。

本稿では、4年生及び3年生の状況、就職活動スケジュールの変更についてお伝えします。

4年生の就職状況について

現4年生の内定率は、10月末時点で6割を超えたところにあります。例年よりやや良好で、求人数も前年を上回っています。しかしながら、まだ多数の学生が卒業後の進路決定に向けて活動中です。例年、3月末まで求人届きますので、あきらめずに活動を継続することが重要です。特にこれからの活動でお勧めしたいのは、本学の求人ナビの活用です。企業から直接、東洋大学の学生が欲しいと送られる情報です。中には、少数の大学しか送っていない確率の高い求人もあり内定獲得に有利となります。ご自宅のパソコンからもアクセスが可能です。

就職活動は、たくさんの大人のアドバイスを得ることで円滑に進みます。ぜひ大学の求人情報と就職支援室、職員・相談員を活用してください。

3年生の活動状況について

現在、就職活動の流れを理解し準備を進めるた

めの「就職活動支援セミナー」が進行中です。併せて、業界・職種研究、SPI等適性試験対策、マナー・スーツ・メイクまで、行事は多彩です。大学の授業の合間に参加できるので無理なく準備が進みます。現時点で進路を決めていない方も、公務員・教員志望でも、セミナーに参加することは社会で働く大人となる自立への準備に役立ちます。自分には関係ないと、自ら学びの範囲や将来の可能性を狭めてしまうのは残念です。大学行事への積極的な参加をお勧めください。

就職活動スケジュール変更について

経団連が政府等の要請を受け「採用選考に関する倫理憲章」が見直され、新たに「採用選考に関する指針」として、2016年4月入社の就職活動から適用されることになりました。

具体的には、これまで3年生の12月から開始されていた会社説明会等の情報解禁が3年生の3月からに、4年生4月からの面接などの採用選考が4年生の8月からの実施となります。後ろ倒しにすることで、学習時間が確保され、留学の機会等が広がることで期待されています。

就職・キャリア支援部では、変更の第1期となる現2年生が不安や混乱を生じることのないよう十分な情報収集と情報提供の準備を進めます。特に、「後ろ倒し」という言葉に反応し準備も後ろ倒しにならないよう注意喚起が必要と考えています。

実際には、後ろ倒しは「就職活動期間の短縮」を意味します。これまで以上に準備を整えて選考に

臨むことが重要です。内定日は従前どおりの10月1日とされていますので、これまで6ヶ月あった選考期間は2ヶ月になり、大手から中小へと移る流れもこれまでに重なり合うことが予想されます。さらに、外資系企業等経団連に属さない企業の動きに注意が必要です。公務員採用試験のスケジュールは、来年2月に発表予定ですが、同時期に重なる可能性もあります。

就職活動の円滑なスタートのためには事前準備が重要ですが、それは直前にノウハウを学ぶことだけではありません。低学年から意欲的・積極的に学生生活を送ることで、大学での学びを深め、対人力や課題解決力を育てることも含まれます。以下について、意識を持って活動してください。

- ① 3年生終了までに必要とされる単位を修める
- ② 得意な科目や領域を持つ
- ③ 卒業論文・研究は早めに準備を進める
- ④ インターンシップに参加し「実際の社会で働くこと」を経験する
- ⑤ ゼミ、留学、ボランティアなど、大学を起点とする多様な経験にチャレンジする
- ⑥ 新聞を読む習慣を身につける

そして、いつもお願いをさせていただいていることですが「自発的に挨拶をする」「正しい生活習慣を身につける」「相手の目を見て話す」ことをご家庭でご協力いただければ幸いです。

これからも保護者の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

●納付金(学費等)について●

経理部財務課

I 納付金の納入方法と時期

毎年、納付金の納入にご協力いただきましてありがとうございます。

納付金について、電話等での問い合わせ内容を中心に説明いたします。

納付金振込用紙は、学年末に次の学年に必要な金額を記載し、お送りします。

①納付金振込用紙の郵送先

第一部：保証人住所宛てに郵送

第二部：本人または保証人住所宛てに郵送
(郵送先は入学時に選択した宛て先)

②納付金の振込方法

大学より郵送されたその年度の指定振込用紙をご利用ください。それ以外(銀行備え付けの用紙やATM等)での振込はご遠慮ください。

また、大学での現金による受付はしておりません。

③全納と分納

振込用紙には「全納」と「分納」の用紙があり、振込時に選択してください。

全納：年間必要額を一括して納入

分納：年間必要額を春学期と秋学期の二回に分けて納入

分納を選択された方の秋学期用振込用紙は、秋学期納入時期に大学より郵送します。

④納入時期

・春学期 四月一日～四月二五日

・秋学期 十月一日～十月十五日

※なお、秋学期納入期間は変更となる場合があります。
また、納入期間は各年度の曜日により変動します。
振込用紙記載の期間内にお振り込みください。

II 納付金の内訳

納付金は、「学費」と「その他の費用」に区別されます。

①「学費」には、入学金・授業料・一般施設設備資金・実験実習料・教育充実料が含まれます。

(実験実習料・教育充実料は該当する学部・学科のみ。)

②「その他の費用」は次のものになります。

- ・雨水会費
- ・校友会費
- ・学生課外活動育成会費(工学部を除く)

III 学籍異動に係る納付金について

休学・原級・退学等、学籍異動時には必要な納付金が変わります。

休学：一般施設設備資金およびその他の費用が必要となります。

原級：四年生で原級する場合、当該年度の正規四年生の納付金と同額になります。

なお、「学籍異動願い」が受理された日より学籍異動の効力が発生する日付が異なります。

申請手続について不明な点等は、各学部教務課等にお問い合わせください。

IV 納付金についての問い合わせ先

振込用紙の未着や紛失、支払額の詳細など、納付金に関するお問い合わせやご相談はテレフォンガイドを参照願います。また、東洋大学ホームページでも詳細をご覧になれます。

入学試験情報 トピックス

掲載内容の詳細は、東洋大学入試情報サイトで必ずご確認ください。
http://www.toyo.ac.jp/nyushi/

●「TOYO Web Style」がスタート

☆大学案内や願書を“ペーパーレス化”

2014 年度入試に向け、大学概要や学部・学科の紹介から入試情報の発信、出願・入学手続までを Web で行う日本初の取り組み「TOYO Web Style」がスタート。これに伴い、全ての入試をインターネット出願へ移行します。受験生の利便性の向上に加え、従来の紙媒体を大幅に削減。省資源化への取り組みとしても大きな効果を上げています。

☆出願は全てインターネット登録

東洋大学の入学試験は、全てインターネット登録による出願です。

従来の「紙」願書のように取り寄せる必要もなく、ガイドに沿って入力をするので、記入漏れや誤記入も防ぐことができます。

なお、出願には、マイページへの登録が必要になります。



●「独立自活」支援推薦入試

「余資なき優暇なき者のために」と学びの門戸を開いた、創立者・井上円了の志を受け継いで、イブニングコース（第2部）では意欲ある人が一人でも多く学ぶことができるよう、新たな入試制度をスタートさせます。この入試制度は、イブニングコース（第2部）を第一志望とする受験生で、日中は白山キャンパス内の大学事務局などで働きながら、夜間に学ぶことを前提とした入試です。

- ・入学者全員に奨学金（学費の半額相当 × 4 年間）を給付します。
- ・入学検定料は、免除となります。
- ・希望者は提携学生寮（60,000 円程度 / 月 1 日 2 食付）への入居が可能です。

※2014 年度の「独立自活」支援推薦入試の出願は締め切りました。

センター利用・一般入試情報

●センター利用入試（B 方式）：全学部で実施（複数学科の併願可）

大学入試センター試験の成績により可否を判定します。本学での個別学力検査は行いません。出願期間によって前期・中期・後期日程があります。

入試方式		出願期間	試験日	合格発表日
前期	4 教科・4 科目型 / 3 教科型 / ベスト 2 型	1/6（月）～1/17（金）	1/18（土） 1/19（日）	2/14（金）
中期	2 教科型	1/6（月）～2/20（木）		3/6（木）
後期	2 教科型 / ベスト 2 型	1/6（月）～2/27（木）		3/15（土）
	2 教科型 / ベスト 2 型 ※イブニングコースのみ	1/6（月）～3/10（月）		3/19（水）

●一般入試：全問マークシート方式

東洋大学独自の一般入試は多彩な入試方式があります。各方式とも、試験日が異なる全ての入試と併願可能です。また、同一試験日内で併願が可能な学科もあります。各学科ともに複数の入試方式を取り入れており、受験のチャンスが多いことが特徴です。

☆A 方式（3 教科総合入試）☆C 方式（ベスト 2 入試）☆D 方式（最高得点重視入試）☆3 月入試

試験会場を選んで受験できます。

2/8・9・10・11

白山キャンパス・朝霞キャンパス・札幌・仙台・郡山・水戸・宇都宮・高崎・千葉・町田・横浜・新潟・金沢・長野・静岡・名古屋・大阪・広島・福岡

2/27、3/5

白山キャンパス・札幌・仙台・新潟・長野・静岡・大阪・福岡

雨水会活動

平成24年度雨水会活動報告

(平成25年度評議員会資料抜粋)

● 平成24年度事業報告 ●

東洋大学は、2012年(平成24年)に創立125周年を迎えるにあたり、建学の精神に基づく「哲学教育の推進」、グローバル化した社会の現状に対応し、「教育・研究・社会貢献」など、国際化を積極的に推進、生涯学習に対応して、「地域奉仕・地域連携」を深めて社会に貢献することを推進するための改革を行っている。

雨水会として2012年(平成24年)11月23日に開催した創立125周年記念式典等に、本会員である父母・保護者の方の参加および125周年への募金活動を行うことと、関連の行事等に積極的に参加することを提案致しました。

雨水会も、「大学の興隆発展と学生の健全なる発達」のため微力ながら大学に協力しております。また、大学より雨水会事業に対するご支援を得ながら、教育の充実強化、学生の文化、体育活動事業を奨励し、運営致しました。

大学のご理解ご協力のもとに、去る平成24年5月26日の評議員会で承認された事業計画に基づき執行した1年間の事業実施概要を報告いたします。

本部事業関係

1. 諸会議及び行事

【諸会議】

(1) 評議員会

平成24年度評議員会は、常任理事及び全国59支部支部長と、1,000名以上の会員を擁する支部選出の評議員で構成され、会則第6章評議員第21条に基づき、評議員72名(定数80名)、監事2名が出席し、平成24年5月26

日13時より雨水会館2階会議室において開催された。

(2) 理事会

常任理事と地区長理事で構成され、会則第4章役員第8条に基づき、開催された。

① 平成23年度

第2回理事会 平成24年4月21日

② 平成24年度

第1回理事会 平成24年10月27日

(3) 常任理事会

会則第4章役員第9条に基づき、月1回の定例会議(但し、7・8月は除く)及び臨時会議を開催し、業務を執行した。

① 平成23年度

第9回常任理事会 平成24年4月21日

② 平成24年度

第10回常任理事会 平成24年5月12日

③ 平成24年度

第1回常任理事会 平成24年6月2日

④ 平成24年度

第2回常任理事会 平成24年8月11日

⑤ 平成24年度

第3回常任理事会 平成24年9月29日

⑥ 平成24年度

第4回常任理事会 平成24年10月13日

⑦ 平成24年度

第5回常任理事会 平成24年11月10日

⑧ 平成24年度

第6回常任理事会 平成24年12月8日

⑨ 平成24年度

第7回常任理事会 平成25年1月12日

⑩ 平成24年度

第8回常任理事会 平成25年2月23日

⑪ 平成24年度

第9回常任理事会 平成25年3月9日

(4) 常任理事会内委員会

必要に応じて内部委員会を開催し、業務を執行した。

(5) 役員選考委員会

会則第4章役員第6条に基づき、全国59支部より選出頂き次期役員候補者を選考するため、平成25年1月19日に開催された。

(6) 地区別支部長会議

① 平成24年5月12日、関東地区支部長会議(首都圏地区13支部)を雨水懇談会開催に



評議員会

に伴う打合せ会議が行われた。
②会則第10章第39条に基づき、平成25年2月に地区長主催で全国10地区において本部・支部活動の円滑な連携と地区の活性化を目的とし、会議を開催した。

(7) 全国59支部長研修会

①平成24年9月8日、本部主催で全国59支部長（代理含）の参加による、「雨水会諸規程」及び「支部関係業務処理に関する取扱い」を主とした支部長研修会を開催した。

行事

(1) 雨水懇談会

①首都圏地区13支部（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）
学生が在籍する4校舎（白山・川越・板倉・朝霞）で開催され、大学教職員による「報告・個別面談」を実施し、支部会員同士の親睦も深められた。

支部名/ 日時・校舎	支部 コード	6月9日(土) 板倉校舎	6月9日(土) 朝霞校舎	6月24日(日) 白山校舎	6月24日(日) 川越校舎	合 計
茨 城	0801	11	8	48	31	98
埼 北	1101	11	2	8	28	49
埼 中	1102	5	8	39	60	112
埼 東	1103	19	1	54	16	90
埼 南	1104	12	17	56	30	115
千葉東	1201	5	5	84	6	100
千葉西	1202	4	5	65	7	81
城 東	1301	1	5	29	9	44
城 西	1302	1	6	22	10	39
中 央	1303	0	2	18	4	24
城 北	1304	3	10	73	19	105
多 摩	1305	2	10	64	9	85
神奈川	1401	0	10	91	5	106
出席者合計		74	89	651	234	1,048

②首都圏地区以外46支部

全国46支部総会の中で雨水懇談会として開催し、大学側及び本部役員が出張し、会員相互の交流も図られ無事終了した。

(2) 会員の集い・就職活動フォーラム

①平成24年度「会員の集い・就職活動フォーラム」は、大学との共催により、就職関係の充実を図ることを目的に、白山キャンパス井上円了ホールにおいて10月27日（土）28日（日）の2日間に亘って4部構成で、開催した。

初日の第1部では、竹村学長より、「人間力育成の大学教育をめざして」と題して講演が行われた。その後各キャンパスツアーが行われ、今年度より白山第1キャンパス見学に板橋総合スポーツセンターを見学コースに取り入れた。白山キャンパスの学部長講演は小川経済学部長より、「長期のエネルギー・環境問題にいかに取り組みべきか」と題して講演が行われた。

2日目は、第2部講演会・第3部就職活動フォーラムが行われた。講演会では、陸上競技部酒井俊幸監督より「おのれに克つチームの選手」と題して、選手の活動内容や目標などの講演、本学名誉教授講演では、中里至正社会学部名誉教授より、「劣化する日本人の道徳意識」と題し、最近のいじめの凶悪化、児童虐待の増加、公務員や教員などによる性犯罪の多発などの問題点についての考えを講演頂いた。また、就職活動フォーラムは、就職・キャリア支援課野口正生課長から東洋大学の現状について説明があり、東洋大学経営・文学部2名の卒業生の講演、（有）ペイ・フォーワード川田英利氏より「超」就職氷河期だからこそ絶対内定！親として我が子に出来る支援と心得」と題して、具体的に実践的なお話があり第1部の参加者は147名、第

2部の参加者は340名、第3部の参加者は421名、第4部の参加者は204名であった。

②四国・瀬戸内海地区連絡協議会は平成24年11月24日に愛媛県において開催し参加者は42名、近畿地区連絡協議会は平成24年12月1日に大阪において開催し参加者は49名であり援助金を支給した。

2. 学生諸制度

(1) 奨学金……「奨学生規程」に基づき、常任理事会において選考の結果、6名（留学生2名含む）を採用した。

(2) 弔慰金……「弔慰金規程」に基づき、会員の申請により6名に支給した。

(3) 学生総合補償制度……1年生を対象とする「学生総合補償制度」の傷害保険への任意加入者は、964名であった。

(4) 学生クラブ・サークル、学術研究等援助・表彰制度……「援助表彰基準」により、1部体育会・2部体育会の団体及び個人へ表彰状と褒賞金151万円を援助した。さらに学生クラブ・サークル（文化系サークル）に対し、学生部と連携して申請願いが出された22サークルに44万円援助した。なお、スポーツ東洋等へ新聞広告掲載料として22万円援助した。

3. 雨水会費・援助金の交付

(1) 雨水会費

雨水会費は、入学時及び毎年授業料払込時に5,000円を徴収し、本部から所属会員数1人当り、1,500円を乗じ（6月暫定会員数80%支給・11月確定会員数20%支給）各支部へ支部運営費交付金として38,061,000円を支出した。

(2) 会員数割傾斜援助金

会員数割傾斜援助金は、全国59支部の会員数を7ブロック（0から18万円）に分け、年1回6月に算定基準により支出した。

援助金内訳

会 員 数

500名以上	0円×17支部＝	0円
500名未満	11万円× 8支部＝	880,000円
120名未満	12万円× 6支部＝	720,000円
80名未満	14万円× 1支部＝	140,000円
70名未満	15万円× 2支部＝	300,000円
60名未満	16万円×12支部＝	1,920,000円
30名未満	18万円×13支部＝	2,340,000円
		59支部＝6,300,000円

4. 就職問題

支部主催の就職説明(懇談)会出張に伴う大学教職員の旅費交通費等は大学側において、就職説明会開催希望支部について講師派遣などを大学側と協議し、ご支援・ご協力を頂いた。また、甫水会の支部主催行事援助金支給規程に基づき、支部総会と同時開催支部に対して援助した。

実施支部については、後述の「支部主催行事参照

5. 大学事業(行事)に対する協力

平成24年度甫水会事業計画に基づき執行した。

(1) 体育後援会

6. 大学・校友会行事等に対する協力

体育後援会は、校友会・本会とで構成し、本部拠出金として400万円援助した。

(2) 「井上円了が志したものは」に対する援助
井上円了記念学術センターの企画・実施に、実行委員会を構成し、その運営費の一部負担金150万円を援助した。

(3) 卒業記念品
卒業記念品購入代金として大学・校友会・本会の三者負担による分180万円を援助した。

(4) 全学的な行事に対する援助
大学祭(白山祭・朝華祭・こもれび祭・雷祭・スポーツ大会)に援助した。

(5) 留学生に対する援助
大学の国際化が求められている今日、団体の活動等に対し援助した。

大学・校友会の年間行事として実施する祭事・会議に甫水会代表者を派遣、協力した。

(1) 東洋大学創立125周年記念事業に対する寄付金

平成24年度に大学創立125周年を迎えるにあたり、平成14年度からの125周年記念事業積立金5,000万円を取崩し、さらに前期繰越金から5,000万円を支出し、125周年記念事業の5つのプロジェクトの内、1. 育英事業の展開、2. 体育・スポーツ課外活動の充実、3. 多様な教育機会の提供、の主として3つのプロジェクトに対して1億円を寄付した。

(2) 大学校友会行事に派遣、協力した。

- ① 平成24年4月6日 入学式
- ② 平成24年4月22日 2012年度新入留学生歓迎会
- ③ 平成24年5月8日 箱根駅伝で優勝させる会総会
- ④ 平成24年5月19日 校友会代議員会
- ⑤ 平成24年5月20日 校友大会
- ⑥ 平成24年5月31日 体育後援会第1回運営委員会
- ⑦ 平成24年6月6日 学祖祭

7. 広報活動

会員相互間の連絡を密にすること等を目的として広報活動を実施し、「会員のしおり」及び「会報東洋」の発送に伴う経費は、大学側においてお願いした。

- ① 新入会員対象の「会員のしおり」
平成25年1月発行
- ② 全会員対象の「会報 東洋」
平成24年12月発行
- ③ 役員及び支部長対象の「甫水会ジャーナル 第49号、50号」
平成24年4月・10月発行
- ④ 大学側にリンク依頼開示のホームページを通じて、情報活動を強化した。

8. 会員情報管理システム

浦水会本部では、情報開発による大学の教務部門の情報を利用し、会費納入処理を行っている。会員情報管理システムの情報更新は、本会で確認し大学総務課に依頼している。また、支部要請の名簿・宛名ラベルを本部で作成提供できるようにしている。

平成17年4月1日からの「個人情報保護法」施行後は、情報の使用・管理等については、引き続き支部でのご協力をお願いしたい。
大学と「個人データの提供に伴う個人情報の機密保持及び安全管理に関する契約書」を締結し、申請に基づき取り扱っている。なお、ホームページについても、新しいデータを加えながら大学側ホームページにリンクを依頼し、情報化を促進している。

支部事業関係

1. 支部総会（浦水懇談会）

支部総会開催については、本部支部経費の節減と業務処理の合理化の観点から、前年度同様、支部総会（浦水懇談会）の「案内と出席申込」は本部一括発送・受取処理した。また、支部総会の中で、浦水懇談会として大学関連行事を取り込む形で実施した。なお、今年度も支部総会への大学側出張者（代表・事務説明者の旅費交通費は、大学側にお願した。

- ① 地方支部総会…46支部会員数6、279名
- ② 開催日…平成24年7月1日～8月5日
- ③ 出張者…浦水会本部代表者 延べ46名
- ④ 出席者…出席申込予定者1,241名
（複数出席者含む）一括処理
による成績・履修表出力数

2. 支部行事

実施支部は以下の通りであり、浦水会の支部主催行事援助金支給規程に基づき援助金を支出した。

①就職説明（懇談）会

月 日	曜	支 部	場 所	事務説明者（敬称略）	出席者数
6月30日	土	岡山県	ピュアリティまきび	課長 野口 正生	16
30日	土	徳島県	ホテルグランドパレス徳島	課長補佐 腰山 雅基	5
7月1日	日	兵庫県	姫路市市民会館	課長 野口 正生	20
1日	日	香川県	JRホテルクレメント高松	課長補佐 腰山 雅基	9
1日	日	宮崎県	ホテルセンチュリー宮崎	課長補佐 中村 健司	22
7日	土	北海道函館	五島軒本店	課員 高山 泰輔	8
7日	土	広島県	ホテルニューヒロデン	主任 畠野 真規子	20
7日	土	福岡県	ホテルセントラーザ博多	課長補佐 中村 健司	23
7日	土	茨城県	ホテル マロウド筑波	課長 野口 正生	60
8日	日	京都・滋賀県	ホテルグランヴィア京都	課員 富岡 周平	10
8日	日	山口県	山口グランドホテル	主任 畠野 真規子	23
8日	日	大分県	大分市コンパルホール	課長補佐 中村 健司	14
8日	日	千葉県西	フローラ西船	外部講師 川田 英利	83
15日	日	新潟県	ホテルイタリア軒	課長補佐 藤田 正彦	69
16日	月	埼玉県東	春日部市商工振興センター	課長 野口 正生	83
21日	土	鳥取県	ホテルハーベストイン米子	主任 萩原 剛志	13
21日	土	高知県	高知会館	課長補佐 中村 健司	11
22日	日	島根県	ホテル一畑	主任 萩原 剛志	12
22日	日	愛媛県	椿館 本館	課長補佐 中村 健司	14
28日	土	佐賀県	佐賀ワシントンホテルプラザ	課長補佐 須田 憲明	13
29日	日	長野県	長野第一ホテル	課長補佐 藤田 正彦	75
29日	日	富山県	高志会館	課長補佐 中村 健司	28
29日	日	長崎県	ホテル万松楼	課長補佐 須田 憲明	6
29日	日	千葉県東	千葉市生涯学習センター	外部講師 川田 英利	64
8月4日	土	阪奈	太閤園	主任 萩原 剛志	20
5日	日	福井県	ホテルリバージュ アケボノ	課長補佐 腰山 雅基	7
5日	日	和歌山県	ホテルアバローム紀の国	主任 萩原 剛志	7
9月23日	日	栃木県	コンセーレ	課長 野口 正生	155
10月21日	日	群馬県	前橋商工会議所	課長 野口 正生	102
11月10日	土	秋田県	第一会館本館	課長 野口 正生	33
10日	土	山形県	大手門バルズ	課長補佐 須田 憲明	40
10日	土	静岡県	静岡県産業経済会館	主任 萩原 剛志	86
11日	日	山梨県	岡島ローヤル会館	課長補佐 腰山 雅基	37
18日	日	青森県	ラ・プラス青い森	課長補佐 須田 憲明	12
18日	日	福島県	イトーヨーカ堂郡山店5階会議室	主任 畠野 真規子	63
12月2日	日	宮城県	KKRホテル仙台	課長補佐 中村 健司	31
8日	土	岩手県	盛岡大通商店街「リリオ2F」	課長補佐 藤田 正彦	8
16日	日	鳥取県	ホテルハーベストイン米子	課長補佐 腰山 雅基	11
合 計					1,313

②大学施設設備校舎見学会

月 日	曜	支 部	場 所	出席者数
6月30日	土	東京都城東	白山校舎	23
12月1日	土	群馬県	白山校舎・板倉校舎	34
8日	土	栃木県	白山校舎 板橋総合スポーツセンター	28
8日	土	埼玉県南	板橋総合スポーツセンター	21
2月23日	土	神奈川県	川越校舎	25
合 計				131

出席者数=支部長報告による

③講演・研修会等

月 日	曜	支 部	講演会・研修会等／内容	講演者(敬称略)／場所	出席者数
5月3日	木	大分県	第52回全国大学相撲宇佐大会	大分県宇佐市総合運動場宇佐相撲場	18
6月30日	土	埼玉県中央	「就職受難時代・親としてすべきこと」	グローバルキャリア教育センター 副センター長 小島 貴子	63
30日	土	東京都城東	「スポーツを通して学んだこと」	元東洋大学陸上競技部監督 川嶋 伸次	64
7月7日	土	茨城県	「放射能と健康被害を考える」～発がんリスクとその対策～	東洋大学理工学部生体医工学科 教授 加藤 和則	60
7日	土	東京都中央	「野球を通じた人生や人との出会い等について」	OB 元西武ライオンズ投手 野球解説者 松沼 博久	27
8日	日	山形県	「東京箱根駅伝完全優勝を振り返り」	陸上競技部長距離部門 コーチ 佐藤 尚	74
8日	日	東京都城北	「東洋大学陸上競技部・強さの秘密」	OB スポーツライター 石井 安里	63
14日	土	埼玉県北	「激動時代の就職活動と親の支援」	グローバルキャリア教育センター 副センター長 小島 貴子	38
15日	日	石川県	第2回全日本大学選抜相撲金沢大会	石川県金沢市卯辰山相撲場	43
21日	土	埼玉県南	「就勝(活)のために今やっておくべきこと」	グローバルキャリア教育センター 副センター長 小島 貴子	113
8月13日	月	徳島県	東洋大学連阿波踊り参加	徳島市内 阿波踊り演舞場	100
23日	木	新潟県	陸上競技部山古志合宿支援	長岡市山古志	17
9月1日	土	熊本県	硬式野球部公式戦応援	明治神宮球場	10
10月8日	月	鳥取県	第24回出雲全日本大学選抜駅伝競走	出雲駅伝応援	23
8日	月	島根県	第24回出雲全日本大学選抜駅伝競走	出雲駅伝応援	15
8日	月	岡山県	第24回出雲全日本大学選抜駅伝競走	出雲駅伝応援	9
8日	月	広島県	第24回出雲全日本大学選抜駅伝競走	出雲駅伝応援	42
8日	月	山口県	第24回出雲全日本大学選抜駅伝競走	出雲駅伝応援	7
28日	日	茨城県	東洋大学発祥の地視察と会員の集い参加&JAL機体整備工場見学	東京都文京区(麟祥院他)・羽田	74
11月3日	土	埼玉県中央	日帰り研修旅行	鎌倉大仏・長谷寺・鶴岡八幡宮	77
3日	土	神奈川県	東洋大学125周年記念行事 横浜港ナイトクルーズ	ロイヤルウイング	93
3日	土	京都府	大学祭見学	白山キャンパス他	6
10日	土	埼玉県東	富岡製糸場と日本酒酒蔵見学	富岡製糸場他	65
10日	土	東京都城西	河口湖セミナーハウス見学会	河口湖セミナーハウス他	22
17日	土	埼玉県北	箱根駅伝コースを巡る会	神奈川県箱根	61
17日	土	東京都城東	文学鑑賞・社会見学「東日本大震災、復興支援の旅」	福島県いわき市他	109
18日	日	東京都中央	箱根駅伝ミュージアム見学と散策	箱根駅伝ミュージアム他	34
18日	日	東京都城北	会員懇親バス旅行	河口湖セミナーハウス・甲斐方面	55
18日	日	東京都多摩	会員親睦日帰り旅行	河口湖他	77
17日	土	千葉県東	「中高年齢者の健康体力作り トータルフィットネス (理論と実践)」	東洋大学経済学部 名誉教授 佐藤 征夫	41
17日	土	千葉県西	両国・向島文学散歩	東洋大学文学部	68
23日	金	千葉県西	～師弟芥川龍之介・堀辰雄の間にスカイツリーをのぞむ	名誉教授 竹内 清己	
24日	土	愛媛県	四国・瀬戸内海地区連絡協議会・就職活動フォーラム	東洋大学OB 今岡 誠他	42
25日	日	神奈川県	アサヒビール神奈川工場見学	アサヒビール神奈川工場他	43
12月1日	土	阪奈	近畿地区連絡協議会・就職活動フォーラム	アトラント・ブレイブス国際スカウト 大屋 博行他	49
2日	日	埼玉県南	最新の就職戦線開始アドバイス等講演会	(有)ペイ・フォワード 川田 英利	103
1月2日	水	山梨県	第89回東京箱根間往復大学駅伝競走	箱根駅伝応援	27
3日	木	茨城県	第89回東京箱根間往復大学駅伝競走	箱根駅伝応援	60
3日	木	埼玉県東	第89回東京箱根間往復大学駅伝競走	箱根駅伝応援	46
3日	木	埼玉県南	第89回東京箱根間往復大学駅伝競走	箱根駅伝応援	45
3日	木	東京都中央	第89回東京箱根間往復大学駅伝競走	箱根駅伝応援	28
3日	木	兵庫県	第89回東京箱根間往復大学駅伝競走	箱根駅伝応援	15
6～9日	日	北海道室蘭	第85回日本学生競技選手権大会応援	栃木県立日光霜降アイスアリーナ他	8
7～9日	月	北海道釧路	第85回日本学生競技選手権大会応援	栃木県立日光霜降アイスアリーナ他	7
26日	土	千葉県西	都内バス旅行	国会議事堂・椿山荘・浅草寺・スカイツリー	92
2月23日	土	埼玉県南	日帰り研修旅行	東京消防庁 本所防災館他	58
3月3日	日	東京都城北	3.11から2年 地震発生後の72時間を生き抜く知恵を学び、横浜で「食」の楽しさを再確認する旅	横浜・お台場	49
9日	土	千葉県東	春の研修旅行	哲学堂公園・カップヌードルミュージアム他	69
10日	日	埼玉県東	早春講演会	春日部市商工振興センター	71
合 計					2,380

出席者数=支部長報告による

甬水会収支関係

甬水会費……年額5,000円	
第1部会費徴収数 25,133名……………	125,665,000円
第2部会費徴収数 526名……………	2,630,000円
合 計 25,659名……………	128,295,000円

平成24年度会計報告

平成24年度決算は、4月および5月に開催されました理事会・評議員会において、承認されました。

平成24年度一般会計決算報告書

自平成24年4月1日～至平成25年3月31日

貸 借 対 照 表

平成25年3月31日現在

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
(流 動 資 産)	(46,097)	(流 動 資 産)	(570)
現 金	79	前 受 金	335
普 通 預 金	45,938	預 り 金	62
郵 便 振 替	80	未 払 金	173
(固 定 資 産)	(8,000)	正 味 財 産 の 部	
	0	次 年 度 繰 越 金	45,527
甬水会記念事業積立金	8,000	特定資産次年度繰越金	8,000
合 計	54,097	合 計	54,097

一般会計収支計算書

自平成24年4月1日～至平成25年3月31日

(単位:千円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
甬水会費収入	128,295	事 業 費	200,750
雑 収 入	2,186	管 理 費	19,321
投 資 活 動 収 入	50,000	投 資 活 動 支 出	5,000
前 年 度 繰 越 金	90,117	次 年 度 繰 越 金	45,527
合 計	270,598	合 計	270,598

平成25年度甫水会活動計画

(平成25年度評議員会資料抜粋)

● 平成25年度事業計画 ●

東洋大学は、2013年(平成25年)に創立126周年を迎えるにあたり、建学の理念を踏まえ「教育の質」の向上、「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」を実践し、グローバル化を積極的に推進、新たな時代に貢献できる学生を育成するための改革を行っている。

また、2013年(平成25年)4月、板倉キャンパスに「食環境科学部」を新設、白山キャンパス文学部の「インド哲学科」および「中国哲学文学科」を「東洋思想文化学科」に再編成し、11学部44学科になりました。

甫水会も、「大学の興隆発展と学生の健全なる発達」のため微力ながら大学に協力しております。また、大学より甫水会事業に対するご支援を得ながら、教育の充実強化、学生の文化、体育活動事業を奨励し、運営してまいります。以下、平成25年度甫水会事業計画の概要を説明いたします。

本部事業関係

1. 諸会議及び行事

【諸会議】

(1) 評議員会

常任理事及び全国59支部支部長と1,000名以上の会員を擁する支部選出の評議員とで構成され、会則第21条の重要項目に関して審議を行う最高議決機関であり、定例会として年1回5月に開催する。

(2) 理事会

常任理事と地区長理事で構成され、本会運営の基本業務について常任理事会の執行事項の確認・承認を行う機関であり、定例会として年2回10月及び翌年4月に開催する。

(3) 常任理事会

原則として、毎月1回開催する(7・8月は除く)。

本会運営の基本的業務について、評議員会・理事会等で決定した事業計画を円滑に執行する。

(4) 常任理事会内委員会

必要に応じて委員会を開催し、業務を執行する。

(5) 役員選考委員会

次期役員を全国59支部より役員候補者を選出し、1月に役員候補者の選考を行う。

(6) 地区別支部長会議

全国10地区において地区長主催で、本部・支部活動の円滑な連携と各地区組織の活性化を目的とし、地区別支部長会議及び実務研修を2月に実施する。

(7) 全国59支部長研修会

本部主催で全国59支部長の参加による会議及び実務研修を9月に開催する。

行事

(1) 甫水懇談会

首都圏地区支部(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県)の会員は、学生が在籍する校舎(白山・川越・板倉・朝霞)で大学教職員による「履修・成績及び学生生活就職」等について説明・面談を実施する。

また、首都圏地区支部以外の会員は、各支部主催の行事「支部総会」等の中で、甫水懇談会として「履修・成績及び学生生活・就職」等について、大学から代表者(教員)と

事務説明者より説明・面談を実施する。

(2) 会員の集い・就職活動フォーラム

大学との共催により会員相互の親睦を深め、就職関係の充実を図ることを目的とし、2日間に亘り10月に実施する。なお、遠隔地支部会員については、前年度通り規定額の交通費を補助する。

2. 学生諸制度

(1) 奨学金制度

会員が不測の事故等で家計が急変し、修学が困難となった学生に対し、規定により学業・課外活動に優秀と判断される場合は、常任理事会の議を経て、原則として1年間の奨学金給付を月額30,000円とし、会員の出願に基づき所定の選考で採用する一般学生は、15名とする。なお、留学生で学業優秀者は、大学の推薦により奨学金給付を2名に行う。

(2) 弔慰金制度

不測の事故等で会員のご子女が死亡した時に、その遺族に対して弔慰金30,000円を支給する。

(3) 学生総合補償制度

1年生対象の任意加入、「学生総合補償制度」の案内をする。

(4) 学生クラブ・サークル・学術研究等援助表彰制度
「援助・表彰基準」により、1部体育会・2部体育会の団体及び個人へ表彰と援助をする。活動として学生クラブ・サークル活動(運動部・文化部・学術研究サークル・ゼミ等)を学生部と連携してその活動を賞賛・奨励する。文化系サークルに対しても全面的に支援する。

3. 雨水会費・援助金の交付

(1) 雨水会費

雨水会費は、入学時及び毎年授業料払込時に5,000円を徴収し、本部から所属会員数1人当り1,500円を乗じ年2回(6月暫定会員数80%支給・11月確定会員数20%支給)各支部へ支部運営費として支出する。

(2) 会員数割傾斜援助金

会員数割傾斜援助金は、全国59支部の会員数を7ブロック(0から18万円)に分け、年1回6月に算定基準により支出する。

(3) 調整金

援助金のブロック間の逆転現象が生じた場合、11月支部運営費に加算し支出する。

(4) 支部事業・イベント等に対する援助金

支部事業の開催に対し、支部での活性化を図ることを目的とし、支部主催行事援助金支給規程により援助する。

4. 就職問題

父母又は保護者・学生本人と大学就職担当者の、より密接な連携を保つため、就職・キャリア支援課と本部役員で「大学と父母との協力関係」について協議する等、就職支援プログラム・就職活動を進める実力を養う講座・制度の充実をお願いしている。そして学生の生涯設計を立てる上での支援を積極的に進め、本年度も同様継続する。なお、大学教職員の支部就職説明会派遣旅費交通費等は大学にお願いし、就職説明会開催希望支部について講師派件などを大学側と協議していく。

5. 大学事業(行事)に対する支援協力

会則に定める「目的と事業」を達成するために、大学事業については積極的に援助・協力することを基本としている。

(1) 体育後援会

体育後援会は、校友会・本部とで構成し、スポーツ活動を支援するため、本部拠出金として400万円支援する。

(2) 「井上円了が志したものは」に対する援助

井上円了記念学術センターの企画・実施、実行委員会を構成し、その運営費の一部150万円を援助する。

(3) 卒業記念品

毎年度、卒業記念品購入代金として大学・校友会・本部の三者負担による分担金180万円を援助する。

(4) 全学的な行事に対する援助

大学祭(白山祭・朝華祭・こもれび祭・雷祭)の4校舎及び・スポーツ大会(白山・川越・朝霞・板倉)の4校舎に援助する。

(5) 留学生に対する援助

大学の国際化が求められている今日、団体の活動等に対し広く援助する。

6. 大学・校友会行事等に対する協力

大学が年間行事として実施する祭事等に、雨水会代表者を派遣・協力する。

7. 広報活動

会員相互間の連絡を密にすること等を目的として広報活動を実施し、「会員のしおり」及び「会報 東洋」の発送に伴う経費は、大学側をお願いしている。

- (1) 新入会員対象の「会員のしおり」……年1回
- (2) 全会員対象の「会報 東洋」……年1回

8. 会員情報管理システム

雨水会本部では、大学の教務部門の情報を利用し、会費納入処理等を行っている。

会員情報管理システムは、本会で確認し大学総務課に依頼している。また、支部要請の宛名ラベルを本部で作成提供できるようになっている。

平成17年4月1日からの「個人情報保護法」施行により、情報の使用・管理については、引続き支部での協力をお願いする。

大学と「個人データの提供に伴う個人情報の機密保持及び安全管理に関する契約書」を締結し、申請に基づき取り扱っている。なお、ホームページについても、新しいデータを加えながら大学側ホームページにリンクを依頼し、情報化を促進する。



切り絵作家 百鬼丸氏 作

支部事業関係

各支部が中心になって主催する行事等については「支部主催行事援助金」支給基準により、支援・協力する。

(1) 支部総会

本部は、毎年度の支部総会出席者の意見をまとめ大学側に提出しているが、特に父母又は保護者との両談形式を含め多数の意見を頂いたので、今後も改善を行い、支部総会運営状況を踏まえ大学側と協議していく。

首都圏地区13支部は、白山・川越・板倉・朝霞校舎で6月に浦水懇談会を開催するので、支部総会は別途に独自で開催することになる。

首都圏地区以外支部においては、7月～8月に支部総会の中で「浦水懇談会」として開催する。また、開催案内および支部総会出席者集計の本部一括処理は、前年通り行う。

(2) 就職説明(懇談)会

支部からの開催要望に基づき、日程及び派遣者依頼願いについて大学側と調整し支部へ報告する。なお、開催申請支部は開催日及び講師派遣の都合もあるので、近隣支部とも調整の上、申請されるよう要請する。

(3) 大学施設設備校舎見学会

校舎案内者を派遣依頼要請する関係から、就職説明(懇談)会同様の手順で申請されるよう要請する。首都圏地区13支部は、4校舎の浦水懇談会時実施し、首都圏地区以外支部は、本部主催事業の「会員の集い・就職活動フォーラム」において同時開催を計画し、参加されるように要請する。

(4) 講演・研修会等

本部は、講演・研修会等の講師について、本学教員を希望する場合、紹介を含め協力する。

浦水会収支関係

(1) 収入について

① 浦水会費5,000円については、「大学に委託徴収を依頼」している。

第1部の入学生及び在学生から徴収し、留学生は除く。

第2部の入学生及び在学生は、任意加入として本部が徴収する。

② 雑収入については、学生総合補償制度の事務費収入等がある。

(2) 支出について

【事業費】

① 本部関連事業の主要行事である、浦水懇談会・就職説明(懇談)会・会員の集い・就職活動フォーラム・会報発行等については、前年度通り大学の協力を得て執行する。

② 支部関連事業の支部主催行事についても規定に準じて援助し、各支部の活性化を図る。

③ 学生協力費については、本会の目的に基づき、大学祭・スポーツ大会・クラブ・サークル等の援助を学生部と連携して交付する。

④ 業務委託費については、労働者派遣契約書に基づき支出する。

⑤ 人件費は、事業費関連事務に伴う人件費を労務契約書に基づき支出する。

⑥ 大学創立125周年記念事業支出については、平成24年度の東洋大学創立125周年記念事業の実施に伴い寄付金として支出する。

【管理費】

① 会議費は、各会議等に要する旅費交通費等である。

② 通信費・印写費・支払手数料・備品費等事務に要する費用を科目ごとに計上している。

③ 人件費は、事業費関連事務以外の事務に伴

う人件費を労務契約書に基づき支出する。

④ 積立金は、浦水会記念事業に向けての準備積立金を計上している。

⑤ 予備費については、緊急支出として措置する。

以上



会員の集い・就職活動フォーラム



浦水懇談会

平成25年度予算書

平成25年度予算は、理事会・評議員会に於いて、事業計画書と共に提出、報告されました。

一般会計収支予算書

自平成25年4月1日～至平成26年3月31日

(単位:千円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
甫 水 会 費 収 入	127,000	事 業 費	116,013
雑 収 入	1,441	管 理 費	19,990
投 資 活 動 収 入	0	投 資 活 動 支 出	1,000
前 年 度 繰 越 金	45,527	予 備 費	1,500
		次 期 繰 越 収 支 差 額	35,465
合 計	173,968	合 計	173,968

以上の説明、報告を受け「平成25年度一般会計予算書」については、審議の結果、承認されました。

平成25年度甫水懇談会・支部総会報告

首都圏13支部

甫水懇談会出席者数

支 部 名	6月22日(土) 板倉校舎	6月22日(土) 朝霞校舎	6月30日(日) 白山校舎	6月30日(日) 川越校舎	合計
茨 城	24	18	56	35	133
埼 北	18	2	16	14	50
埼 中	8	9	53	57	127
埼 東	23	2	45	19	89
埼 南	11	16	104	48	179
千 葉 東	2	2	80	4	88
千 葉 西	3	10	94	17	124
城 東	4	3	42	10	59
城 西	2	5	33	9	49
中 央	0	4	17	1	22
城 北	5	9	78	16	108
多 摩	2	8	69	20	99
神 奈 川	3	18	109	6	136
出席者合計	105	106	796	256	1,263

※出席人数は複数出席者を含む

首都圏13支部

支部総会出席者数

支 部 名	会員数	※出席者	※出席者 %
茨 城	1,820	96	5.3
埼 北	564	35	6.2
埼 中	1,720	51	3.0
埼 東	1,552	77	5.0
埼 南	2,696	79	2.9
千 葉 東	1,892	53	2.8
千 葉 西	1,818	64	3.5
城 東	992	45	4.5
城 西	620	26	4.2
中 央	405	7	1.7
城 北	1,734	42	2.4
多 摩	1,618	42	2.6
神 奈 川	1,792	24	1.3
合 計	19,223	641	3.3

6月暫定会員数

※出席者は報告書による

首都圏以外46支部

支部総会(雨水懇談会)成績・履修出力数

支部名	開催場所	会員数	参加者数	申込会員数 (学生数)
札幌	札幌市	116	17	18
函館	函館市	24	4	4
旭川	旭川市	25	9	9
北見	北見市	19	9	10
室蘭	苫小牧市	27	8	8
釧路	釧路市	39	13	14
青森	青森市	84	13	13
岩手	盛岡市	97	20	21
宮城	仙台市	178	41	35
秋田	秋田市	133	33	33
山形	山形市	162	38	43
福島	郡山市	402	76	72
栃木	宇都宮市	679	76	76
群馬	前橋市	783	77	83
新潟	新潟市	668	45	62
富山	富山市	109	24	27
石川	金沢市	80	28	29
福井	福井市	15	1	1
山梨	甲府市	212	40	45
長野	長野市	579	89	88
岐阜	岐阜市	66	19	16
静岡	静岡市	513	60	64
愛知	名古屋	140	18	20

6月暫定会員数

支部名	開催場所	会員数	参加者数	申込会員数 (学生数)
三重	津市	47	13	13
滋賀	京都市	8	5	5
京都	京都市	29	8	6
阪奈	大阪市	92	16	17
兵庫	姫路市	198	28	28
和歌山	和歌山市	16	10	10
鳥取	米子市	31	10	10
島根	松江市	13	11	12
岡山	岡山市	34	18	18
広島	広島市	69	20	20
山口	山口市	34	16	16
徳島	徳島市	18	6	6
香川	高松市	26	6	8
愛媛	松山市	36	9	8
高知	高知市	46	18	18
福岡	福岡市	111	28	26
佐賀	佐賀市	17	13	15
長崎	大村市	31	9	11
熊本	熊本市	52	26	28
大分	大分市	18	7	8
宮崎	宮崎市	30	17	18
鹿児島	鹿児島市	31	13	12
沖縄	那覇市	57	10	5
合計		6,194	1,075	1,109

平成26年度雨水懇談会・支部総会開催組合せ及び日程

周期	月日(曜)	開催支部
1周 (13支部)	6月21日(土)	板倉校舎
	21日(土)	朝霞校舎
	29日(日)	白山校舎
	29日(日)	川越校舎
首都圏地区(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県) 支部所属会員対象 学生の在籍校舎の雨水懇談会会場に出席		
2周 (10支部)	7月5日(土) ☐	☐ 室蘭 ☐ 岡山 ☐ 熊本
	6日(日) ☐	☐ 函館 ☐ 兵庫 ☐ 鹿児島
	6日(日)	☐ 宮崎 ☐ 沖縄 ☐ 京都・滋賀
3周 (9支部)	7月12日(土) ☐	☐ 福岡 ☐ 愛媛
	13日(日) ☐	☐ 大分 ☐ 徳島
	12日(土) ☐	☐ 広島 ☐ 福島
	13日(日) ☐	☐ 山口 ☐ 山形 ☐ 新潟
4周 (8支部)	7月19日(土) ☐	☐ 秋田 ☐ 山梨
	20日(日) ☐	☐ 宮城
	20日(日)	☐ 群馬 ☐ 北見 ☐ 釧路
5周 (10支部)	7月26日(土) ☐	☐ 青森 ☐ 香川 ☐ 鳥取 ☐ 長崎
	27日(日) ☐	☐ 岩手 ☐ 高知 ☐ 島根 ☐ 佐賀
	27日(日)	☐ 富山 ☐ 栃木
6周 (9支部)	8月2日(土) ☐	☐ 旭川 ☐ 三重 ☐ 阪奈
	3日(日) ☐	☐ 札幌 ☐ 岐阜 ☐ 和歌山
	2日(土) ☐	☐ 福井
	3日(日) ☐	☐ 石川 ☐ 長野

平成26年2月開催予定の平成25年度地区別支部長会議にて最終決定です。

平成25年度甫水会

「会員の集い・就職活動フォーラム」を開催して

～東洋大学を感じてください～

東洋大学甫水会副会長 永名 淳悟

今回で5回目を迎えました「会員の集い・就職活動フォーラム」は、10月26日(土)から27日(日)までの2日間にわたり開催する予定でありましたが、台風27号の影響を受け、キャンパスツアーなど、初日に予定していた行事が全て中止となりました。中止のご連絡が遅れるなど、多くの会員の皆様に大変ご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。今後は、この経験を甫水会の危機管理体制に活かしてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

まず、皆様にお願ひしたいことがあります。それは、「どうか4年間のうちに1度は、お子様が通うキャンパスを訪れて頂き、東洋大学を見て、聞いて、感じてほしい」ということです。私は私自身も子供を東洋大学に通わせている単なる親父でしかありませんが、毎年7月から8月にかけて全国で開かれる支部総会に出席させて頂いています。その際、100%と言つていいほど、地方の会員の皆様は、お子様に一人住まいをさせていることから、「病気はしていないだろうか。きちんと食事をしているのだろうか。学校に行き勉強しているのだろうか」などと心配されています。私からは「一人住まいは、社会人になるために必要な『自己決定力』を養うための素晴らしい機会です。ご安心ください。」とお話させて頂いています。が、お子様を心配する気持ちを晴らすことは到底で

きません。そこで、東京見物を兼ねていただいて結構です。このフォーラムを利用して頂き、お子様が通う東洋大を見て、聞いて、感じて頂き、お子様とお話をして頂きたいのです。お子様は、そつけない態度をとるかもしれませんが、親に甘えているだけで、間違いなく心では喜んでいきます。どうか子供とのコミュニケーションを大切にしてください。そしてこのフォーラムを利用してください。お願いします。

前置きが長くなりましたが、ここからは、フォーラムの主な内容をお話させて頂きます。

午前の部では、神田雄一 東洋大学副学長と村田薫 東洋大学甫水会会長のご挨拶を頂いた後、新井恭子 硬式野球部部长・経営学部准教授より「もしアラ：…もしも大学野球部の部長新井がドラッカーの『マネジメント』を読んだら」と題して、井上博文 東洋大学名誉教授より「東洋大学と観光教育」と題して講演を頂きました。続いて、東洋大学学生の神山卓也・英徳兄弟による「津軽三味線」の演奏を聴き、午前の部を終了いたしました。午後の部では、深野弘美 就職・キャリア支援部部长より「保護者が知っておきたい就職環境」について、スターツコーポレーション株式会社 杉山正則様より「現代の学生と社会で求められる人材のギャップ」についてそれぞれ講演を、本学OBの巢鴨信用金庫 福島啓太様(2012年

経済学部卒)及びOGの株式会社クレオ 中村琴美様(2010年社会学部卒)より、就職活動の体験談についてお話を頂きました。やはり、親は「就職」と言うキーワードに敏感に反応するのか、午後の部の講演は、会場の井上円了ホールを埋め尽くすほど多くの会員の皆様が参加され、熱心な質疑応答が行われました。

私は、今回のフォーラムで、「東洋大学は、最後の一人が就職するまで、あきらめず学生のサポートを続けて頂ける」と確信するとともに、「学生時代に自己決断をする経験を多く持つこと」や「就職にあたっては、しっかりと自己分析をすること」また「親は口を出さないサポートをすること」が大切であると教えて頂きました。参加された皆様はどのように感じられたでしょうか。残念ながら今回参加できなかった皆様は、来年度、ぜひ参加して何かを感じて見て下さい。

最後に、フォーラムの開催にあたりご協力頂いた東洋大学職員の皆様や、裏方としてお手伝い頂いた学生の皆様、支部役員の皆様に、この場をお借りしましてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

学生総合補償制度のご案内 (学生・こども総合保険)

地震などの天災によるおケガ等も (傷害補償、育英費用補償、学資費用保険金)

学生ご本人のケガ・病気の補償 (国内・外)

■傷害補償

授業中・学校行事中、課外活動中、登下校中、日常生活中などに偶然な事故により学生ご本人がケガ(傷害)を被った場合に補償します。



■食中毒補償

学生ご本人がO-157等の細菌による食中毒やウイルス性食中毒によって身体に障害を負った場合に補償します。



■熱中症補償 (平成26年度入学生より適用)

学生ご本人が日射または熱射により身体に障害を被った場合に補償します。



■天災補償

地震もしくは噴火またはこれらによる津波によって学生ご本人がケガをされた場合または扶養者の方が死亡されたり重度の後遺障害となった場合に該当する各種保険金をお支払いします。

■疾病補償 オプション

学生ご本人が病気を発病し、その治療を目的として入院された場合、手術や放射線治療を受けた場合または退院後180日以内に通院された場合に補償します。



その他の補償 (国内・外)

■個人賠償責任危険補償*

学生ご本人が誤って他人にケガをさせたり、他人の物を壊してしまい、法律上の損害賠償責任を負担することになった場合に補償します (免責金額: 0円)



- ・アルバイト、インターンシップ中の損害賠償責任も補償します。
- ・情報機器に記録された情報を損壊した場合も補償します。
- ・管理下中の受託物の破損等による損害賠償責任も補償します。

■救済者費用等補償* (平成26年度入学生より適用)

学生ご本人が遭難、偶然な事故による生死不明等の場合に支出した捜索救助費用・交通費等を補償します。

一人暮らしや下宿をしている学生向けの補償

■生活用動産補償 (国内)*

一人暮らしや下宿をしている学生ご本人が所有している生活用動産が、火災・爆発・破損・盗難などによって損害を受けた場合に補償します。
(免責金額: 盗難3万円、火災・落雷・破裂・爆発0円、それ以外1万円)



■緊急費用補償*

学生ご本人の父母・兄弟姉妹が偶然な事故によるケガが原因で事故の発生の日からその日を含めて180日以内に死亡された時、葬儀に参列するために緊急に発生する費用を定額で補償します。

■借家人賠償責任補償 (国内)*

下宿をしている学生ご本人が偶然な事故により、借用している戸室を壊したり、汚したりして、貸主に賠償しなければならない場合に補償します。

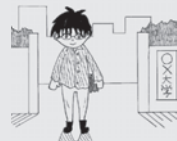


扶養者の方の事故・病気の補償 (国内・外)

扶養者が、急激かつ偶然な外来の事故によるケガ(傷害)がもとで事故の発生の日からその日を含めて180日以内に死亡されたり、または重度の後遺障害が発生した場合等に次の費用を補償します。

■育英費用補償*

生活の維持や教育のための育英費用を定額で補償します。



■学資費用保険金*

授業料等の学資費用を負担された場合、その実費を補償します。

■疾病学資費用保険金* (平成26年度入学生より適用)

扶養者が、保険期間中に発病した病気で死亡された場合で、授業料等の学資費用を負担された場合にその実費を補償します。

(注)「扶養者」とは、学生ご本人の親権者等で、生活費・学業費用を負担し、学生ご本人の生計を支えている方を言います(あらかじめ指定された1名となります)。

※被保険者またはそのご家族が契約されている他の保険契約等(共済契約または異なる保険種類の特約を含みます)により、既に被保険者について同種の補償がある場合、補償が重複し、保険料が無駄になることがあります。ご契約にあたっては、補償内容について、ご要望に沿った内容であることを必ずご確認ください。

(注) なお、複数あるご契約のうち、これらの補償が1つのご契約のみにセットされている場合は、そのご契約を解除されると、補償がなくなってしまうのでご注意ください。

白山キャンパス

文・経済・経営・法・社会・国際地域学部
イブニングコース(2部)
大学院

〒112-8606

東京都文京区白山 5-28-20

PHOTO



敷地2万8000㎡／校舎5万㎡

MAP



ACCESS

- JR巣鴨駅から浅草雷門行バスで6分、東洋大学前下車。
- 都営地下鉄三田線で白山駅下車、徒歩5分。
- 東京メトロ南北線本駒込駅下車、徒歩5分。

テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
●キャンパス代表	総務課	03-3945-7224

●教務関係

授業・成績等	文学部	03-3945-7595
	経済学部	03-3945-8421
	経営学部	03-3945-7247
	法学部	03-3945-8450
	社会学部	03-3945-7623
	国際地域学部 (地域総合専攻)	03-3945-7811
	大学院	03-3945-7250
証明書音声ガイド	各学部共通	03-3945-7225

●学生生活関係

奨学金	学生生活課	03-3945-7258
サークル活動		03-3945-7262
運動部関係	スポーツ振興課	03-3945-7252
アルバイト・下宿・アパート	学生生活課	03-3945-7809
学生相談室		03-3945-7265
医務室(健康管理)		03-3945-7278

●就職関係

進路・就職相談	就職・キャリア支援部	03-3945-7280
---------	------------	--------------

●国際交流関係

国際センター／国際部	03-3945-7558
------------	--------------

●納付金関係

納付金(学費等)	財務課	03-3945-7305
寄付金		03-3945-7304

●入試関係

入試課	03-3945-7272
-----	--------------

●図書関係

図書館	図書事務課	03-3945-7325
-----	-------	--------------

川越キャンパス

理工学部・総合情報学部
大学院工学研究科
大学院学際・融合科学研究科

〒350-8585

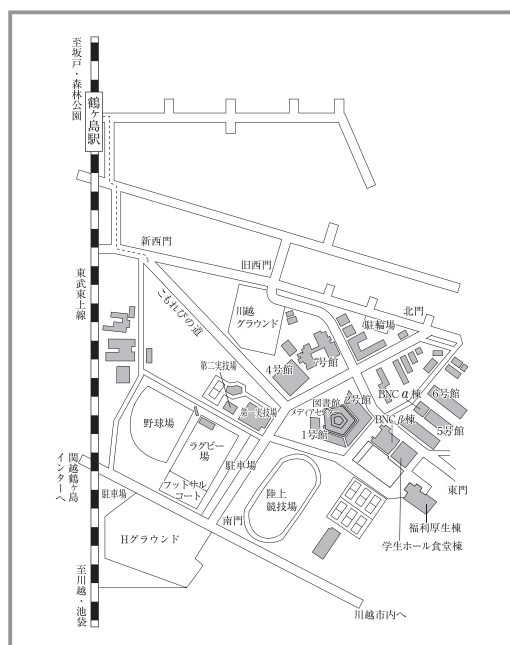
埼玉県川越市鯨井 2100

PHOTO



敷地28万7000㎡／校舎6万6000㎡

MAP



ACCESS

●池袋駅から東武東上線で急行38分、鶴ヶ島駅下車、徒歩10分。

テレホンガイド

ご案内事項

取扱い窓口

電話番号

●キャンパス代表

総務課

049-239-1300

●教務関係

履修・成績・試験・学籍

教 学 課

049-239-1312

教職・各種証明書

●学生生活関係

奨学金・クラブ・サークル活動

教 学 課

049-239-1314
049-239-1509

アルバイト

※

(株)ナジック・アイ・サポート

03-5466-1236

下宿・アパート

※

(株)ミニミニ城北

049-228-8832

学生相談室

教 学 課

049-239-1544

医務室(健康管理)

049-239-1317

※川越キャンパスでは業務委託をしています。

●就職関係

求人受付

教 学 課

049-239-1315
049-239-1641

就職相談

049-239-1822

●学費・入試関係

学費

総 務 課

049-239-1303

入試関係

教 学 課

049-239-1392

●図書関係

図書館

川 越 図 書 館

049-239-1321

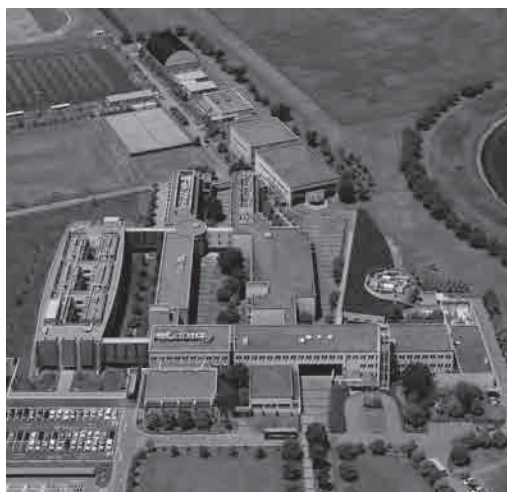
板倉キャンパス

生命科学部・食環境科学部
大学院(生命科学研究科)

〒374-0193

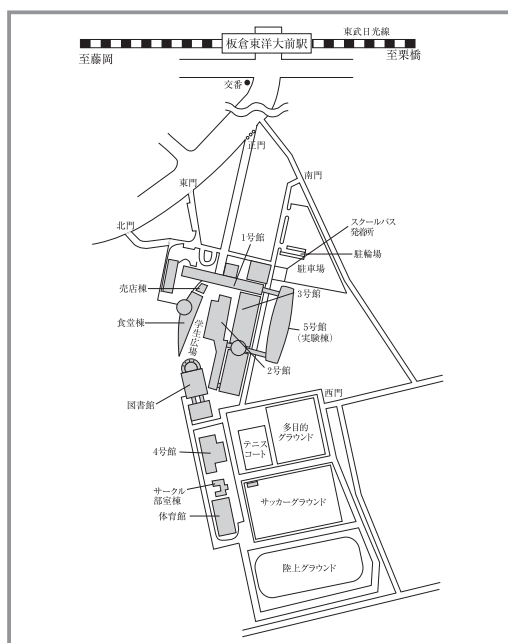
群馬県邑楽郡板倉町泉野 1-1-1

PHOTO



敷地33万2000㎡/校舎3万1000㎡

MAP



ACCESS

- 池袋駅からJR有楽町線(湘南新宿ライン)、東武日光線で79分。浅草駅から東武日光線で快速60分、北千住駅から50分。板倉東洋大前駅下車、徒歩10分。

テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
キャンパス代表	板倉事務課	0276-82-9111

●教務関係

生命科学部・食環境科学部	板倉事務課	0276-82-9118
大学院(生命科学研究科)		0276-82-9139

●学生生活関係

奨学金	板倉事務課	0276-82-9046
サークル活動		0276-82-9171
アルバイト		0276-82-9171
学生相談室		0276-82-9132
医務室(健康管理)		0276-82-9123

●就職関係

求人受付	板倉事務課	0276-82-9172
就職相談		0276-82-9172
キャリア形成・就職支援室		0276-82-9125

●国際交流関係

海外留学	板倉事務課	0276-82-9118
------	-------	--------------

●学費等関係

学費	板倉事務課	0276-82-9105
----	-------	--------------

●入試関係

学部入試	板倉事務課	0276-82-9119
大学院入試		0276-82-9139

●図書関係

図書館	図書事務課(板倉)	0276-82-9063
-----	-----------	--------------

朝霞キャンパス

ライフデザイン学部

〒351-8510

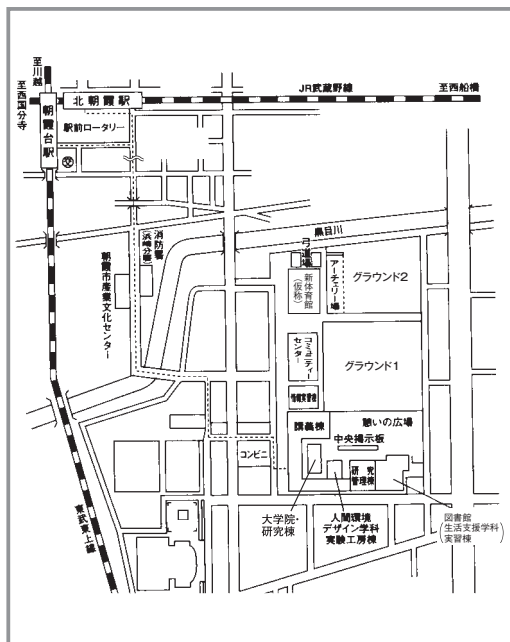
埼玉県朝霞市岡 48-1

PHOTO



敷地10万5247㎡／校舎5万2873㎡

MAP



ACCESS

- 池袋駅から東武東上線で急行15分、朝霞駅下車、徒歩10分。
- JR武蔵野線北朝霞駅下車、徒歩10分。

テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
●キャンパス代表	朝霞事務課	048-468-6311

●教務関係

履修・成績・試験	朝霞事務課	048-468-6401
学籍・証明書		

●学生生活関係

サークル活動	朝霞事務課	048-468-6418
奨学金		048-468-6457
学生相談室		048-468-6462
医務室(健康管理)		048-468-6607

●キャリア形成支援関係

キャリア形成支援(就職)	朝霞事務課	048-468-6408
--------------	-------	--------------

●学費等関係

学費	朝霞事務課	048-468-6306
----	-------	--------------

●入試関係(ライフデザイン学部)

入試	朝霞事務課	048-468-6418
----	-------	--------------

●図書関係

図書館	図書事務課	048-468-6331
-----	-------	--------------

事務局へご質問・ご相談等ありましたら、ご遠慮なく各キャンパスのテレホンガイドによりお尋ねください。担当部課室の電話は、すべて直通になっております。

〈お電話受付時間〉

平日 9:30-12:45、14:15-16:45

土曜 9:30-12:45

なお、電話の場合は、必ずご自分の姓名と「学生の学科・学籍番号・名前」を申し出てください。申し出のない場合は、お断りする場合もございます。また、内容によってはお電話ではお答えしかねる場合がございますことを合わせてご了承ください。



第84回日本学生氷上競技選手権大会 総合3位



世界選手権大会出場選手壮行会(円了ホール)
(左二人目:西塔、四人目:宮原、七人目から:萩野・内田・山口・宮本 各選手)



第89回日本学生選手権水泳競技大会(インカレ)
(左から宮本・地田・原田・内田 各選手)



第65回関東大学ボクシングリーグ大会 一部昇格



杜の都 全日本大学女子駅伝出場(創部2年目)



第91回全国学生相撲選手権大会 団体戦 優勝

『会員の集い・就職活動フォーラム』



受付



神田 雄一副学長



津軽三味線:神山卓也・英徳兄弟



講演聴講



OB講演:福島啓太氏



OG講演:中村琴美氏



講師:杉山正則氏

体 育 後 援 会 だ よ り

東洋大学甫水会（父母又は保護者の会）は、東洋大学の学生スポーツの更なる充実・発展に寄与するため、昭和四十七年に大学・父母会（現甫水会）・校友会の三者によって結成された「東洋大学体育後援会」に対して、全面的な支援活動を続けておりましたが、平成二十一年四月からは、甫水会と校友会の二者で、「東洋大学体育後援会」を新たに結成し、東洋大学の学生スポーツの更なる充実・発展に寄与することになりました。

この会の事業目的は「学生及び団体への後援費の交付、優秀な学生及び団体等への表彰に関する事業、校友・父母等への一般会員募集に関する事」と定め、体育関係の学生及び団体等に対してその活動を奨励し、後援することを目的としています。

すなわち、育英費の給付・合宿補助費・内外遠征費の補助・優秀団体や優秀選手に対しての褒賞等を行うこととなります。

これらの事業に必要な資金は、甫水会・校友会の各本部財源からの拠出金と、主として校友会員による賛助会費としての寄付などで賄われております。

このように体育後援会から配分される援助金は、強化・準強化運動部（十四部）と白山第一部体育会・第二部体育会・川越体育会所属の部にとって大切な活動資金となっています。

後援会結成以来四十一年、ご父母・校友の温かいご支援の積み重ねにより、東洋大学の学生スポーツは、大学の発展と共に目覚ましい活躍を続け、また、プロスポーツ界においても立派に活躍されております。

このように体育後援会が、東洋大学の学生スポーツ振興に対しての役割を担い続けるためには、援助金の確保が必要になってまいります。

今後とも、学生達が勉学に励むと共に、スポーツを通じて輝かしい青春を謳歌できる有意義な学生生活を送り、東洋大学関係者や、社会の人々に感動を与え続けることが出来まよう、今年も体育後援会に熱いご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

なお、強化・準強化運動部（十四部）と白山第一部体育会・第二部体育会・川越体育会所属の部への援助金の一覧は、下記のとおりになります。

〈強化・準強化運動部〉

部 名	部員数	援助金
硬式野球部	112	3,000,000
陸上競技部	114	2,500,000
アイススケート部	50	1,000,000
柔道部	39	530,000
レスリング部	35	600,000
空手道部	33	530,000
スキー部	27	530,000
相撲部	24	920,000
ボクシング部	26	450,000
サッカー部	58	850,000
ラグビー部（準）	78	420,000
バスケットボール部（準）	39	350,000
水泳部（準）	34	800,000
剣道部（準）	41	100,000
小 計	710	12,580,000

〈白山第一部体育会〉

部 名	部員数	援助金	部 名	部員数	援助金
陸上競技部女子長距離部門	22	60,000	バドミントン部	13	40,000
サッカー部女子部	19	40,000	ワンダーフォーゲル部	7	20,000
バレーボール部	14	40,000	ローバースカウト部	15	40,000
ソフトテニス部	35	60,000	アーチェリー部	36	60,000
ゴルフ部	6	20,000	アメリカンフットボール部	33	60,000
弓道部	23	60,000	ワーリテイング・ウェイトトレーニング部	10	40,000
卓球部	41	80,000	キックボクシング部	6	20,000
合気道部	13	40,000	射撃部	21	60,000
日本拳法部	23	60,000	テニス部	35	60,000
少林寺拳法部	9	20,000	ラクロス部	27	60,000
自動車部	8	20,000	ハンドボール部	26	60,000
準硬式野球部	44	80,000	応援指導部	13	40,000
ヨット部	15	40,000	小 計	514	1,180,000

〈白山第二部体育会〉

部 名	部員数	援助金
空手道部	7	20,000
柔道部	9	20,000
卓球部	21	60,000
バスケットボール部	17	40,000
陸上競技部	20	60,000
剣道部	16	40,000
洋弓部	7	20,000
小 計	97	260,000

〈川越体育会〉

部 名	部員数	援助金	部 名	部員数	援助金
空手道部	7	20,000	バスケットボール部	19	40,000
剣道部	8	20,000	バドミントン部	28	60,000
柔道部	12	40,000	バレーボール部	14	40,000
卓球部	25	60,000	ボディビル部	16	40,000
自動車部	24	60,000	ワンダーフォーゲル部	33	60,000
軟式庭球部	14	40,000	弓道部	18	40,000
軟式野球部	34	60,000	硬式庭球部	22	60,000
アメリカンフットボール部	40	80,000	サッカー部	27	60,000
ゴルフ部	5	20,000	自転車部	8	20,000
スキー部	30	60,000	小 計	384	880,000

※援助金総額 14,900,000

2012年11月～2013年10月 体育後援会強化部の活動状況

部名	月 日	大会・合宿名	場 所	成 績 等
硬 式 野 球	4月8日～5月28日	平成25年度東都大学野球春季リーグ戦(二部)	神宮第2球場・東洋大学野球場	第2位
	9月7日～10月29日	平成25年度東都大学野球秋季リーグ戦(二部)	神宮第2球場・神宮球場	開催中
陸 上 競 技	11月4日	全日本大学駅伝対校選手権大会	熱田神宮西門前～伊勢神宮内宮宇治橋	団体:準優勝 1区区間賞:田口(済2) 7区区間賞:佐久間(済3)
	1月1日	元巨競歩大会	神宮外苑	大学・一般男子20km競歩 優勝:西塔(済2)
	1月2日～1月3日	東京箱根間往復大学駅伝競走	大手町読売新聞社前～箱根芦ノ湖	準優勝 1区区間賞:田口(済2) 3区区間賞:設楽悠(済3)
	3月13日～3月19日	ニューヨークシティハーフマラソン	アメリカ合衆国 ニューヨーク州	第19位:大津(済3)
	5月1日	IAAF World Race Walking Challenge	イタリア・Sento San Giovanni	20km Walk 12位・松崎(総情3)
	5月18日～5月19日 ・5月25日～5月26日	関東陸上競技対校選手権大会	国立競技場 ・横浜日産スタジアム	1500m:5位・齋藤(済3) 1000m競歩:1位・西塔(済3) 4位・松永(理工1) 5位・松崎(総情3) 10000m:3位・設楽悠(済4) 5位・設楽啓(済4) 6位・服部(済2) 800m:4位・尾上(理工2) 3000m障害:2位・小池(済4)・ハ・マツル:3位・大津(済4) 6位・田口(済3)
	6月7日～8日	日本陸上競技選手権大会	味の素スタジアム	3000m障害12位・小池(済4) 10000m11位・設楽啓(済4)・18位・設楽悠(済4)
	6月21日	日本学生陸上競技個人選手権大会	ShonanBMWスタジアム	1500m:1位・長浜(理工3) 1000m競歩:2位・松永(理工1) 5000m:1位・安方(理工4) 2位・齋藤(済3)
	7月6日～17日	ユニバーシアード	ロシア・カザン	ハーフマラソン男子出場:設楽啓(済4)
	8月3日	夏季デフリンピック	ブルガリア・ソフィア	4×100mリレー:6位・門脇(ライフ3)
	8月11日	世界陸上競技選手権	ロシアモスクワ	西塔(済3) 6位
	9月6日～8日	日本学生陸上競技対校選手権大会	国立競技場	1500m:2位・齋藤真(済3) 5位・長浜(理工3) 5000m:4位・設楽啓(済4) 5位・延藤(理工4) 10000m:1位・西塔(済3) 4位・松永(理工3)
	10月6日	国民体育大会	味の素スタジアム	10000m競歩 優勝:西塔(済3)
	10月14日	出雲全日本大学選抜駅伝競走	出雲大社正面鳥居前～出雲ドーム	団体:準優勝 5区区間賞:区間新:服部(済2)
陸 上 競 技 (女子長距離部門)	5月18日～26日	関東陸上競技対校選手権大会	国立競技場・横浜日産スタジアム	1000m決勝:24位・二瓶(食環境2) 26位・山田(食環境2) 31位・鈴木(食環境2) 5000m決勝16位・佐藤(食環境1) 20位・川瀬(食環境2) 32位・南(食環境2)
	9月29日	関東大学女子駅伝対校選手権大会	印西市千葉ニュータウン	団体:第7位 全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場権獲得
ア イ ス ス ケ ー ト	12月3日～12月17日	IIHF世界U20選手権ディビジョンIIグループA日本代表	ドイツ・ルーマニア	脇本(社1)・佐藤(社1)・梅野(社1)
	1月6日～1月9日	日本学生氷上競技選手権大会(ホッケー部門)	栃木県日光市	ベスト8
	1月6日～1月9日	日本学生氷上競技選手権大会(スピード部門)	栃木県日光市	500m3位・1000m5位:下向(社3) 10000m5位:黒岩(社2)
	1月6日～1月9日	日本学生氷上競技選手権大会(フィギュア部門)	栃木県宇都宮市スケートセンター	団体Aクラス3位:長谷川(社2)・池田(社2)・中村(社1) 団体Cクラス2位 女子Aクラス総合第7位:長谷川(社2) 女子Cクラス優勝:榎下(社1)
	1月26日～1月30日	国民体育大会冬季大会スケート競技会	代々木競技場第一体育館	
	5月25日	関東学生アイススケート選手権大会	東大和スケートセンター	
レスリング	9月14日～11月24日	関東大学アイスホッケーリーグ戦	ダイード・ドリコアイスアリーナ他	開催中
	4月27日～4月28日	JOC杯全日本ジュニア選手権大会	横浜文化体育館	男子グレコローマンスタイル50kg:有村(理工3)優勝, 女子51kg:宮原(社1)優勝, 女子63kg:鈴木紅(社1)準優勝, 男子グレコローマン96kg:鈴木勝(法2)3位
	5月14日～5月17日	東日本学生レスリングリーグ戦	駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館	団体:Aグループ7位
	6月12日～6月14日	東日本学生レスリング春季新人戦 ・女子選手権大会	駒沢体育館	グレコ・マンスタイル96kg級第1位黒木(法1)・フリースタイル120kg級第1位鈴木勝 (法2)・フリースタイル55kg級第3位山田(法2)・女子51kg級第2位野村(社1) ・女子63kg級第2位鈴木紅(社1)・女子67kg級第1位歌田(社4)
	6月15日～6月16日	全日本選抜レスリング選手権大会	国立代々木競技場第二体育館	女子51kg級第2位宮原(社1)・女子63kg級第3位歌田(社4)
	8月20日～8月23日	全日本学生レスリング選手権大会	駒沢体育館	フリースタイル96kg級 第3位 鈴木勝(済2)・女子63kg級 第3位 鈴木紅(社1)・女子63kg級 第2位 歌田(社4)
空 手 道	8月15日	世界ジュニア選手権大会	ブルガリア・ソフィア	女子51kg級第1位宮原(社1)・女子67kg級第3位鈴木紅(社1)
	9月16日～9月19日	2013世界レスリング選手権大会	ハンガリー・ブダペスト	女子51kg級 宮原(社1) 2回戦敗退
	10月5日	国民体育大会	日野市市民ふれあいホール	青年フリースタイル84kg級第3位:金光(済3)
	11月4日	関東学生空手道体重別大会	慶應義塾大学	
	11月18日	全日本学生空手道選手権大会	日本武道館	男女ともにベスト16
	5月5日	関東学生空手道選手権大会	日本武道館	男女ともに4回戦出場
ス キ ー	5月26日	東日本大学空手道選手権大会	愛知県体育館	○青山学院5.0・○立教3.1・●日本0.3・○青山学院3.0・○明海2.0・●日本0.2
	10月14日	関東学生空手道選手権大会	日本武道館	
相 撲	2月19日～2月25日	全日本学生スキー選手権大会	岩手県八幡台市周辺	1部第10位(残留)
	1月10日～11日	全国学生相撲選手権大会	両国国技館	団体:準優勝
	4月29日	全日本大学選抜相撲宇和島大会	宇和島市営体育館特設土俵	団体2位・個人戦 3位:芳賀(法4)
	5月3日	全国大学選抜相撲宇佐大会	宇佐市総合運動場宇佐相撲場	団体ベスト8
	5月5日	全国選抜大学・社会人対抗相撲九州大会	福岡久山相撲場	団体優勝・個人戦 優勝:天道(法3)
	5月19日	全国選抜大学・社会人対抗相撲和歌山大会	和歌山県営相撲場	個人戦優勝:天道(法3)
	6月2日	東日本選手権大会	両国国技館	団体3位
	7月14日	全日本大学選抜相撲金沢大会	金沢市卯辰山相撲場	団体第3位・個人戦 優勝:天道(法3)
	8月14日	全日本大学選抜相撲十和田大会	十和田市相撲場	団体4位
	8月31日	東日本学生相撲個人体重別選手権大会	靖国神社相撲場	135kg未満級 3位:岡田(法2) 135kg以上級 3位:中山(法4)
ボクシング	9月8日	全国選抜大学・実業団相撲刈谷大会	愛知県刈谷市体育館特設相撲場	団体ベスト8 個人戦 2位:天道(法3)
	5月11日～7月13日	関東大学ボクシングリーグ戦	後楽園ホール	5/11対東京農大●(0-9)・5/25対駒沢大○(6-3)・6/8対法政大○(8-1) 6/22対拓殖大●(3-6)・7/13対日本大●(4-5)
サ ッ カ ー	10月6日～8日	国民体育大会	日野市市民ふれあいホール	ライトウェルター級 第2位:金城(営2)
	4月6日～9月11日	2013関東大学サッカーリーグ1部(前期)	西が丘サッカー場他	前期:1勝5敗3分 勝ち点6(11位)
	6月1日～6月9日	2013アミバیتالカップ(総理大臣関東予選)	裾野グラウンド、味の素西が丘	6/1:東京農大○1-1(PK5-4) 6/3:流通経済大●2-3
サ ッ カ ー (女子部門)	9月4日～11月24日	2013関東大学サッカーリーグ1部(後期)	江戸川陸上競技場他	開催中
	6月2日～7月21日	第29回群馬県女子サッカー選手権大会 兼第35回関東女子サッカー選手権大会群馬県予選会	県営サッカー場・ 東洋大学グラウンド他	団体:ベスト8
	8月24日～11月9日	関東大学サッカーリーグ戦2部	東洋大学グラウンド他	開催中

※学年の表記は大会時の学年とする。

平成25年10月14日現在

学生部スポーツ振興課

文化系サークル活動状況(2012年11月1日~2013年10月31日)

団体名	企画名称	場 所	日 時
グルービーサウンスジャズ オーケストラ	太田市大学ジャズフェスティバル	太田市新田総合体育館	2012年12月2日
	第41回リサイタル	江古田Buddy	2012年12月23日
	スターダストジャズタイム	埼玉県富士見市民文化会館	2013年5月19日
	東芝国明コンサート	井上門了ホール	2013年5月26日
	フォーブラザーズビッグバンドコンサート	新橋ヤクルトホール	2013年6月15日
	トライアングルサウンスコンサート	青山学院大学	2013年6月29日
ギターアンサンブル	川越ジャズフェスティバル	川越市民会館	2013年9月21日
	創立50周年記念式典	白山キャンパス スカイホール	2012年11月23日
	第49回定期演奏会	久喜総合文化会館	2012年12月15日
	第48回関東学生ギター連盟定期演奏会	川口リリアホール	2013年6月29日
吹奏楽研究部	独重総会	所沢MUSE	2013年10月5日
	第50回定期演奏会	三郷市文化会館	2012年12月24日
	朝霞市吹奏楽・器楽フェスティバル	朝霞市民会館ゆめばれす	2013年1月20日
	サマーコンサート2013	朝霞市民会館ゆめばれす	2013年6月30日
東洋大学管弦楽団	東京都大学吹奏楽コンクール	江戸川区総合文化センター	2013年8月24日
	第70回定期演奏会	和光市民文化センターサンアゼリア	2012年12月24日
	朝霞市成人式依頼演奏	朝霞市民会館ゆめばれす	2013年1月9日
	第71回定期演奏会	和光市民文化センターサンアゼリア	2013年6月9日
	志賀高原カレッジコンサート	志賀高原総合会場	2013年8月31日
白山グリーンクラブ	第19回朝霞ファミリコンコンサート	朝霞第十小学校体育館	2013年10月5日
	第50回定期演奏会	杉並公会堂	2012年12月7日
混声合唱団	越路小学校依頼演奏	越路小学校	2013年9月3日
	第55回定期演奏会	めぐろパーシモンホール	2012年12月22日
	東京都合唱祭	新宿文化センター	2013年7月14日
マジシャンズソサイエティー	平和祈念式典	東洋大学白山キャンパス	2013年10月20日
	第49回学外発表会	板橋区立文化会館小ホール	2013年10月12日

体育後援会に更なるご支援のお願い

東洋大学の学生スポーツ界は、近年広範にわたる分野で目ざましい活躍が見られ、マスメディアでも大きく取り上げられ注目を集めています。

東洋大学体育後援会はこれらの学生スポーツ活動を支援するために、昭和47年に大学・甫水会・校友会により結成されましたが、平成21年4月からは甫水会と校友会の二者共同運営になり、両本部の財源からの拠出金と、校友会会員を中心とする一般からの募金によって賄われています。

学生スポーツクラブへの体育後援会の支援は、大学公認サークルを対象とし、選手たちが少しでも良い環境の中で安心して練習に取り組み、充実した成果が発揮できるよう、選手たちの遠征や合宿費用の補助、コーチ活動への支援費用や、優秀団体や活躍した選手の褒章などとして活用されています。

近年募金金額は伸び悩み状況にありますが、体育後援会が

学生のスポーツ振興に対して役割を担い続けるためには、援助金の確保が必要になってきます。校友会も会員に支部総会や『校友会報』などを通して機会あるごとに協力を要請しておりますが、甫水会員のみならずにも一層の温かいご支援ご協力をいただきたくよろしくお願い申し上げます。

私たちは東洋大学のスポーツ活動が、教育活動の一環であると認識し、体育後援会はこれからも変わらぬ熱い支援を行ってまいります。

今後も学生たちがすべての分野で、目ざましい活躍を見せてくれることを期待してやみません。

(2013年10月20日)

東洋大学体育後援会 東洋大学校友会
会長 羽島知之

東洋大学甫水会報 「東洋」通巻一五三
発行日 平成25年11月30日
発行人 甫水会会長 村田 薫
発行所 東洋大学甫水会
東京都文京区本駒込1-10-2
郵便番号113-0021 甫水会館5階
電話 (03) 3945-0123
FAX (03) 3942-7612
印刷所 株式会社エフエムディービー



東洋大学法科大学院(「法廷教室」風景)

東洋大学法科大学院では、これまでに、本学法学部を卒業とともに法科大学院に進学し、修了直後の試験で合格された野口真寿さんを含む、50名の司法試験合格者を輩出しました。

*参考:法科大学院出願には、例年4月から受付が開始される「法科大学院全国統一適性試験」の受験が必要です。

甫水会からのお願い

保証人住所変更手続きについて

転居等により保証人住所・電話番号を変更された場合には、ご子
女に東洋大学ホームページサイト『T o y o N e t - G』（とよねっ
とじー）で変更手続きを行うようにお伝え下さい。

この手続きで「甫水懇談会」・「支部総会」・「会員の集い・就職活
動フォーラム」・「会報 東洋」等、甫水会 及び 会員の皆様が所属
する支部からのすべての送付物のあて先に反映されます。

なお、甫水会では、電話・F A X・メール等による変更手続きは
受け付けられませんので、ご了承のほどお願い申し上げます。

教務担当窓口へ提出 もしくは 『ToyoNet-G』 からの変更
をお願い致します。

東洋大学甫水会

〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-10-2(甫水会館 5階)

TEL : 03-3945-0123 FAX : 03-3942-7612

E-mail : hosui@toyo.jp

東洋大学雨水会

〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2(雨水会館5階)
TEL.03-3945-0123 FAX.03-3942-7612
メールアドレス hosui@toyo.jp

発行日 平成25年11月30日 編集・発行 東洋大学雨水会

写真提供: 東洋大学広報課